

# 資料・分析データ編

---

資料・解説編

資料・分析データ編

- └ I. 石狩市の概況
- └ II. 各種データ



## I. 石狩市の概況

### (1) 石狩市の位置

石狩市は、道央圏の日本海側に位置し、東西に28.88km、南北に67.04kmと、南北に長い形状で、総面積は722.42km<sup>2</sup>となっています。西側は、日本海に面し、北部には森林豊かな丘陵地帯、南部には石狩川流域に広がる石狩平野があり、自然資源に恵まれています。

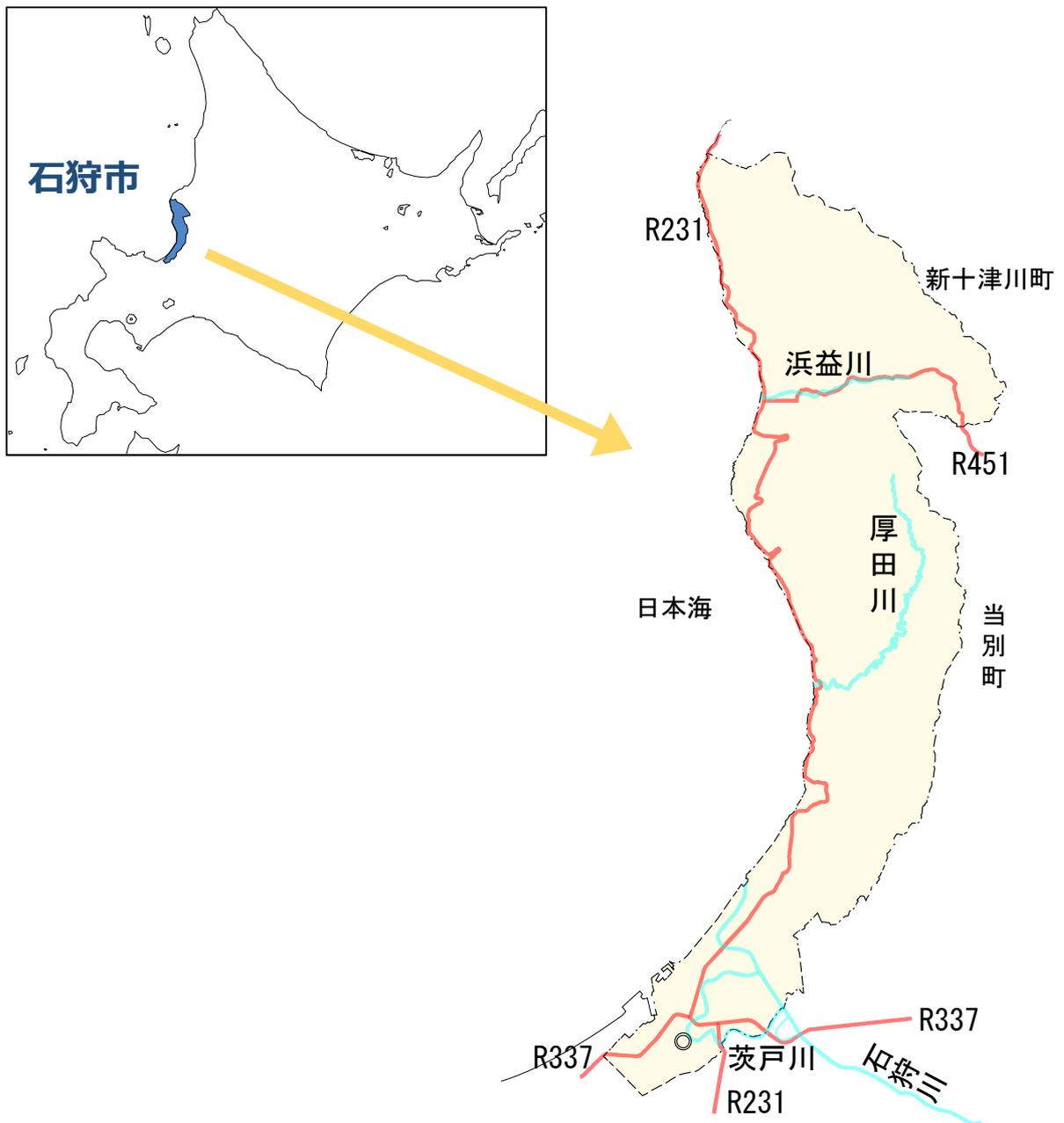


図 石狩市の位置

## (2) 歴史

石狩市は、17世紀初頭の慶長年間、松前藩によりサケの交易の場所に指定され、交易・交通の要所として発展してきました。

明治時代には、花畔村、生振村、樽川村という3つの村ができ、近代的な開拓が始まり畑作・酪農が盛んに行われるようになりました。明治35年には石狩町、花川村の2級町村制、明治40年には石狩町と花川村が合併して石狩町とし、一級町村制を実施しました。

昭和に入ると、砂地の水田耕作に成功し、大規模な造田工事が進み、道央の穀倉地となっています。

昭和40年代から花川を中心に札幌市のベッドタウンとして大規模住宅地の開発が進み、昭和45年に1万人ほどだった人口は、昭和59年には4万人、平成4年には5万人に増加しています。

また、昭和48年着工の石狩湾新港開発は、昭和57年に第一船が入港し、その後、重要港湾としての物流の拠点を担うことはもちろん、現在はLNGやLPG、太陽光や風力、バイオマスなどエネルギーの供給拠点としても注目を集めています。

平成8（1996）年9月1日には、石狩町は「石狩市」となり市制が施行され、平成17年10月1日には、旧厚田村と旧浜益村との合併により、現在の石狩市が誕生しました。



図 村垣氏西蝦夷巡回図（幕末）※

※ 現在の石狩川河口の本町、弁天町付近を描いたとされる。

（資料：石狩市HP）

### (3) 気候

石狩市は、温かい対馬海流の影響で、道内の内陸部と比較すると温暖な気候となっています。海に面して平野が広く土地が平坦なため、海岸気候の影響を受け、季節風が吹きます。平均風速は3 m前後ですが、強い季節風が吹きます。

厚田地区・浜益地区は、特別豪雪地帯となっています。

表 石狩市の気候

地域	年度	気温 (°C)			降水量 (mm)	最深積雪 (cm)	日照時間 (h)	平均風速 (m/s)
		平均	最高	最低				
石狩	昭和53年	7.6	33.2	-22.1	918.0	-	2309.3	4.0
	昭和58年	7.4	31.7	-15.5	764.0	-	2018.4	4.4
	昭和63年	7.6	29.9	-15.7	934.0	136	2295.3	4.3
	平成5年	8.2	32.1	-19.7	1214.5	130	1700.0	2.6
	平成10年	7.4	30.3	-22.1	955.0	112	1522.4	3.1
	平成15年	7.2	27.7	-21.4	843.0	100	1596.8	2.7
	平成20年	8.3	31.6	-19.7	651.0	121	1770.1	2.5
	平成25年	8.0	32.7	-18.6	1134.0	179	1571.0	2.7
	平成30年	8.2	32.1	-19.7	1214.5	130	1700.0	2.6
厚田	昭和53年	7.1	32.9	-20.1	935.0	-	2220.7	3.9
	昭和58年	7.1	31.2	-16.2	1014.0	85	1984.0	3.9
	昭和63年	7.3	31.2	-16.4	1090.0	97	1387.0	4.0
	平成5年	8.3	33.7	-16.8	1360.5	157	1535.5	3.7
	平成10年	7.7	29.6	-20.2	1226.0	100	1417.5	3.6
	平成15年	7.6	27.9	-18.8	872.0	109	1393.8	3.5
	平成20年	10.6	31.3	-12.0	745.5	118	1420.4	3.3
	平成25年	7.9	31.6	-17.4	1209.5	187	1451.3	3.3
	平成30年	8.3	33.7	-16.8	1360.5	157	1535.5	3.7
浜益	昭和53年	7.8	32.2	-21.0	1082.0	-	2061.3	3.3
	昭和58年	7.7	32.2	-15.6	1081.0	-	1879.4	3.9
	昭和63年	7.9	30.7	-16.3	1234.0	-	1874.3	3.9
	平成5年	8.6	31.7	-16.4	1075.0	-	1477.8	4.7
	平成10年	8.4	30.0	-18.9	1114.0	-	1419.3	3.9
	平成15年	8.2	27.5	-20.3	943.0	-	1455.1	3.5
	平成20年	8.5	32.0	-18.2	1019.0	-	1625.1	3.7
	平成25年	8.5	32.1	-15.6	1125.5	-	1396.7	4.8
	平成30年	8.6	31.7	-16.4	1075.0	-	1477.8	4.7

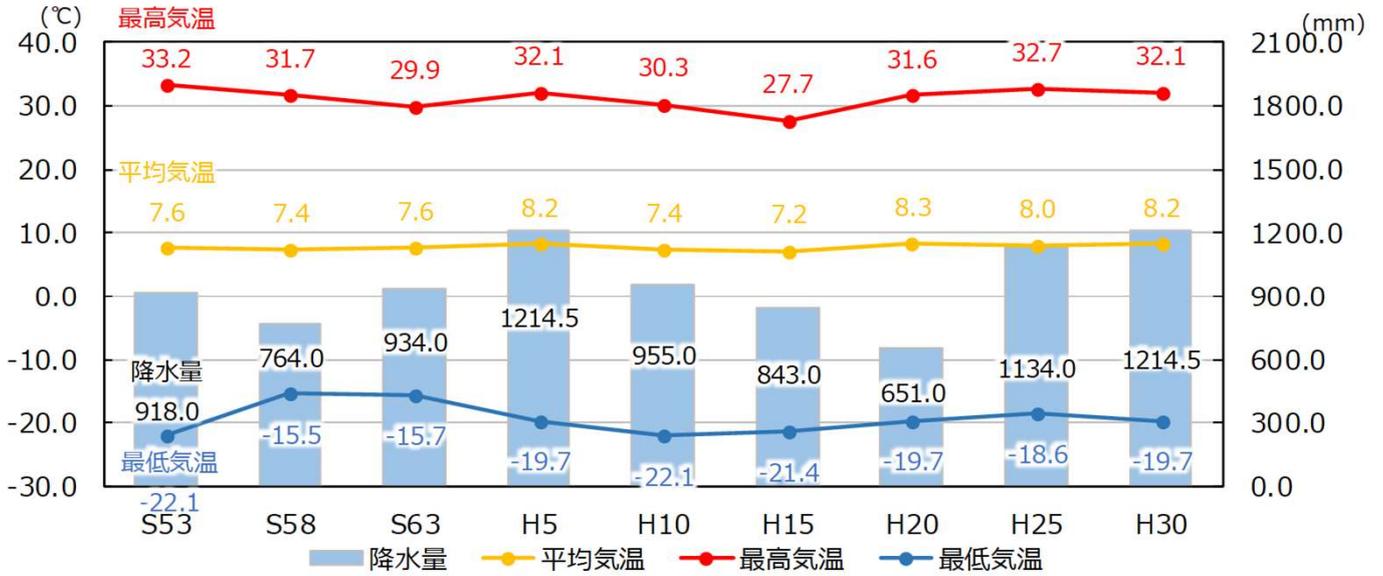


図 石狩の気候

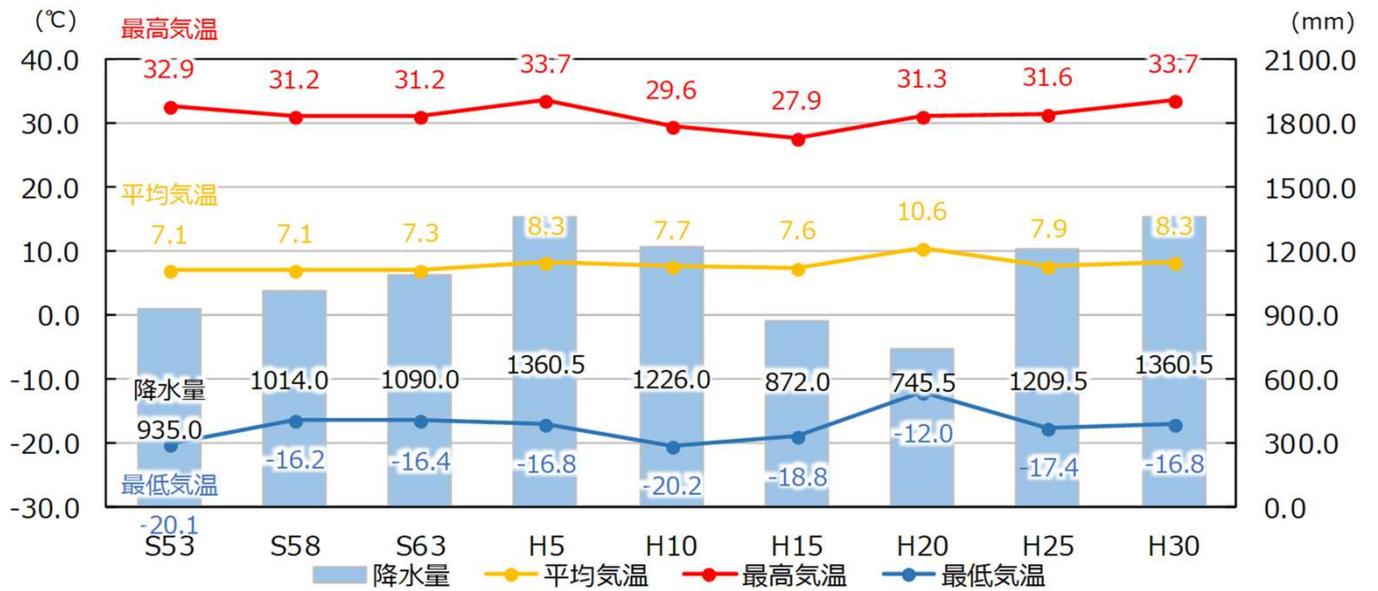


図 厚田の気候

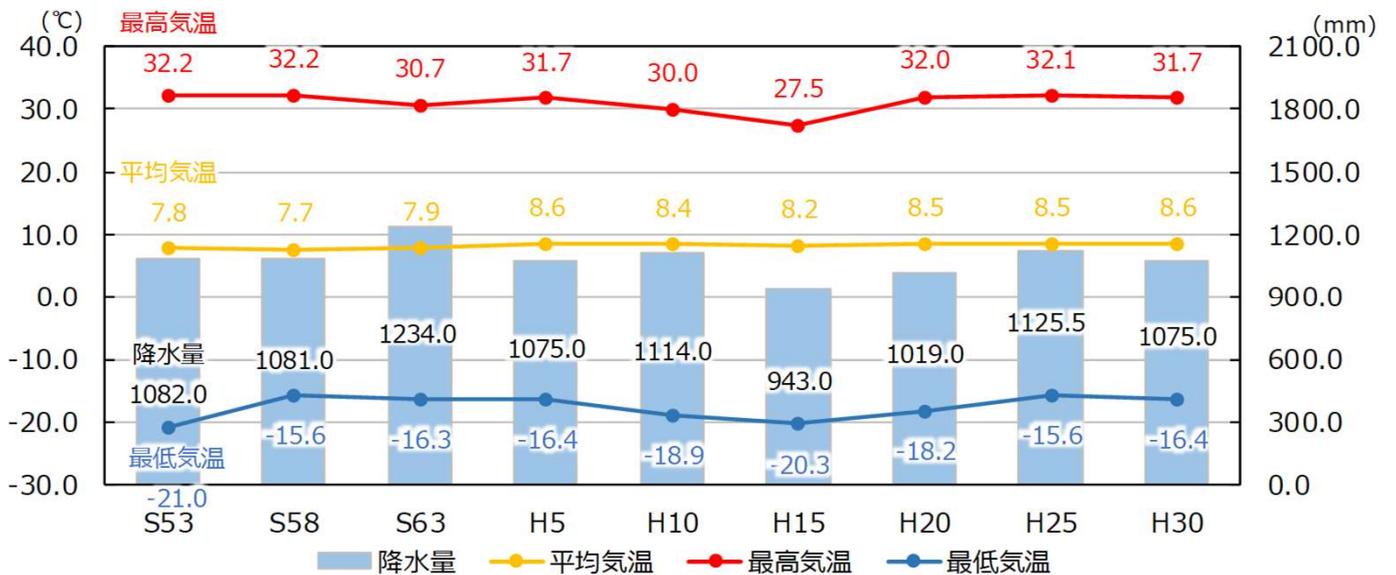


図 浜益の気候

## (4) 土地利用

石狩市の土地利用は、「その他（国有林等）」が最も多く、約3分の2近くなっています。

平成17年の行政区域は、11,785.5haで、「田畑」の割合が最も多く、3,367.9ha（28.6%）となっています。次いで「宅地」が1,578.7ha（13.4%）となっています。

平成17年10月には、旧石狩市と旧厚田村、旧浜益村が合併し、行政区域は、平成18年に72,186.0ha、平成29年には72,242.0haと、面積は約6倍に増加しています。

「その他（国有林等）」は、平成17年には3,684.0ha（31.3%）でしたが、合併後に大きく増加し、平成18年には47,331.3ha（65.6%）、平成29年には47,528.0ha（65.8%）と、土地利用のうち最も多くなっています。

「山林」については、平成17年には595.5ha（5.1%）でしたが、合併後に大きく増加し、平成18年には9,536.0ha（13.2%）、平成29年には9,757.0ha（13.5%）となっています。

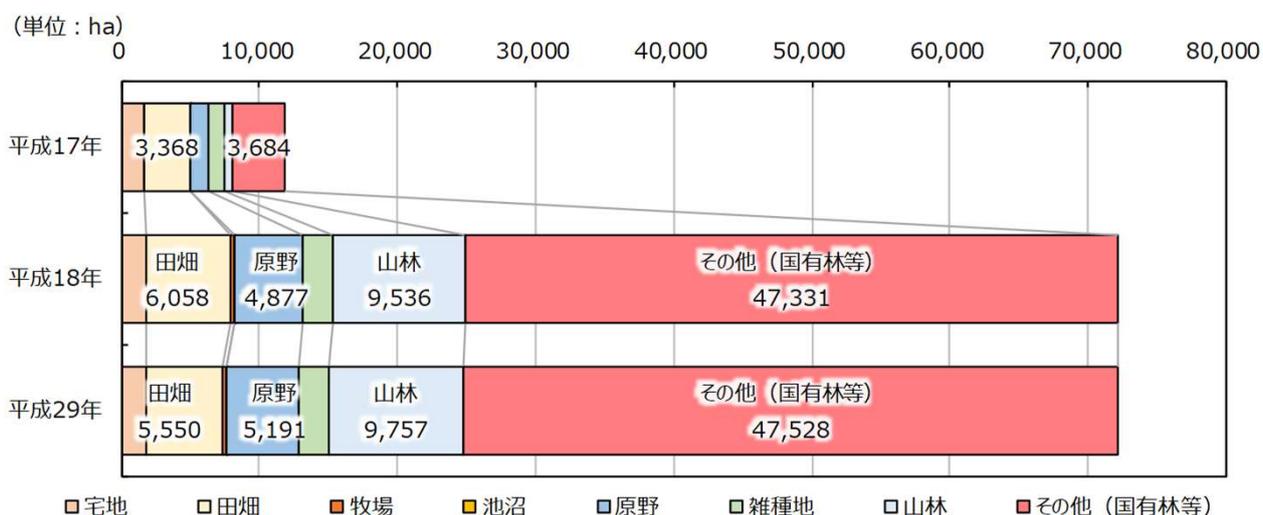


図 石狩市の土地利用（地目別面積の推移）

表 石狩市の土地利用（地目別面積の推移）

(単位：ha、%)

種別	平成17年 (合併以前)		平成18年 (合併以後)		平成29年	
	面積	割合	面積	割合	面積	割合
宅地	1,578.7	13.4%	1,802.5	2.5%	1,794.4	2.5%
田畑	3,367.9	28.6%	6,057.9	8.4%	5,549.8	7.7%
牧場	50.5	0.4%	322.2	0.4%	285.1	0.4%
池沼	2.8	0.0%	10.4	0.0%	10.3	0.0%
原野	1,301.1	11.0%	4,877.3	6.8%	5,190.9	7.2%
雑種地	1,205.0	10.2%	2,248.4	3.1%	2,126.5	2.9%
山林	595.5	5.1%	9,536.0	13.2%	9,757.0	13.5%
その他（国有林等）	3,684.0	31.3%	47,331.3	65.6%	47,528.0	65.8%
合計	11,785.5	100.0%	72,186.0	100.0%	72,242.0	100.0%

## (5) 人口

石狩市の人口は、減少しており、今後も減少傾向が続くと推計されています。

本市の人口は、1990年には53,143人でしたが、市街地の宅地造成や石狩湾新港の発展等により、2005年60,104人まで人口は増加しています。

しかしながら、それ以降人口は減少に転じており、2015年には57,436人となっています。

国立社会保障・人口問題研究所が2018年に示した「日本の市区町村別将来推計人口」によると、今後も人口減少が続き、2040年には41,384人に減少すると推計されています。(2005年のピーク時と比較すると-18,720人 -31.1%)

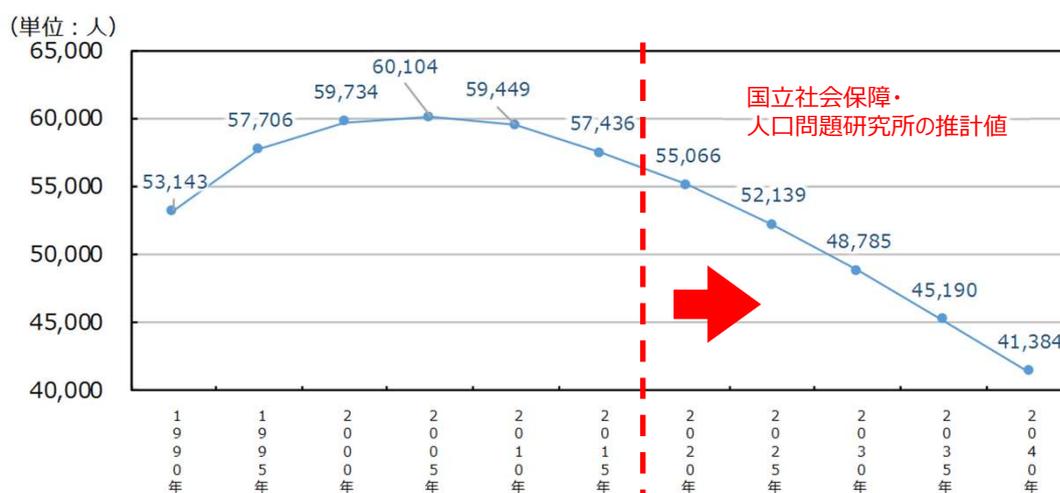


図 石狩市の人口

表 石狩市の人口 (単位: 人、%)

年度	旧石狩市	厚田区	浜益区	合計
1990年	47,339	3,022	2,782	53,143
	89.1%	5.7%	5.2%	100.0%
1995年	52,209	2,947	2,550	57,706
	90.5%	5.1%	4.4%	100.0%
2000年	54,567	2,804	2,363	59,734
	91.3%	4.7%	4.0%	100.0%
2005年	55,566	2,565	1,973	60,104
	92.4%	4.3%	3.3%	100.0%
2010年	55,577	2,217	1,655	59,449
	93.5%	3.7%	2.8%	100.0%
2015年	54,181	1,927	1,328	57,436
	94.3%	3.4%	2.3%	100.0%
2020年	52,044	1,780	1,242	55,066
	94.5%	3.2%	2.3%	100.0%
2025年	49,420	1,625	1,094	52,139
	94.8%	3.1%	2.1%	100.0%
2030年	46,371	1,460	954	48,785
	95.1%	3.0%	2.0%	100.0%
2035年	43,072	1,305	813	45,190
	95.3%	2.9%	1.8%	100.0%
2040年	39,542	1,154	688	41,384
	95.5%	2.8%	1.7%	100.0%

国立社会保障・人口問題研究所の推計値

## (6) 年齢構造

石狩市の年齢構造は、「65歳以上」の老年人口が増加しています。

老年人口は、1990年は5,763人（10.8%）でしたが、増加傾向にあり、2015年には17,253人（30.0%）となっています。

「0～14歳」の年少人口については、1990年11,550人（21.7%）でしたが、その後減少し、2015年には、7,415人（12.9%）となっています。

「15～64歳」の生産年齢人口は、1990年の35,822人（67.4%）から2000年には40,934人（69.0%）まで増加しますが、その後減少に転じ、2015年に32,768人（57.1%）となっています。

国立社会保障・人口問題研究所が示した『日本の市区町村別将来推計人口』（平成20年12月推計）によると、高齢化がさらに進行し、2040年には老年人口が、18,895人（45.7%）と、生産年齢人口（18,790人、45.4%）を上回り、最も大きくなると推計されています。

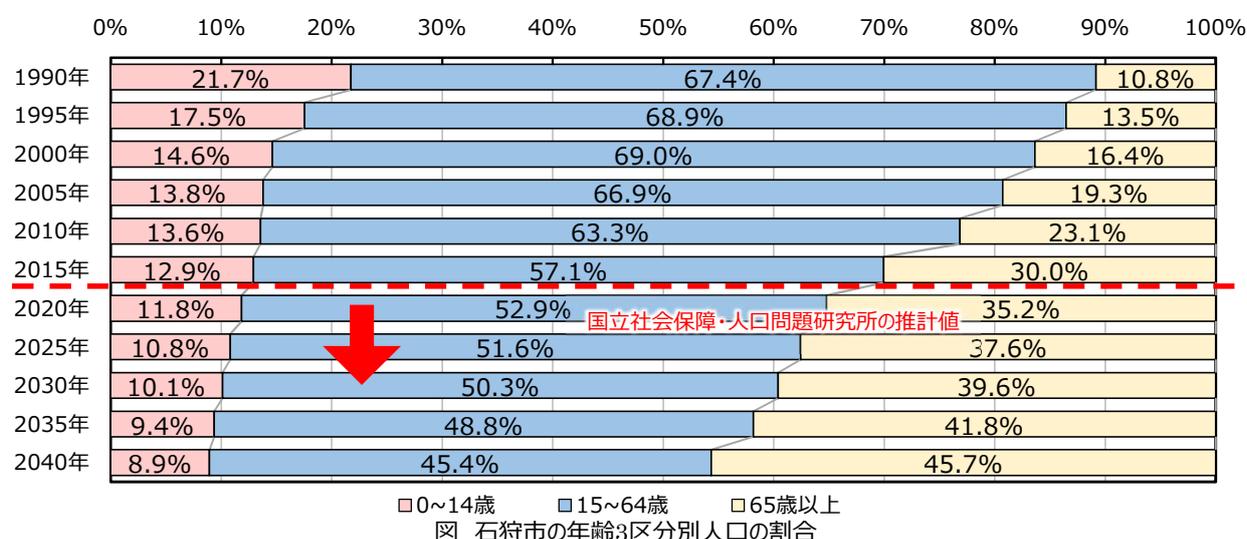


表 石狩市の年齢3区分別人口（不詳を除く）（単位：人、%）

年度	0~14歳	15~64歳	65歳以上	合計
1990年	11,550	35,822	5,763	53,135
	21.7%	67.4%	10.8%	100.0%
1995年	10,117	39,774	7,813	57,704
	17.5%	68.9%	13.5%	100.0%
2000年	8,688	40,934	9,701	59,323
	14.6%	69.0%	16.4%	100.0%
2005年	8,284	40,225	11,591	60,100
	13.8%	66.9%	19.3%	100.0%
2010年	8,063	37,624	13,761	59,448
	13.6%	63.3%	23.1%	100.0%
2015年	7,415	32,732	17,229	57,376
	12.9%	57.0%	30.0%	100.0%
2020年	6,520	29,147	19,399	55,066
	11.8%	52.9%	35.2%	100.0%
2025年	5,637	26,913	19,589	52,139
	10.8%	51.6%	37.6%	100.0%
2030年	4,931	24,531	19,323	48,785
	10.1%	50.3%	39.6%	100.0%
2035年	4,231	22,056	18,903	45,190
	9.4%	48.8%	41.8%	100.0%
2040年	3,699	18,790	18,895	41,384
	8.9%	45.4%	45.7%	100.0%

国立社会保障・  
人口問題研究所の推計値

## (7) 人口動態

石狩市の人口動態は、「自然減」の傾向が続いています。

「自然動態」については、平成17年以降、「死亡」数が「出生」数を上回っており、平成29年には-369人の「自然減」となっています。

「社会動態」については、平成19年まで「転入」数が「転出」数を上回り、「社会増」となっていました、平成20年以降は、増減を繰り返し、平成29年には-89人の「社会減」となっています。

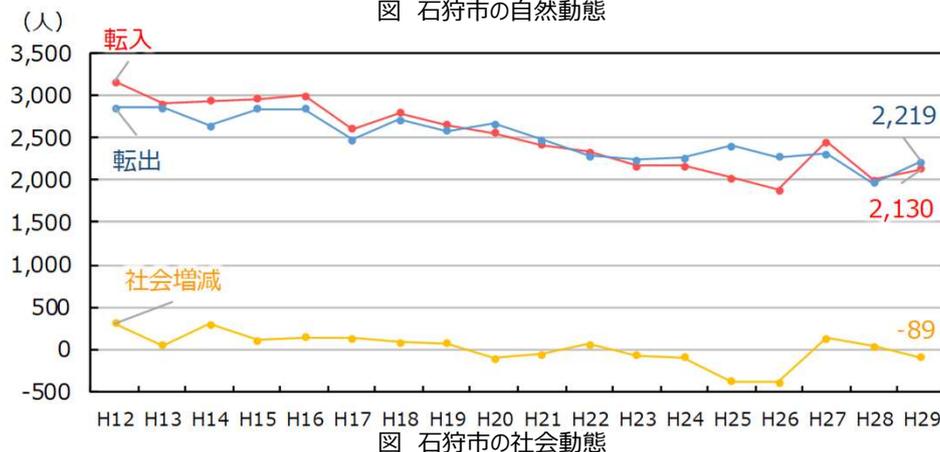
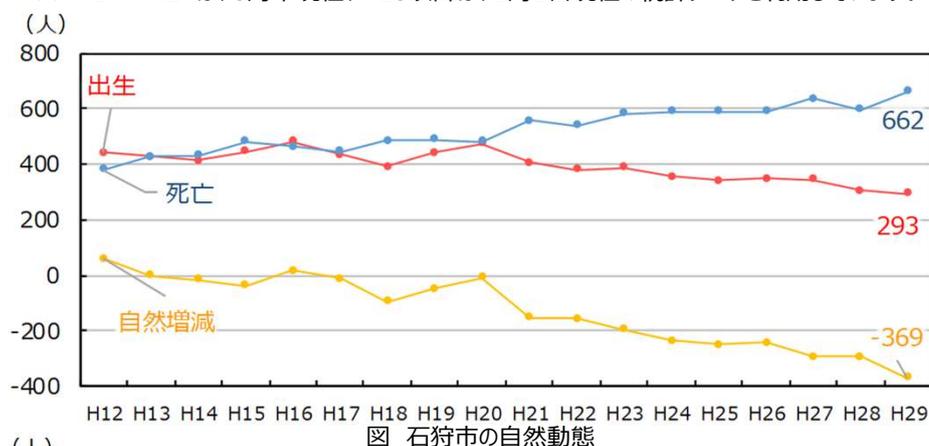
表 石狩市の自然動態 (単位：人)

年度	出生	死亡	自然増減
H12	442	382	60
H13	428	428	0
H14	415	430	-15
H15	446	483	-37
H16	480	464	16
H17	434	446	-12
H18	392	486	-94
H19	441	490	-49
H20	473	481	-8
H21	406	556	-150
H22	382	538	-156
H23	387	582	-195
H24	357	590	-233
H25	340	588	-248
H26	349	589	-240
H27	346	638	-292
H28	306	597	-291
H29	293	662	-369

表 石狩市の社会動態 (単位：人)

年度	転入	転出	社会増減
H12	3,165	2,852	313
H13	2,901	2,853	48
H14	2,935	2,640	295
H15	2,956	2,847	109
H16	2,991	2,847	144
H17	2,607	2,475	132
H18	2,793	2,712	81
H19	2,657	2,583	74
H20	2,560	2,665	-105
H21	2,417	2,471	-54
H22	2,339	2,284	55
H23	2,162	2,234	-72
H24	2,169	2,261	-92
H25	2,023	2,399	-376
H26	1,885	2,274	-389
H27	2,450	2,314	136
H28	2,002	1,969	33
H29	2,130	2,219	-89

※ H17～H24は、3月末現在、H25以降は、1月1日現在の統計データを利用しています。



## (8) 世帯

### ① 世帯数

石狩市の世帯数（一般世帯と施設等の世帯（※）の合計）は、「旧石狩市」の世帯数が増加し、市全体として微増となっています。

石狩市全体の世帯数は、平成2年に16,205世帯でしたが、増加傾向にあり、平成27年には22,632世帯となっています。

「旧石狩市」の世帯数は、平成2年に14,126世帯でしたが、平成27年には21,096世帯と増加傾向が続いています。「厚田区」「浜益区」については、ともに平成12年まで世帯数は増加していますが、それ以降は減少傾向にあります。

※施設等の世帯・・・「寮・寄宿舎の学生・生徒」、「病院・療養所の入院者」、「社会施設の入所者」、「自衛隊営舎内居住者」、「矯正施設の入所者」、「定まった住居を持たない単身者や陸上に生活の本拠を有しない船舶乗組員など」を指す

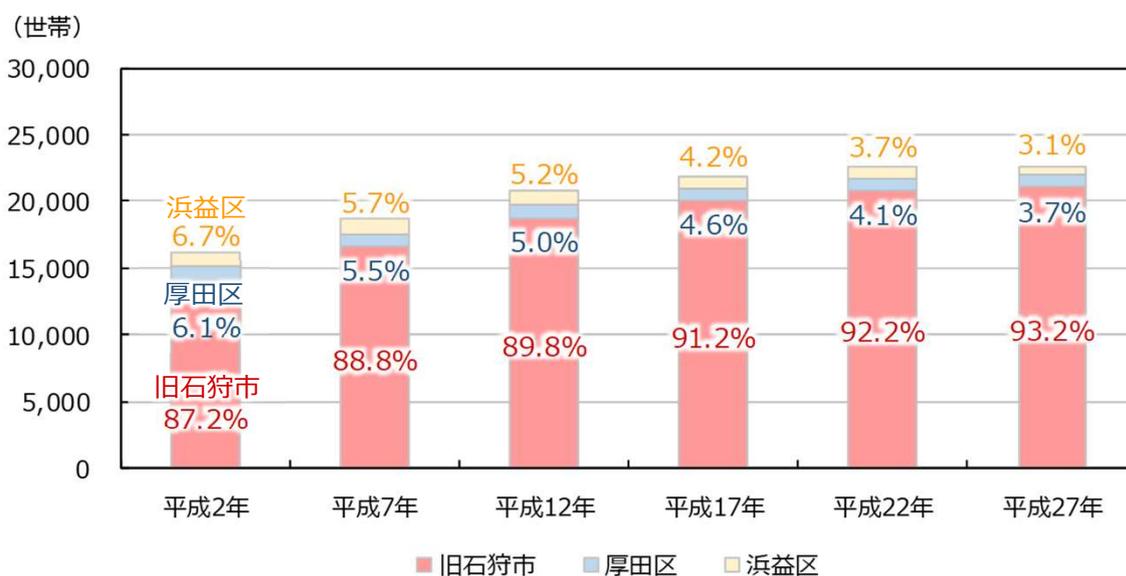


図 石狩市の世帯数割合

表 石狩市の世帯

(単位：世帯)

年度	旧石狩市	厚田区	浜益区	石狩市全体
平成2年	14,126	995	1,084	16,205
平成7年	16,549	1,027	1,066	18,642
平成12年	18,688	1,032	1,091	20,811
平成17年	20,004	1,006	915	21,925
平成22年	20,851	918	834	22,603
平成27年	21,096	839	697	22,632

## ②世帯人員

石狩市の一般世帯の人員は、「2人世帯」と「1人世帯」が多く、増加傾向にあります。

「2人世帯」は、平成2年には3,863世帯（24.0%）でしたが、平成7年に4,979世帯（26.8%）となり、世帯人員の中で最も多くなっています。その後も増加傾向が続き、平成27年には、8,016世帯（35.5%）となっています。

「1人世帯」は、平成2年には1,684世帯（10.5%）でしたが、増加傾向にあり、平成27年には5,142世帯（22.8%）となっています。

その他3人以上の世帯人員については、それぞれ減少傾向となっています。

石狩市全体の1世帯当たりの人員は、平成2年は3.28人でしたが、減少傾向にあり、平成27年には2.54人となっています。その他の1世帯当たりの人員については、平成27年に「旧石狩市」が2.57人、「厚田区」が2.30人、「浜益区」は1.91人となっています。

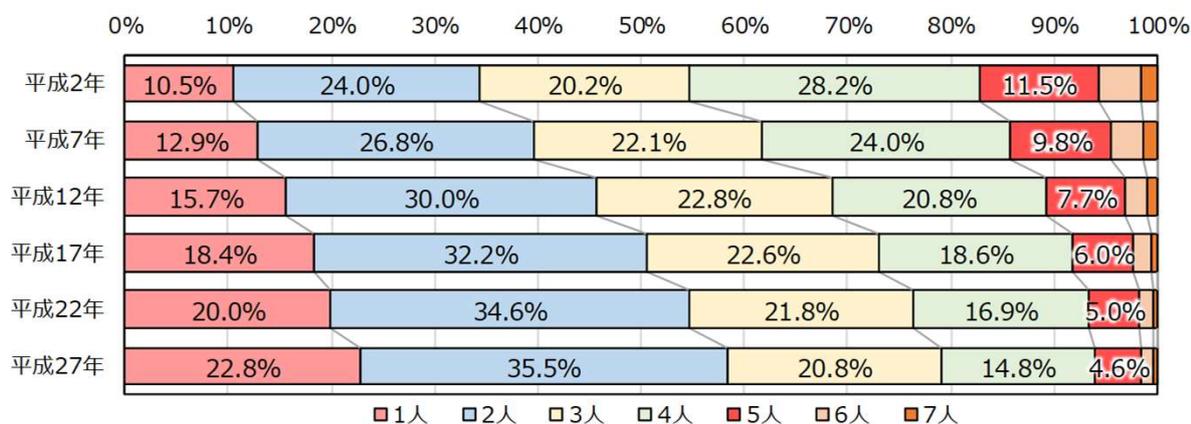
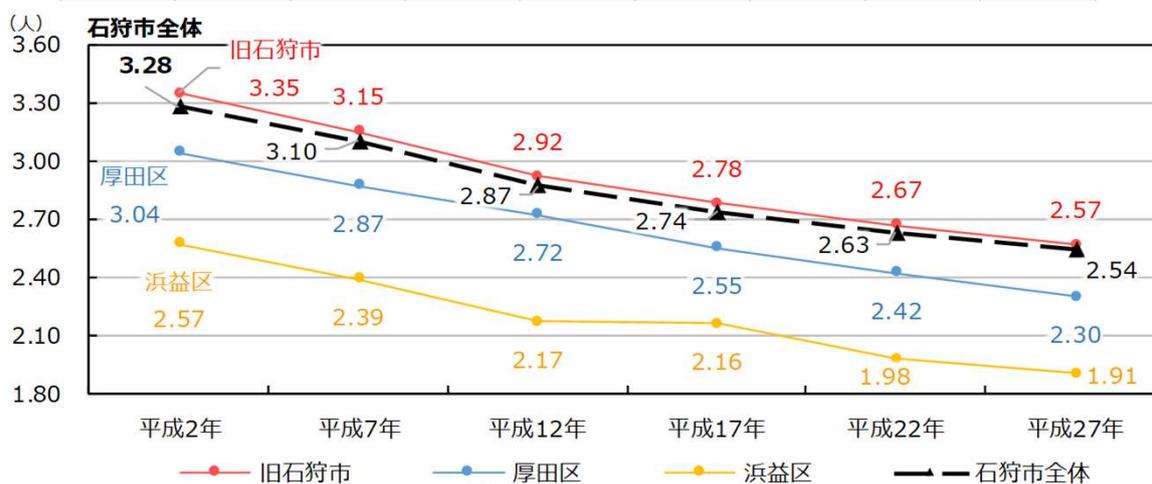


表 石狩市の世帯人員

(単位：世帯)

年度	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人～	合計
平成2年	1,684	3,863	3,248	4,543	1,848	655	265	16,106
	10.5%	24.0%	20.2%	28.2%	11.5%	4.1%	1.6%	100.0%
平成7年	2,392	4,979	4,108	4,472	1,823	576	246	18,596
	12.9%	26.8%	22.1%	24.0%	9.8%	3.1%	1.3%	100.0%
平成12年	3,202	6,129	4,673	4,248	1,573	445	187	20,457
	15.7%	30.0%	22.8%	20.8%	7.7%	2.2%	0.9%	100.0%
平成17年	4,013	7,035	4,936	4,073	1,313	359	140	21,869
	18.4%	32.2%	22.6%	18.6%	6.0%	1.6%	0.6%	100.0%
平成22年	4,500	7,803	4,914	3,801	1,117	294	104	22,533
	20.0%	34.6%	21.8%	16.9%	5.0%	1.3%	0.5%	100.0%
平成27年	5,142	8,016	4,689	3,333	1,035	249	98	22,562
	22.8%	35.5%	20.8%	14.8%	4.6%	1.1%	0.4%	100.0%



### ③世帯構成

石狩市の一般世帯の世帯構成は、「夫婦と子世帯」が減少し、「夫婦のみ世帯」と「単身世帯」が増加しています。

「夫婦と子世帯」は、世帯構成の中で最も多く、平成2年に7,808世帯（48.5%）となっています。平成27年には、6,997世帯（31.0%）と減少傾向となっています。

「夫婦のみ世帯」は、平成2年の3,236世帯（20.1%）でしたが、増加が続き、平成27年には、6,190世帯（27.4%）となっています。

「単身世帯」は、平成2年の1,684世帯（10.5%）でしたが、増加傾向が続き、平成27年には、5,142世帯（22.8%）となっています。

その他「ひとり親と子世帯」「その他世帯」については微増、「夫婦子供と親世帯」は減少しています。

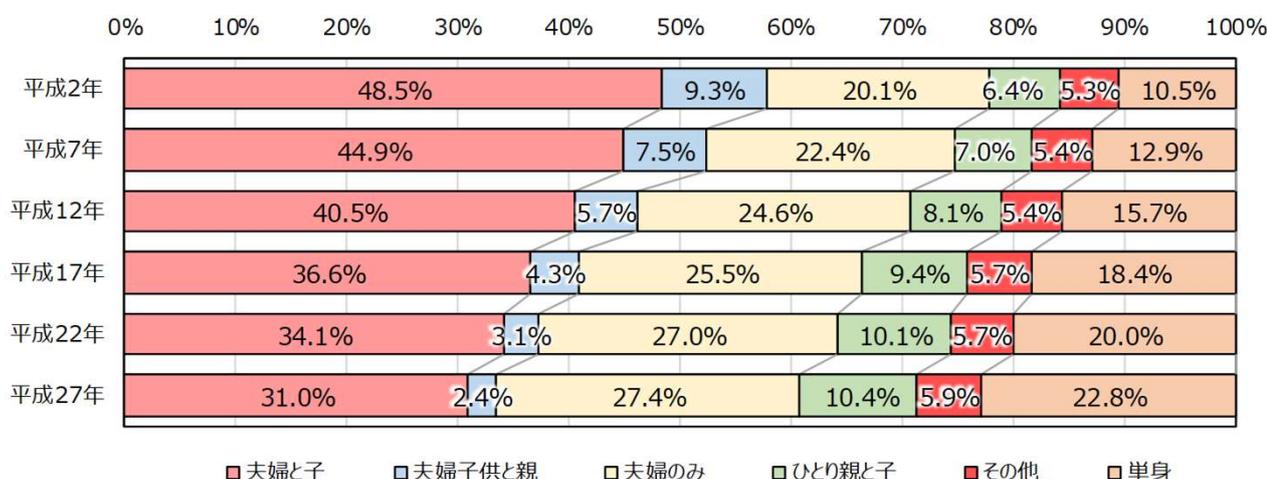


表 石狩市の世帯構成割合

表 石狩市の世帯構成

(単位：世帯)

年度	夫婦と子	夫婦子供と親	夫婦のみ	ひとり親と子	その他	単身	合計
平成2年	7,808	1,501	3,236	1,024	853	1,684	16,106
	48.5%	9.3%	20.1%	6.4%	5.3%	10.5%	100.0%
平成7年	8,350	1,403	4,158	1,294	999	2,392	18,596
	44.9%	7.5%	22.4%	7.0%	5.4%	12.9%	100.0%
平成12年	8,287	1,171	5,026	1,661	1,110	3,202	20,457
	40.5%	5.7%	24.6%	8.1%	5.4%	15.7%	100.0%
平成17年	8,013	942	5,583	2,064	1,254	4,013	21,869
	36.6%	4.3%	25.5%	9.4%	5.7%	18.4%	100.0%
平成22年	7,695	695	6,094	2,269	1,280	4,500	22,533
	34.1%	3.1%	27.0%	10.1%	5.7%	20.0%	100.0%
平成27年	6,997	547	6,190	2,356	1,330	5,142	22,562
	31.0%	2.4%	27.4%	10.4%	5.9%	22.8%	100.0%

#### ④ 高齢世帯

石狩市の高齢世帯について、「高齢者のいない世帯」が大きく減少し、「高齢夫婦世帯」「高齢者のいる世帯」「高齢単身世帯」は、増加しています。

「高齢者のいない世帯」は、平成2年に12,148世帯（75.4%）と世帯の中で最も多くなっています。しかしながら、平成27年には、11,813世帯（52.4%）と減少傾向になっています。

その他、「高齢夫婦世帯」「高齢者のいる世帯」「高齢単身世帯」については、増加しています。

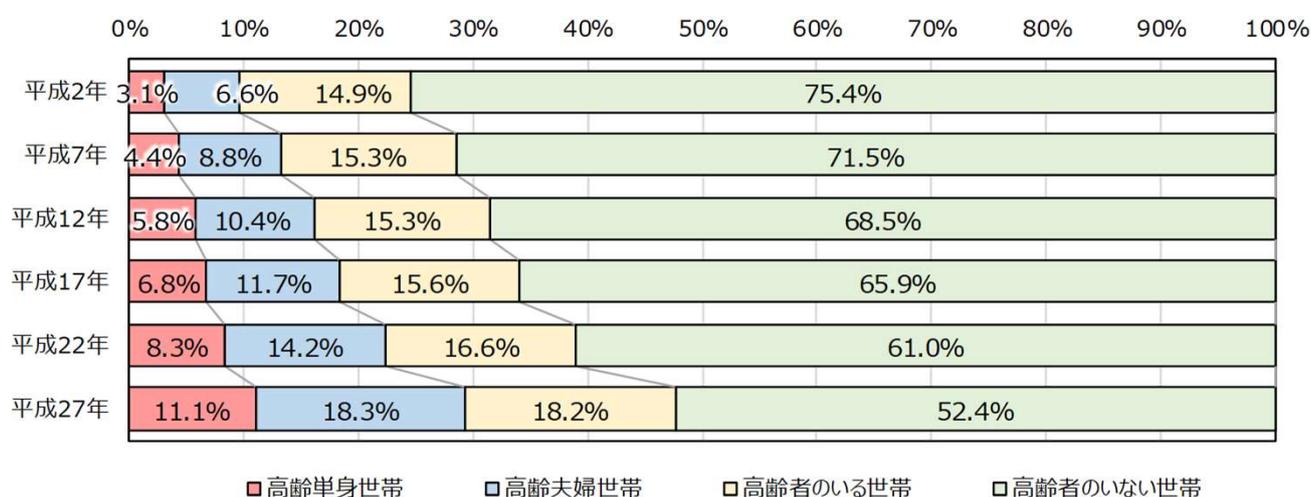


図 石狩市の高齢世帯

表 石狩市の高齢世帯

(単位：世帯)

年度	高齢単身世帯	高齢夫婦世帯	高齢者のいる世帯	高齢者のいない世帯	合計
平成2年	498	1,058	2,402	12,148	16,106
	3.1%	6.6%	14.9%	75.4%	100.0%
平成7年	826	1,630	2,851	13,289	18,596
	4.4%	8.8%	15.3%	71.5%	100.0%
平成12年	1,182	2,132	3,128	14,015	20,457
	5.8%	10.4%	15.3%	68.5%	100.0%
平成17年	1,490	2,549	3,422	14,408	21,869
	6.8%	11.7%	15.6%	65.9%	100.0%
平成22年	1,874	3,192	3,732	13,735	22,533
	8.3%	14.2%	16.6%	61.0%	100.0%
平成27年	2,498	4,136	4,115	11,813	22,562
	11.1%	18.3%	18.2%	52.4%	100.0%

## (9) 産業

### ① 産業別就業者数

石狩市の産業別就業者数は、「第3次産業」の就業者数が最も多く、増加傾向にあります。

「第3次産業」は、石狩市の産業別で最も就業者数が多く、平成2年に14,481人（62.2%）となっています。その後、増加傾向が続き、平成27年には17,653人（71.2%）と増加しています。

その他、「第2次産業」「第1次産業」については、減少しています。

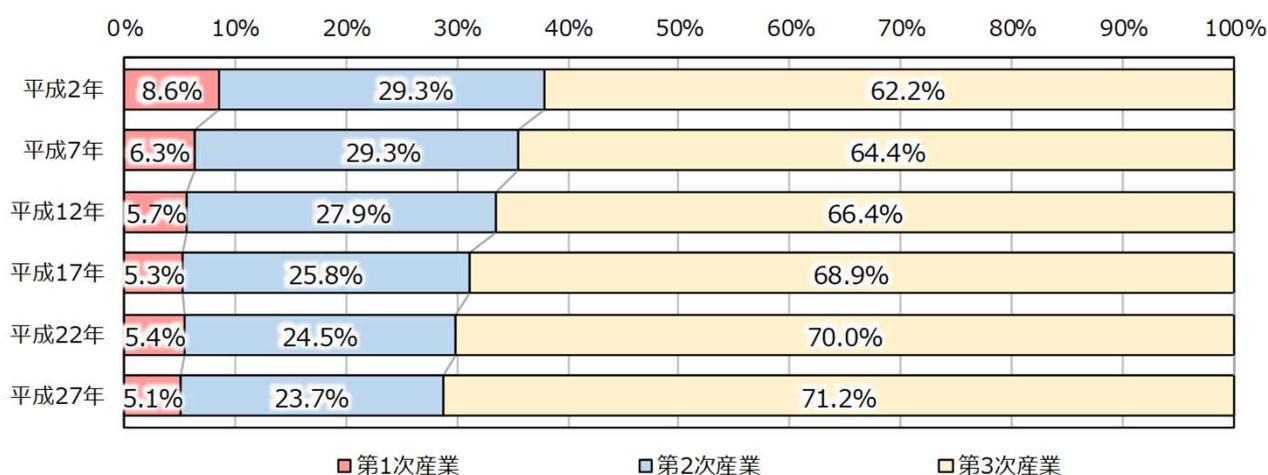


図 石狩市の産業別就業者数の割合

表 石狩市の産業別就業者数

(単位：人)

年度	第1次産業	第2次産業	第3次産業	合計
平成2年	1,994	6,817	14,481	23,292
	8.6%	29.3%	62.2%	100.0%
平成7年	1,724	7,964	17,518	27,206
	6.3%	29.3%	64.4%	100.0%
平成12年	1,591	7,816	18,596	28,003
	5.7%	27.9%	66.4%	100.0%
平成17年	1,463	7,105	19,008	27,576
	5.3%	25.8%	68.9%	100.0%
平成22年	1,400	6,315	18,044	25,759
	5.4%	24.5%	70.0%	100.0%
平成27年	1,258	5,889	17,653	24,800
	5.1%	23.7%	71.2%	100.0%

## ② 従業地と常住地

石狩市内に在住する人の従業地は、「市内に従業」が最も多くなっています。石狩市内で従業する人の常住地は、「札幌市内に常住」が最も多くなっています。

石狩市内在住者の従業地・通学地は、「市内に従業」が13,960人（50.9%）と最も多く、次いで「札幌市内に従業」が12,015人（43.8%）、次に、「小樽市に従業」が627人（2.3%）となっています。

石狩市内従業者・通学者の常住地は、「札幌市内に常住」が14,628人（48.0%）と最も多くなっています。次いで、「市内に常住」が多く、13,960人（45.8%）、「小樽市内に常住」が622人（2.0%）となっています。

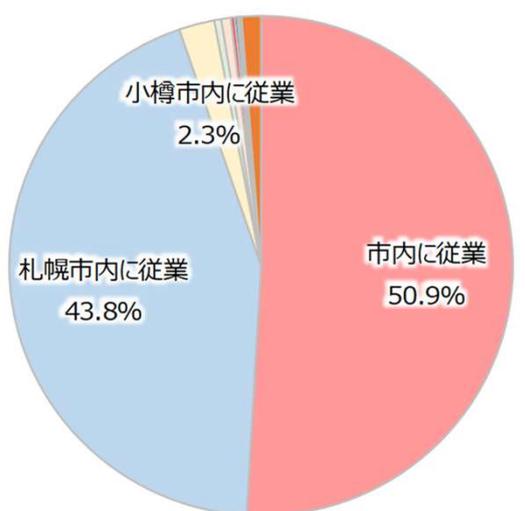


図 石狩市内在住者の従業地

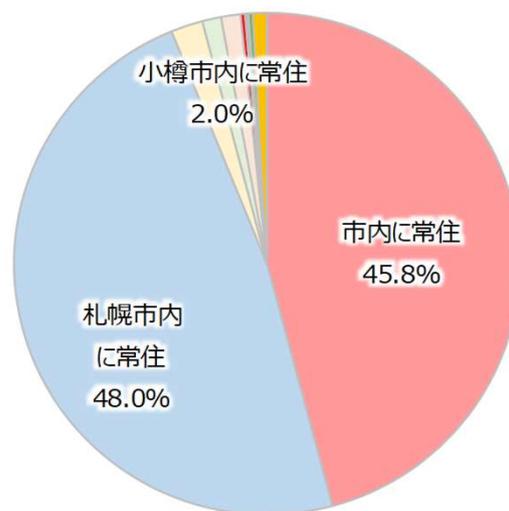


図 石狩市内従業者の常住地

表 石狩市内在住者の従業地※1

従業地	人数	割合
市内に従業	13,960	50.9%
札幌市	12,015	43.8%
小樽市	627	2.3%
当別町	123	0.4%
江別市	167	0.6%
北広島市	68	0.2%
恵庭市	48	0.2%
千歳市	33	0.1%
岩見沢市	39	0.1%
その他	339	1.2%
合計	27,419	100.0%

※1 石狩市内在住の通学者を含むものとする。

表 石狩市内従業者の常住地※2

常住地	人数	割合
市内に常住	13,960	45.8%
札幌市	14,628	48.0%
小樽市	622	2.0%
当別町	367	1.2%
江別市	380	1.2%
北広島市	84	0.3%
恵庭市	43	0.1%
千歳市	28	0.1%
岩見沢市	78	0.3%
その他	274	0.9%
合計	30,464	100.0%

※2 石狩市内に通学するものの常住地を含むものとする。

### ③産業分類別事業所数

石狩市の産業分類別事業所数は、「第3次産業」の事業所数が最も多く、その中でも「卸売業、小売業」の事業所数が多くなっています。

事業所数は、「第3次産業」が最も多く1,577事業所（74.7%）、次いで「第2次産業」が517事業所（24.5%）、「第1次産業」は、17事業所（0.8%）となっています。

産業分類別（小区分）では、「卸売業、小売業」が最も多く、474事業所（22.5%）となっています。次いで、「建設業」が多く、308事業所（14.6%）、「製造業」が207事業所（9.8%）、「医療、福祉」が199事業所（9.4%）、「宿泊業、飲食サービス業」が194事業所（9.2%）となっています。

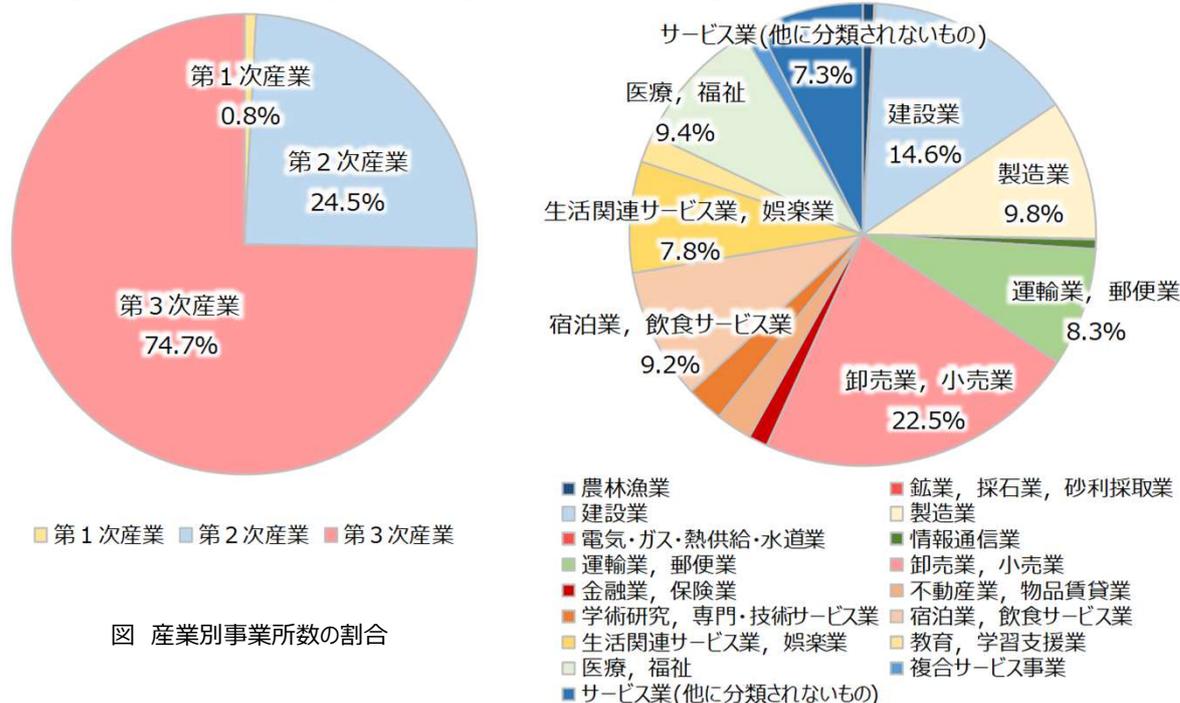


図 産業別事業所数の割合

図 産業分類別事業所数の割合

表 石狩市の産業分類別事業所数

(単位：事業所)

産業分類	事業所数	割合	産業分類	事業所数	割合
第1次産業	17	0.8%	農林漁業	17	0.8%
第2次産業	517	24.5%	鉱業、採石業、砂利採取業	2	0.1%
			建設業	308	14.6%
			製造業	207	9.8%
			電気・ガス・熱供給・水道業	1	0.0%
第3次産業	1,577	74.7%	情報通信業	14	0.7%
			運輸業、郵便業	175	8.3%
			卸売業、小売業	474	22.5%
			金融業、保険業	28	1.3%
			不動産業、物品賃貸業	53	2.5%
			学術研究、専門・技術サービス業	54	2.6%
			宿泊業、飲食サービス業	194	9.2%
			生活関連サービス業、娯楽業	164	7.8%
			教育、学習支援業	42	2.0%
			医療、福祉	199	9.4%
			複合サービス事業	24	1.1%
			サービス業(他に分類されないもの)	155	7.3%
			合計	2,111	100.0%

(資料：平成26年経済センサス)

#### ④ 流入人口、流出口

市外から石狩市へ通勤・通学する「流入人口」は、合計16,504人で、市区町村別にみると札幌市北区（6,280人）、札幌市手稲区（3,013人）、札幌市東区（1,970人）の順に多くなっています。札幌市以外では小樽市（622人）、江別市（380人）、当別町（367人）が多くなっています。

石狩市から市外へ通勤・通学する「流出人口」は、合計13,459人で、通勤・通学先を市区町村別にみると札幌市北区（3,548人）、札幌市中央区（2,697人）、札幌市東区（1,589人）の順に多くなっています。札幌市以外では小樽市（627人）、江別市（167人）、当別町（123人）が多くなっています。

これらを比べると、流入人口は流出人口を3,045人上回っています。

流入人口（他市区町村→石狩市）

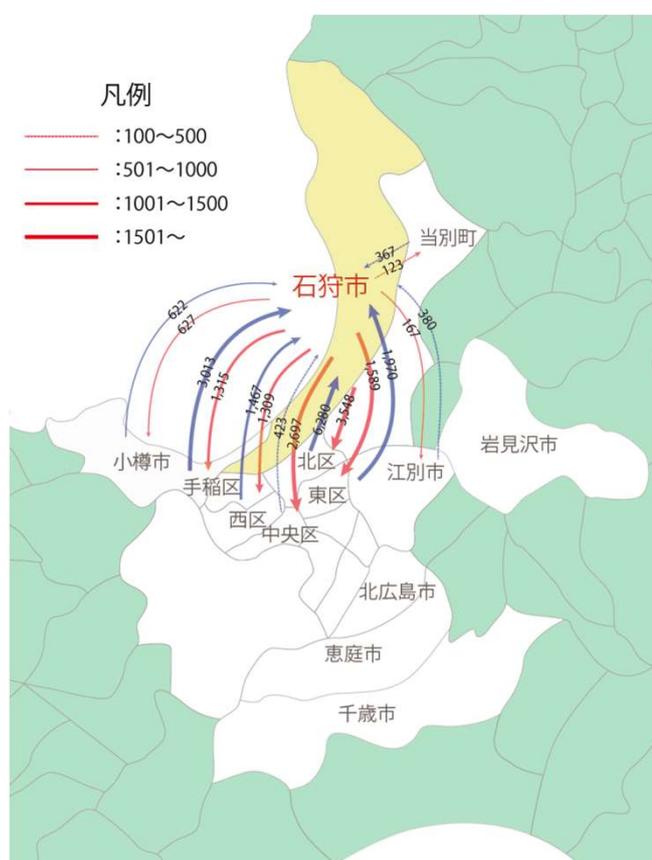
常住地	人数
札幌市	14,628
中央区	423
北区	6,280
東区	1,970
西区	1,467
手稲区	3,013
その他の区	1,475
小樽市	622
当別町	367
江別市	380
北広島市	84
恵庭市	43
千歳市	28
岩見沢市	78
その他	274
合計	16,504

資料：国勢調査 平成27年

流出人口（石狩市→他市区町村）

従業地	人数
札幌市	12,015
中央区	2,697
北区	3,548
東区	1,589
西区	1,309
手稲区	1,315
その他の区	1,557
小樽市	627
当別町	123
江別市	167
北広島市	68
恵庭市	48
千歳市	33
岩見沢市	39
その他	339
合計	13,459

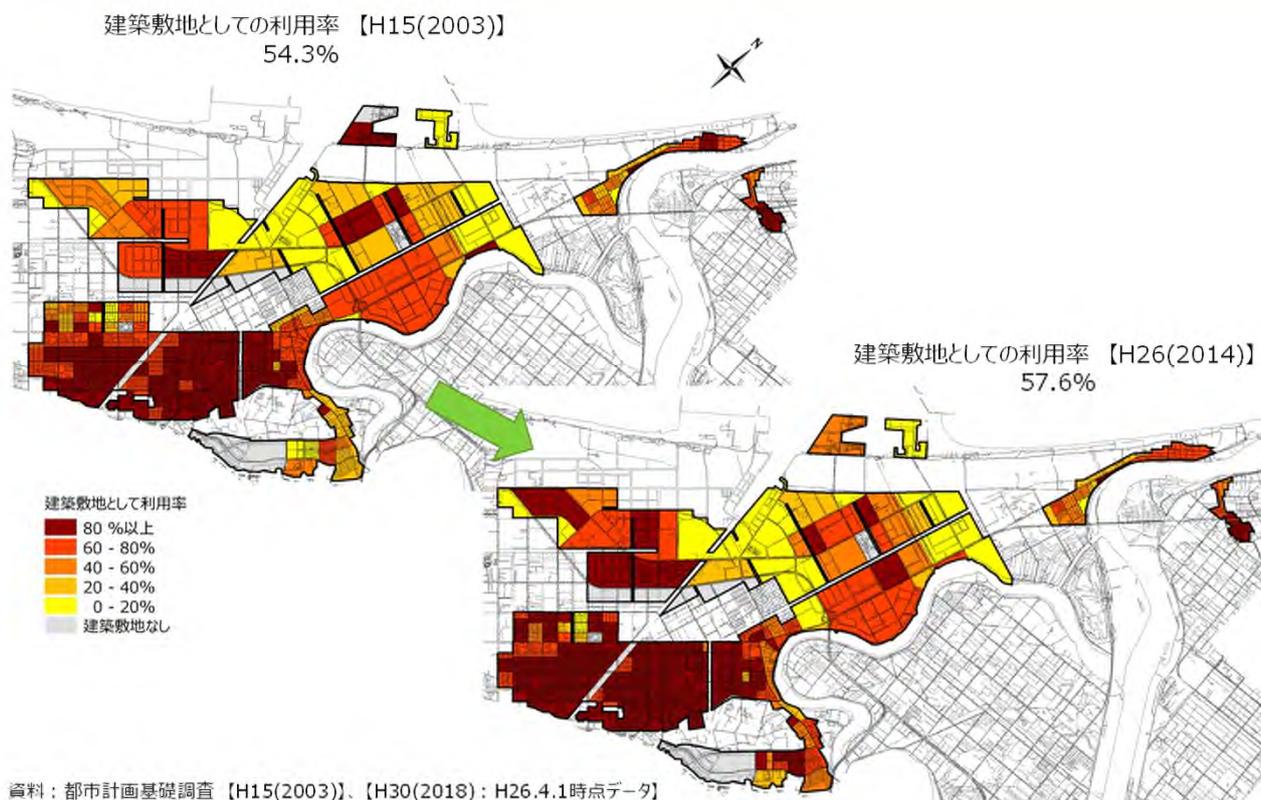
資料：国勢調査 平成27年



流入人口、流出人口

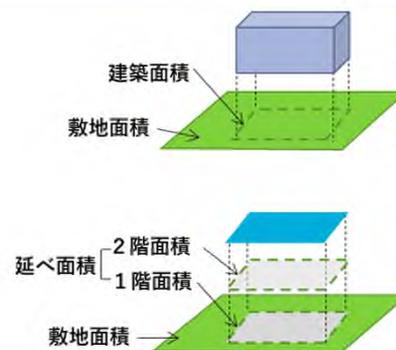
## Ⅱ. 各種データ

### 1. 土地利用の状況



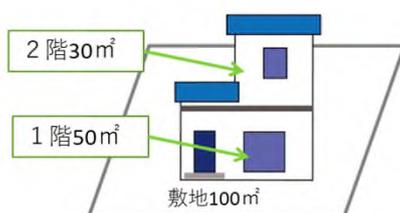
### 2. 建ぺい率・容積率とは①

- ・ 建築の土地利用の状況を表す指標に、「建ぺい率」「容積率」があります。
- ・ 建物を建てる際、敷地面積をどのくらい使って建てるかを考えますが、この時に用いる数値を「**建築面積**」といい、「建築物の外壁、柱の中心線で囲まれた部分を真上から見た場合の面積」と定義されます。
- ・ また、2階建て以上の場合、各階の面積を合算したものを「**延べ面積**」といい、実質的な建物の規模にあたります。
- ・ 建ぺい率とは「**建築面積**」÷「**敷地面積**」の割合、容積率とは「**延べ面積**」÷「**敷地面積**」の割合で表します。
- ・ 用途地域が定められている市街化区域では、場所ごとの**土地利用の目的**に応じて建ぺい率・容積率の上限値が決められています。

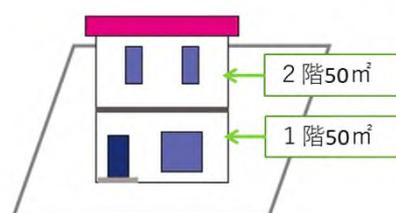


例えば、敷地面積が100㎡の土地で、  
建ぺい率50%、建築面積  
50㎡の場合

【容積率80%の指定では】  
→延べ面積80㎡の住宅が建てられます



【容積率100%の指定では】  
→延べ面積100㎡の住宅が建てられます

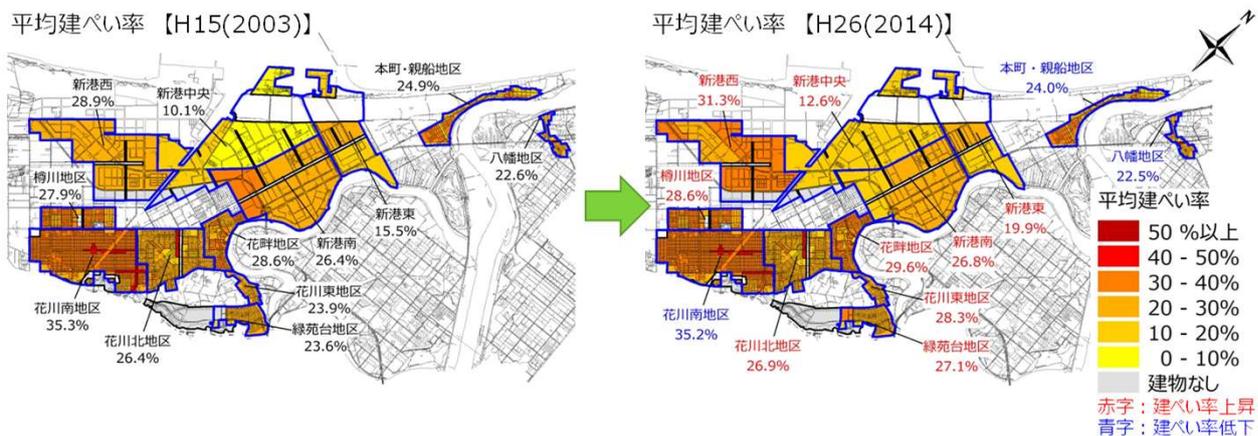


## 2. 建ぺい率・容積率とは②

用途地域の一般的なイメージ



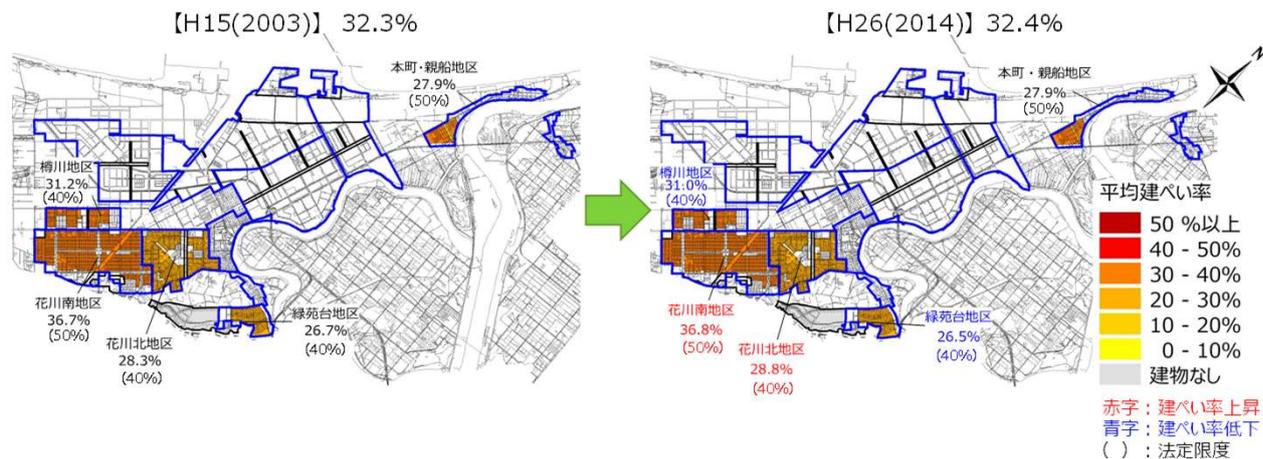
## 3. 建ぺい率の状況① (全用途地域平均建ぺい率)



$$\text{平均建ぺい率} = \frac{\text{建築面積の合計}}{\text{敷地面積の合計}} \times 100$$

資料：都市計画基礎調査【H15(2003)】、【H26(2014)】

### 3.建ぺい率の状況 用途地域別② 低層住居系の用途地域平均建ぺい率

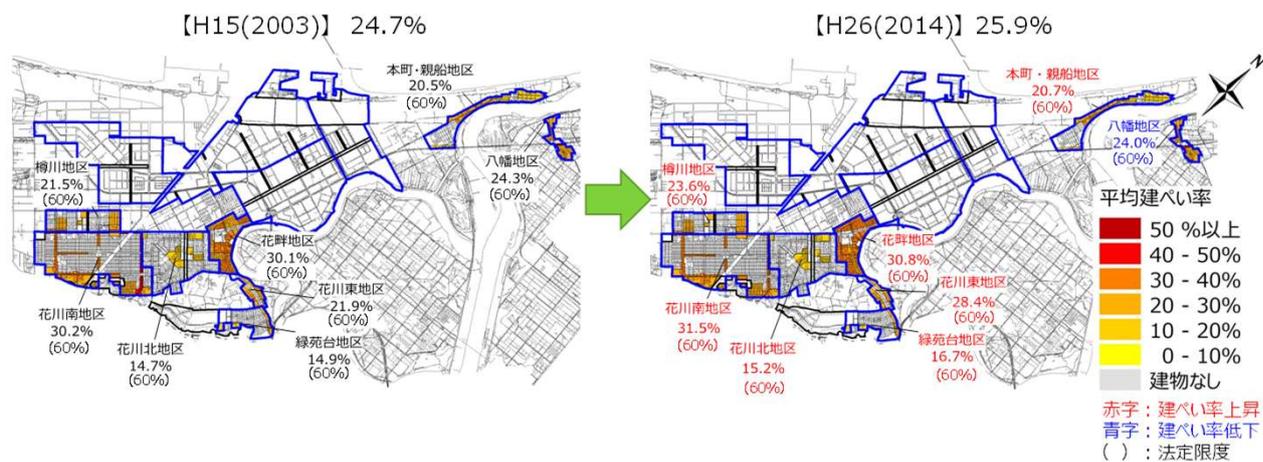


平均建ぺい率 =  

$$\frac{\text{建築面積の合計}}{\text{敷地面積の合計}} \times 100$$

資料：都市計画基礎調査【H15(2003)】、【H26(2014)】

### 3.建ぺい率の状況 用途地域別③ 住居系の用途地域平均建ぺい率

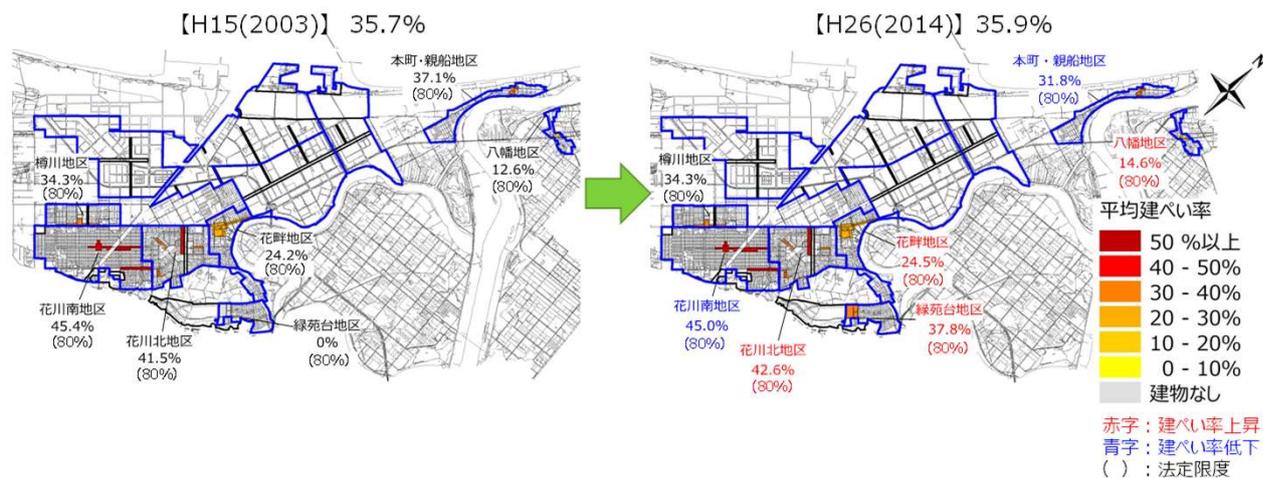


平均建ぺい率 =  

$$\frac{\text{建築面積の合計}}{\text{敷地面積の合計}} \times 100$$

資料：都市計画基礎調査【H15(2003)】、【H26(2014)】

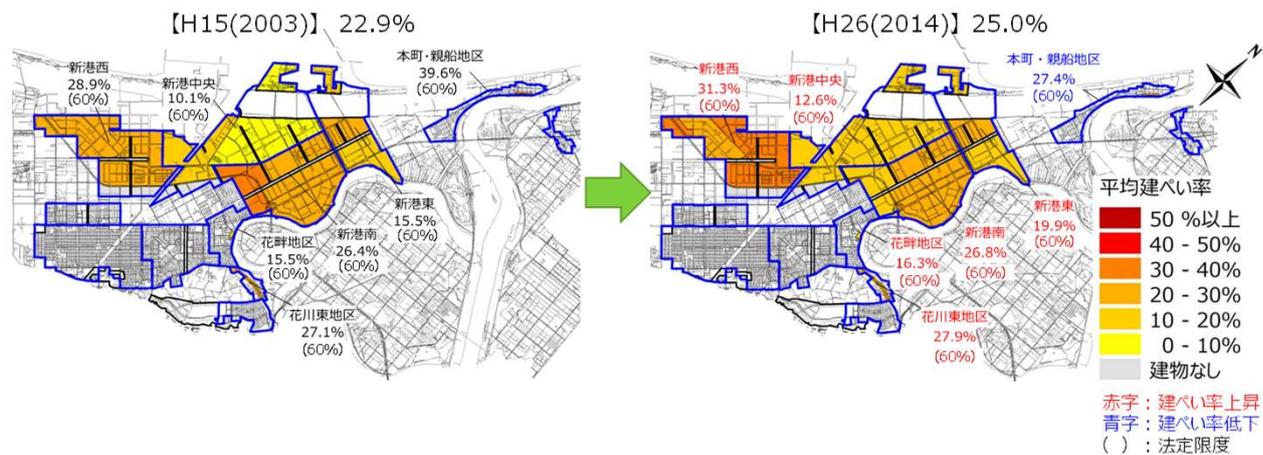
### 3.建ぺい率の状況 用途地域別④ 商業系の用途地域平均建ぺい率



平均建ぺい率 =  $\frac{\text{建築面積の合計}}{\text{敷地面積の合計}} \times 100$

資料：都市計画基礎調査【H15(2003)】、【H26(2014)】

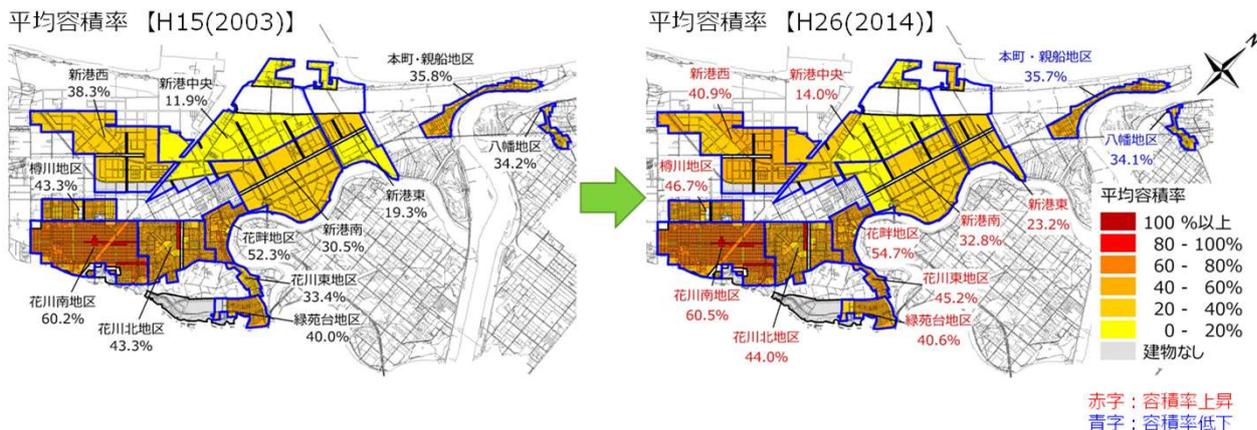
### 3.建ぺい率の状況 用途地域別⑤ 工業系の用途地域平均建ぺい率



平均建ぺい率 =  $\frac{\text{建築面積の合計}}{\text{敷地面積の合計}} \times 100$

資料：都市計画基礎調査【H15(2003)】、【H26(2014)】

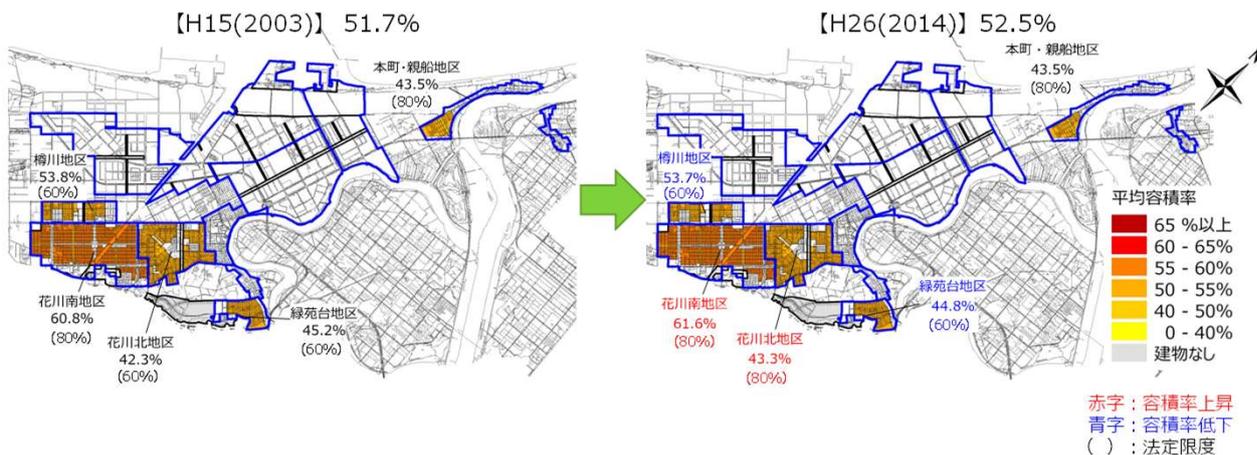
### 4.容積率の状況① (全用途地域平均容積率)



平均容積率 = 延床面積の合計 / 敷地面積の合計 × 100

資料：都市計画基礎調査【H15(2003)】、【H26(2014)】

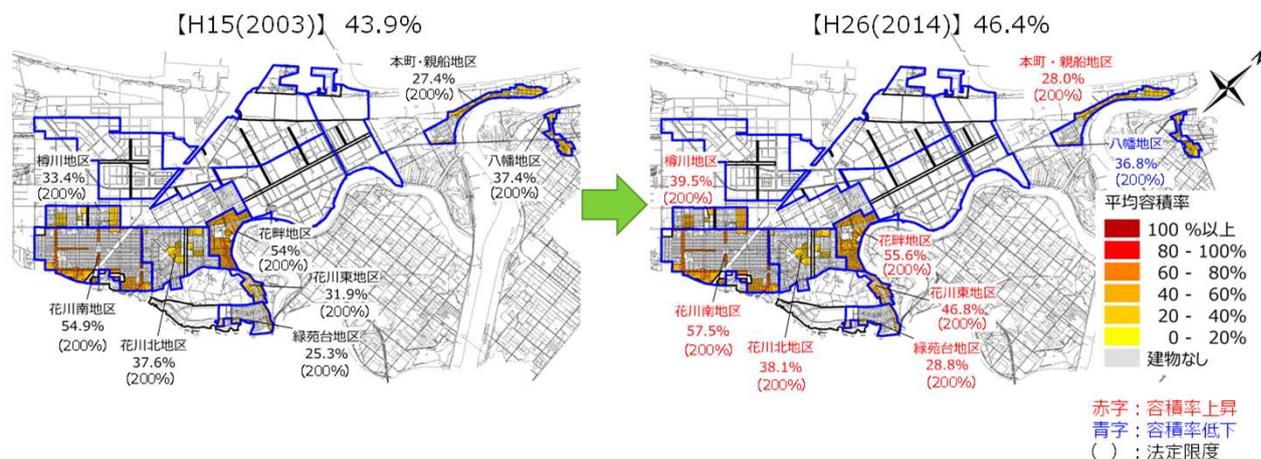
### 4.容積率の状況 用途地域別② 低層住居系の用途地域平均容積率



平均容積率 = 延床面積の合計 / 敷地面積の合計 × 100

資料：都市計画基礎調査【H15(2003)】、【H26(2014)】

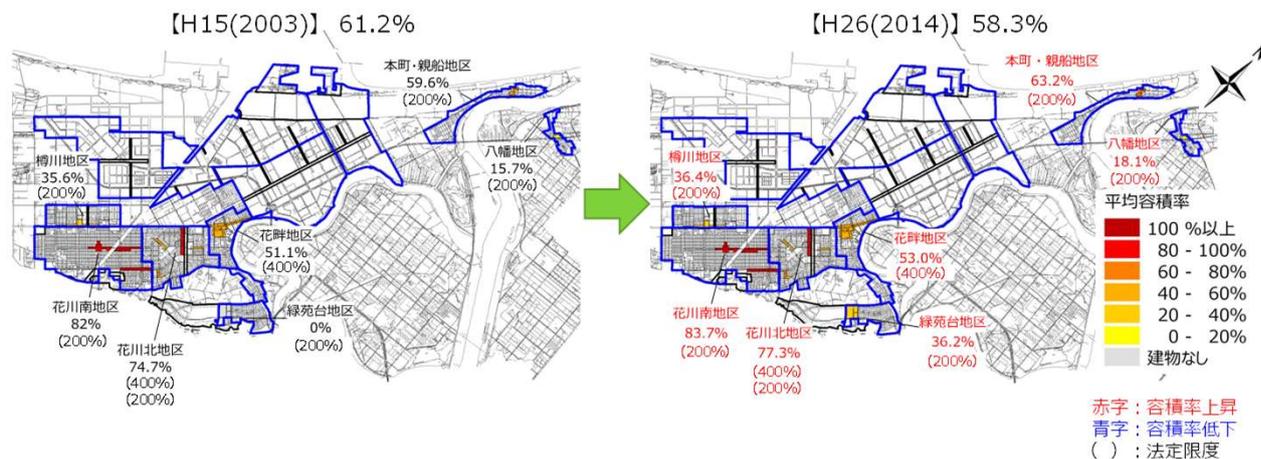
### 4.容積率の状況 用途地域別③ 住居系の用途地域平均容積率



$$\text{平均容積率} = \frac{\text{延床面積の合計}}{\text{敷地面積の合計}} \times 100$$

資料：都市計画基礎調査【H15(2003)】、【H26(2014)】

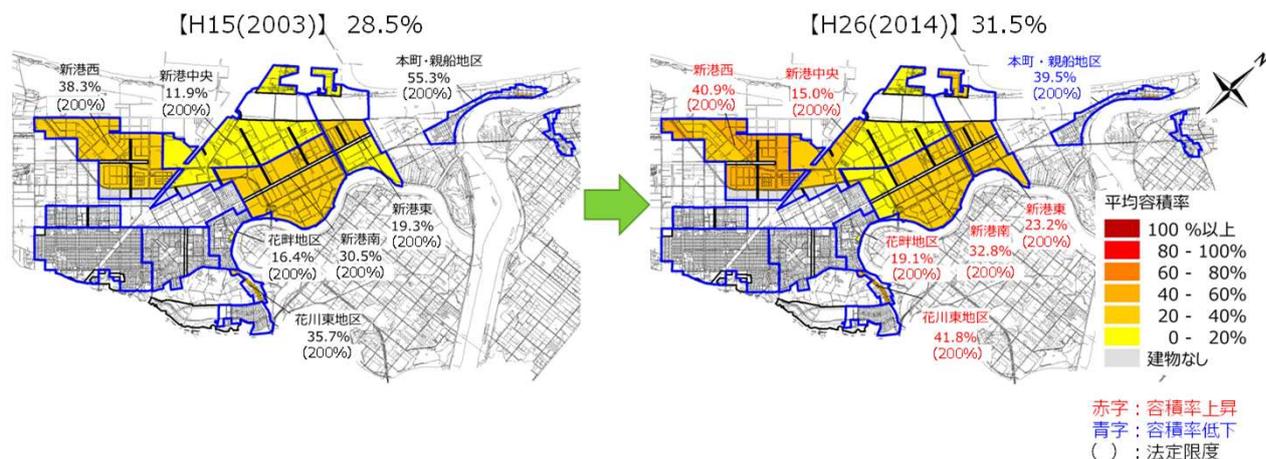
### 4.容積率の状況 用途地域別④ 商業系の用途地域平均容積率



$$\text{平均容積率} = \frac{\text{延床面積の合計}}{\text{敷地面積の合計}} \times 100$$

資料：都市計画基礎調査【H15(2003)】、【H26(2014)】

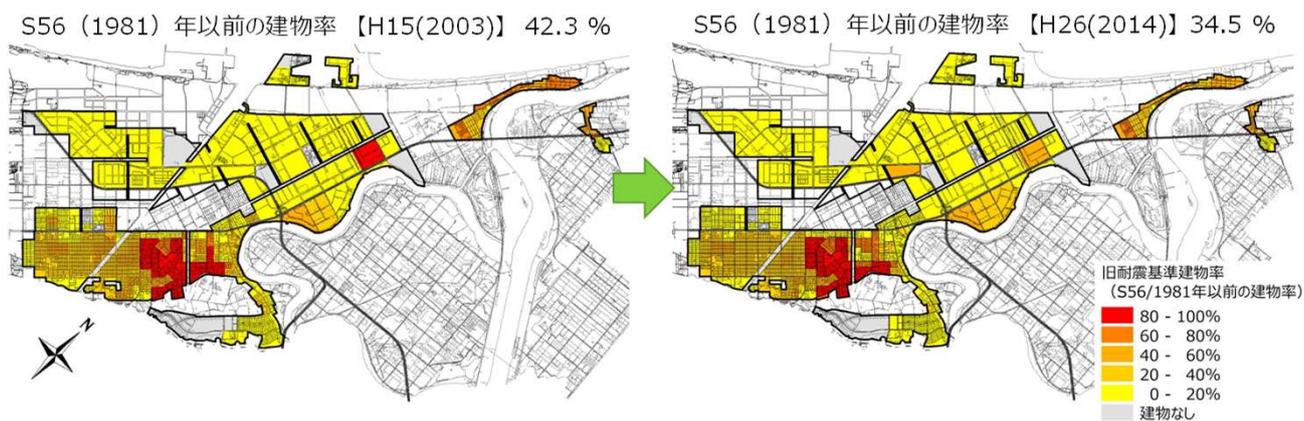
## 4.容積率の状況 用途地域別⑤ 工業系の用途地域平均容積率



平均容積率 =  
延床面積の合計 / 敷地面積の合計 × 100

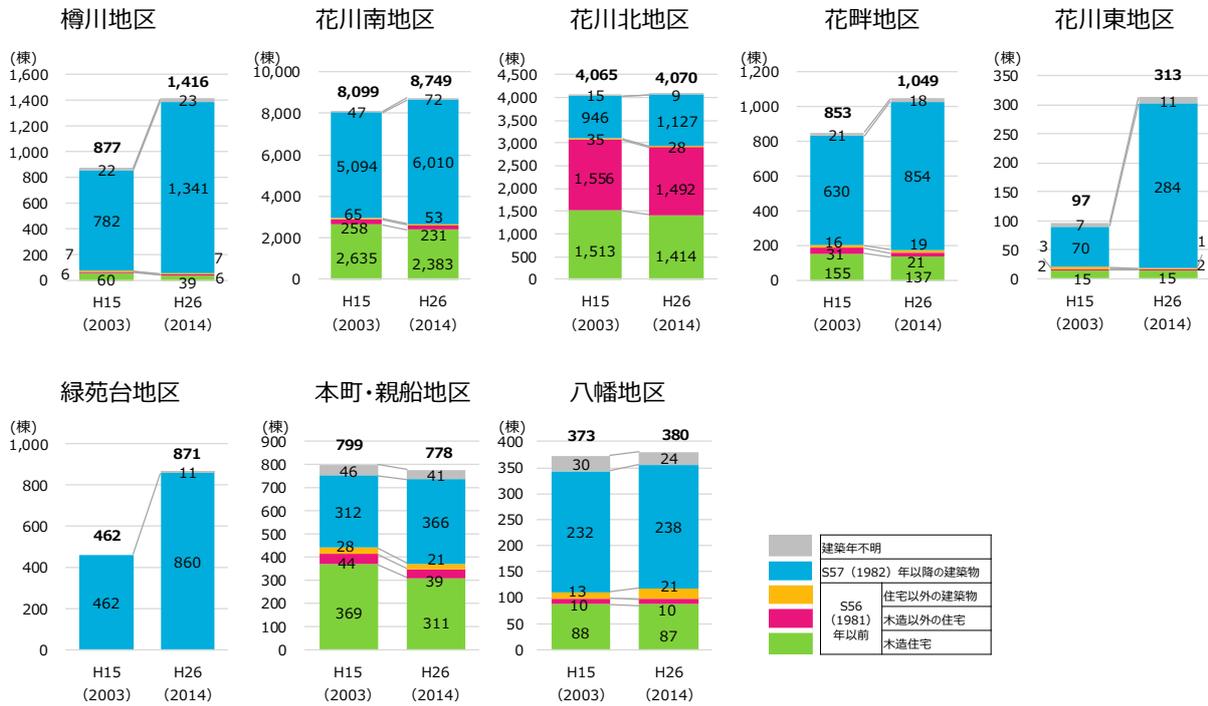
資料：都市計画基礎調査【H15(2003)】、【H26(2014)】

## 5.建築年の状況①



資料：都市計画基礎調査【H15(2003)】、【H26(2014)】

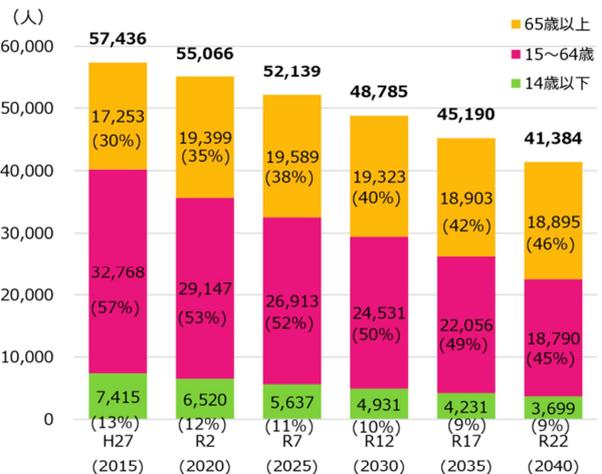
## 5. 建築年の状況②



## 6. 将来人口【H27(2015)国調ベース】①

将来人口

	H27 2015	R2 2020	R7 2025	R12 2030	R17 2035	R22 2040
人口	57,436	55,066	52,139	48,785	45,190	41,384



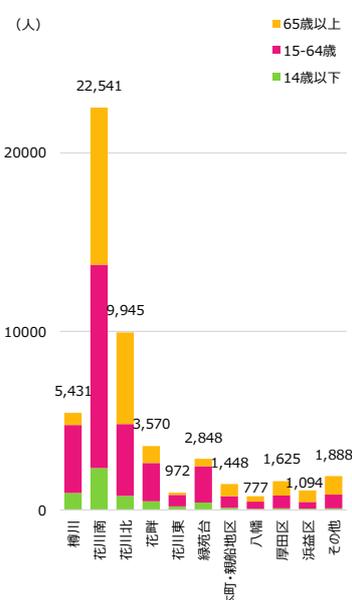
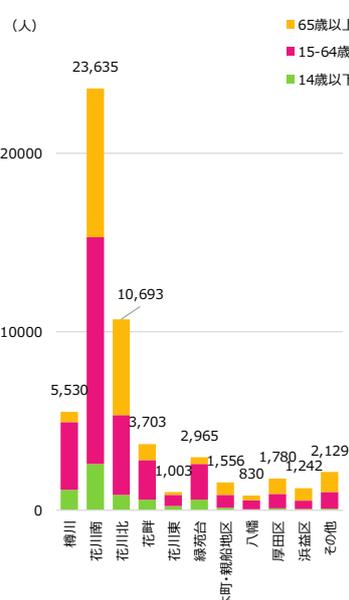
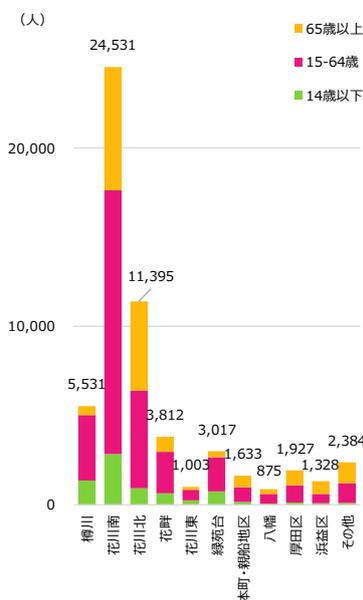
## 6.地区別の将来人口【H27(2015)国調ベース】②

将来人口 ※ 樽川・八幡地区については、市街化区域内の人口であり、その他については、旧石狩地域の市街化区域外人口です。

【H27 (2015)】 57,436人

【R2 (2020)】 55,066人

【R7 (2025)】 52,139人



資料：平成27（2015）年国勢調査  
 国立社会保障・人口問題研究所  
 「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

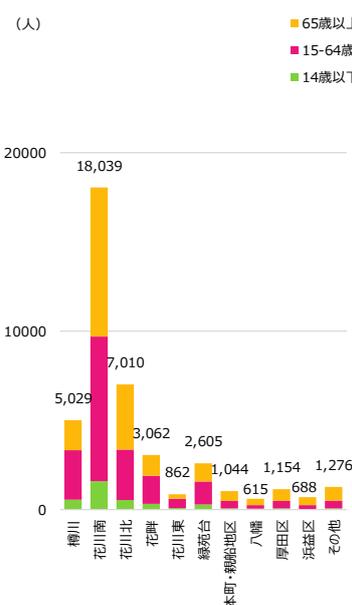
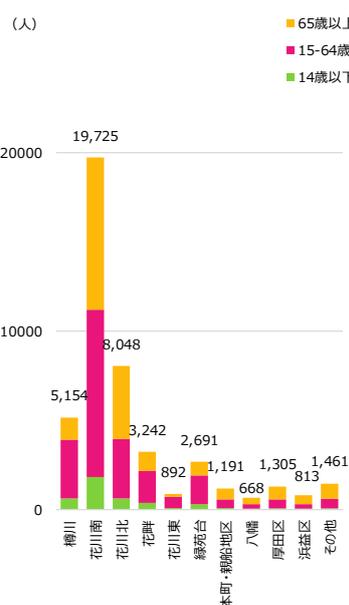
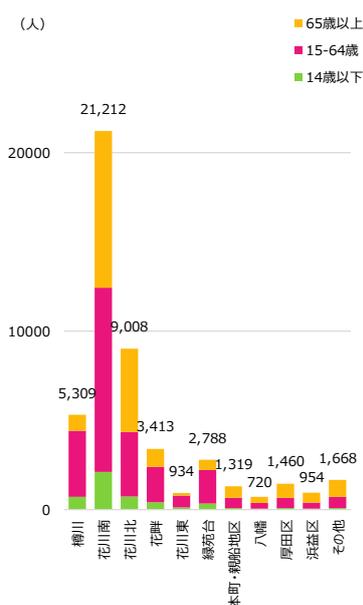
## 6.地区別の将来人口【H27(2015)国調ベース】③

将来人口 ※ 樽川・八幡地区については、市街化区域内の人口であり、その他については、旧石狩地域の市街化区域外人口です。

【R12 (2030)】 48,785人

【R17 (2035)】 45,190人

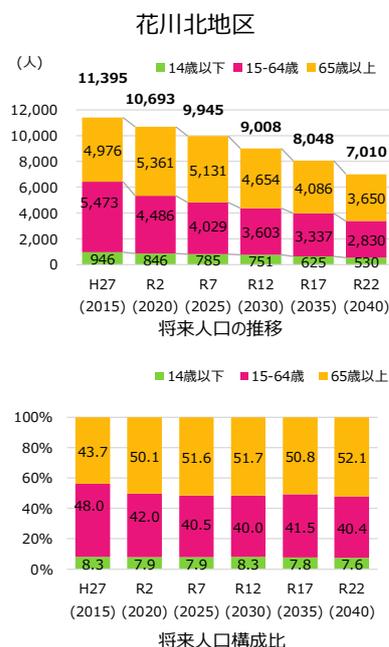
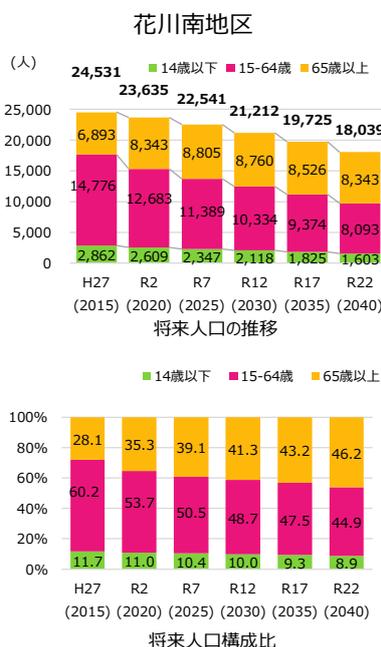
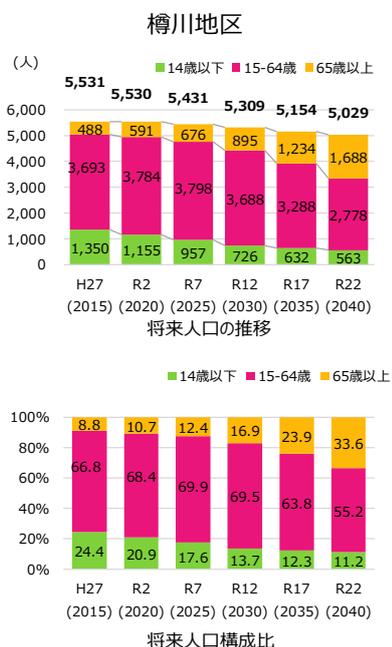
【R22 (2040)】 41,384人



資料：平成27（2015）年国勢調査  
 国立社会保障・人口問題研究所  
 「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

## 6.地区別の将来人口【H27(2015)国調ベース】④

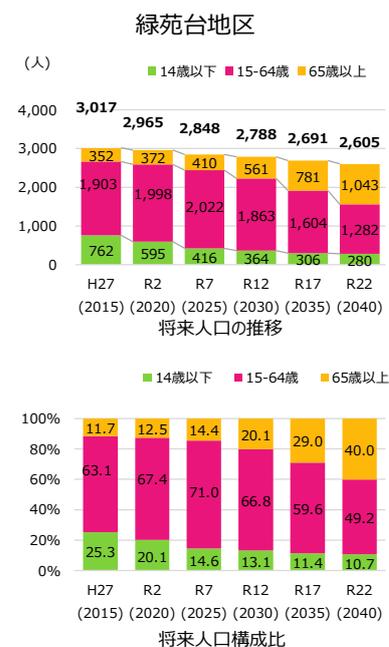
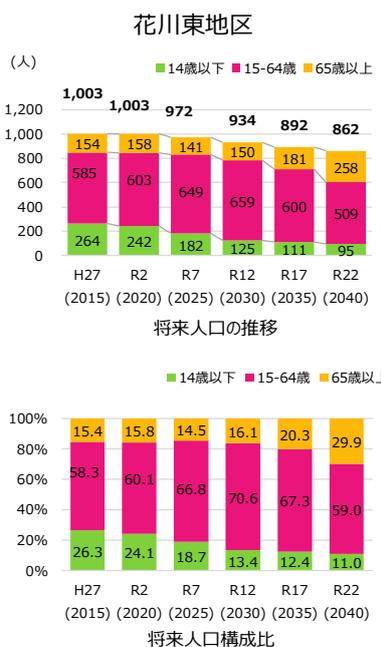
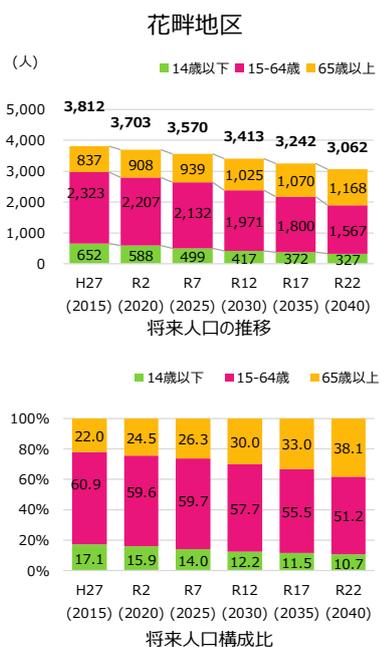
地区別の将来人口と構成比の推移



資料：平成27（2015）年国勢調査  
 国立社会保障・人口問題研究所  
 「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

## 6.地区別の将来人口【H27(2015)国調ベース】⑤

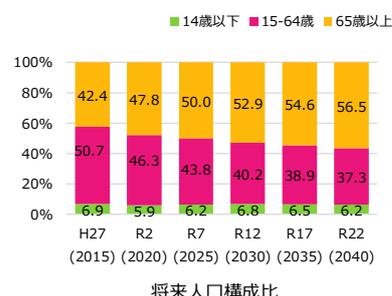
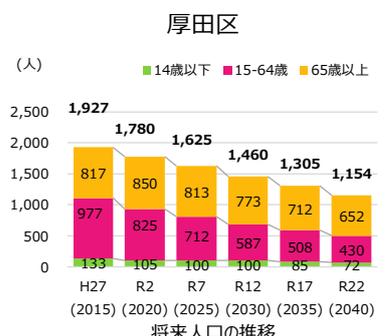
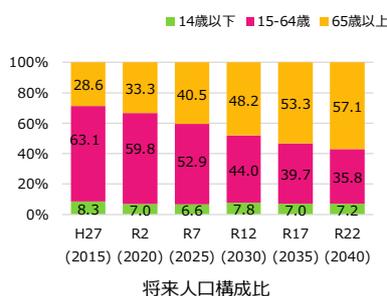
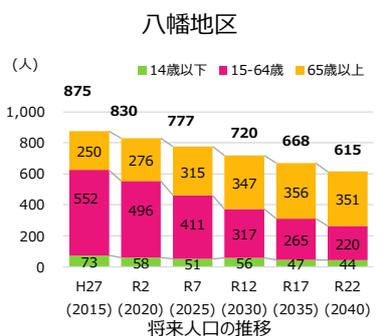
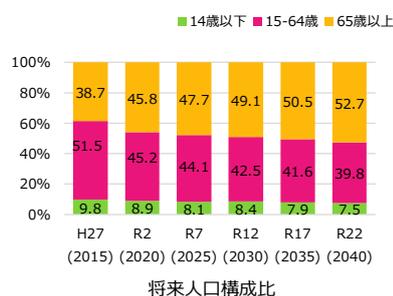
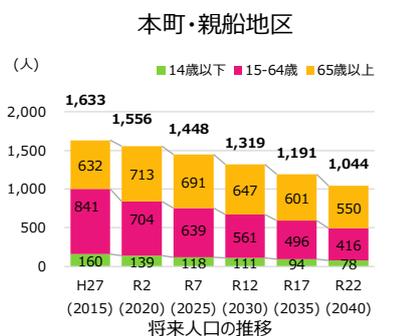
地区別の将来人口と構成比の推移



資料：平成27（2015）年国勢調査  
 国立社会保障・人口問題研究所  
 「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

## 6.地区別の将来人口【H27(2015)国調ベース】⑥

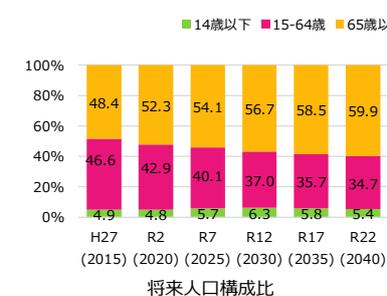
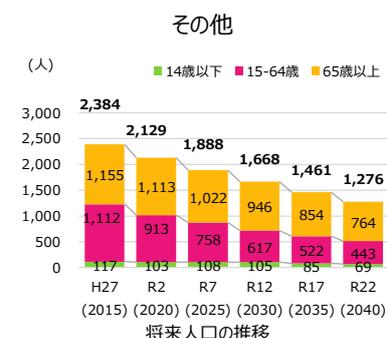
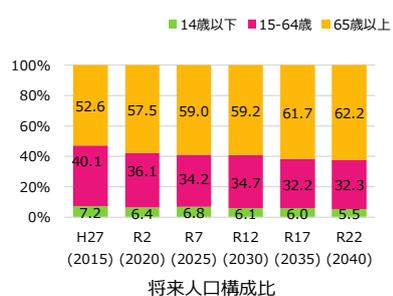
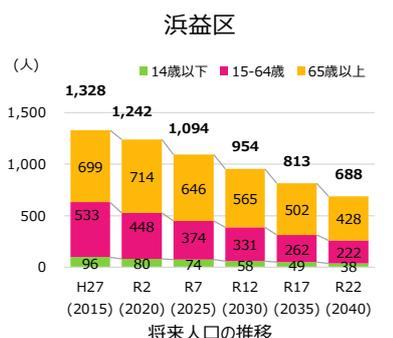
地区別の将来人口と構成比の推移



資料：平成27（2015）年国勢調査  
 国立社会保障・人口問題研究所  
 「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

## 6.地区別の将来人口【H27(2015)国調ベース】⑦

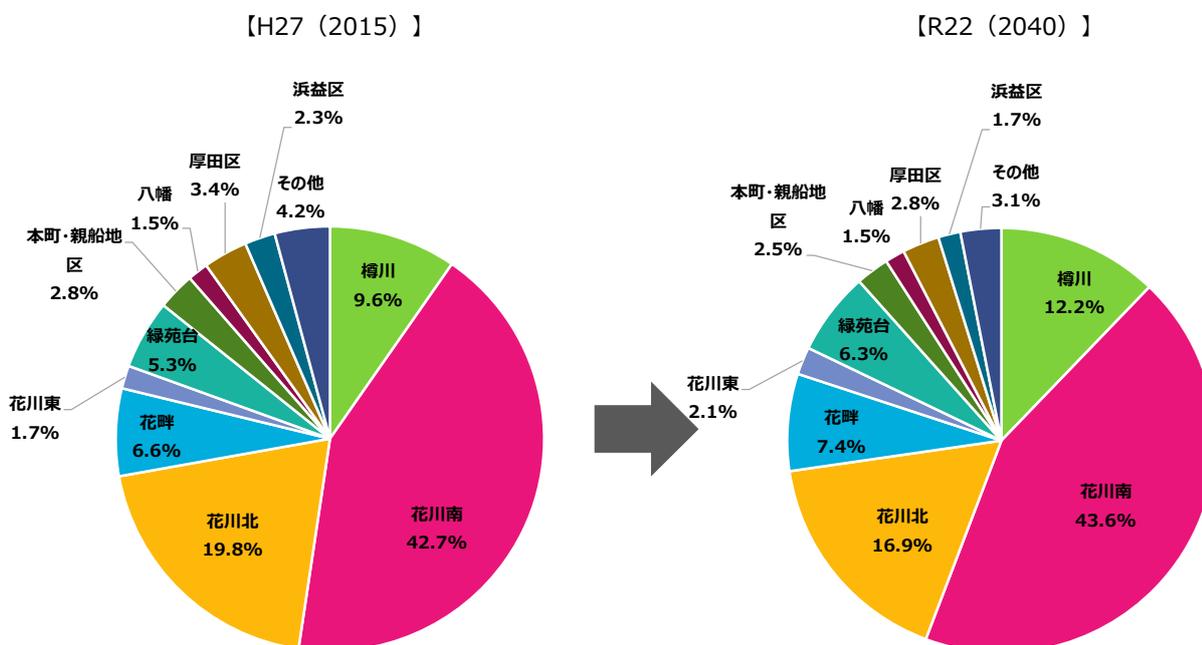
地区別の将来人口と構成比の推移



資料：平成27（2015）年国勢調査  
 国立社会保障・人口問題研究所  
 「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

## 6.地区別の将来人口【H27(2015)国調ベース】⑧

将来人口の構成比



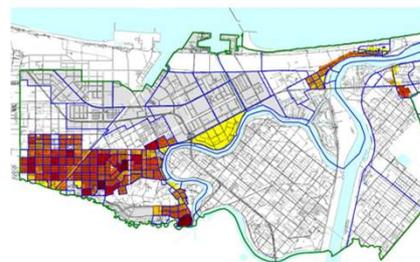
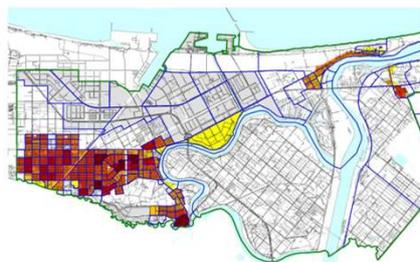
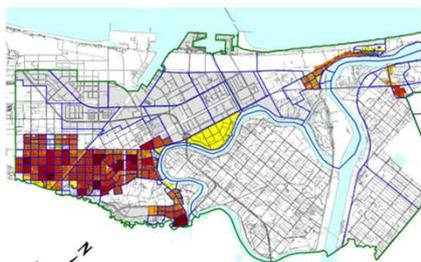
資料：平成27(2015)年国勢調査  
 国立社会保障・人口問題研究所  
 「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

## 6.条丁目別の将来人口【H27(2015)国調ベース】⑨

条丁目別人口【H27(2015)】

条丁目別人口【R2(2020)】

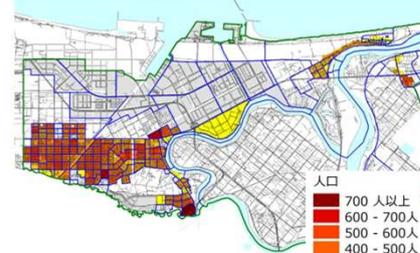
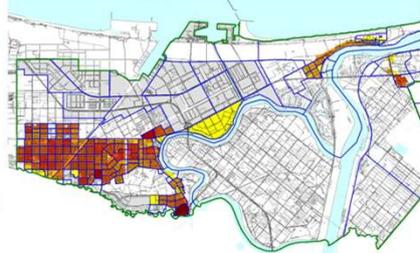
条丁目別人口【R7(2025)】



条丁目別人口【R12(2030)】

条丁目別人口【R17(2035)】

条丁目別人口【R22(2040)】



※榑川5条については、平成27(2015)年から人口が急増したため、平成30(2018)年10月の住民基本台帳の人口を基準として令和2(2020)年以降の将来人口をコーホー1要因法にて算出した。

資料：平成27(2015)年国勢調査  
 国立社会保障・人口問題研究所  
 「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

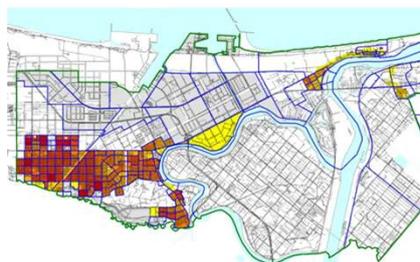


## 6.条丁目別の将来人口密度【H27(2015)国調べ】⑩

条丁目別人口密度【H27(2015)】



条丁目別人口密度【R2(2020)】



条丁目別人口密度【R7(2025)】



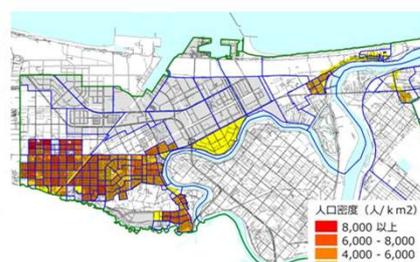
条丁目別人口密度【R12(2030)】



条丁目別人口密度【R17(2035)】



条丁目別人口密度【R22(2040)】



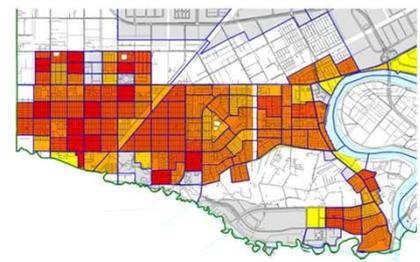
※樺川5条については、平成27(2015)年から人口が急増したため、平成30(2018)年10月の住民基本台帳の人口を基準として令和2(2020)年以降の将来人口をコーホート要因法にて算出した。

資料：平成27(2015)年国勢調査  
 国立社会保障・人口問題研究所  
 「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

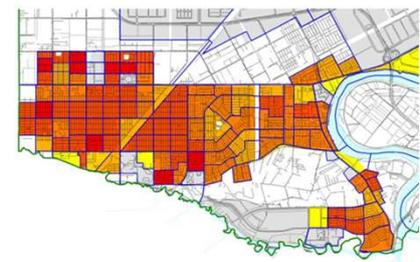


## 6.条丁目別の将来人口密度【H27(2015)国調べ】市街地⑪

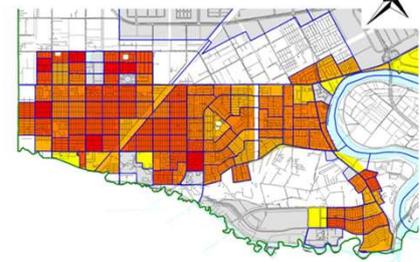
条丁目別人口密度【H27(2015)】



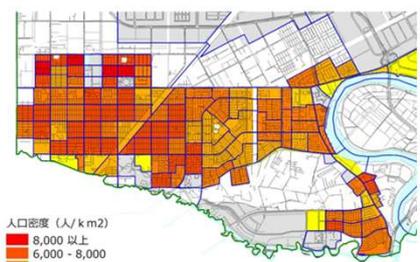
条丁目別人口密度【R2(2020)】



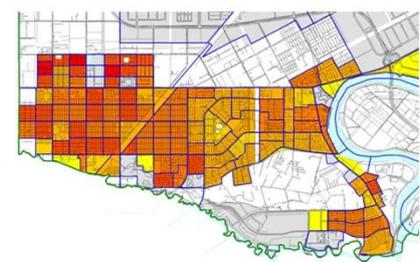
条丁目別人口密度【R7(2025)】



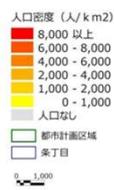
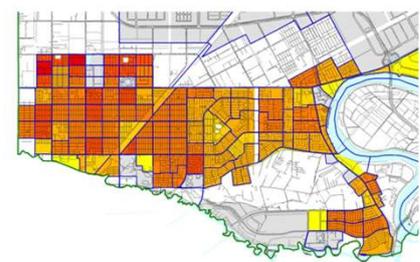
条丁目別人口密度【R12(2030)】



条丁目別人口密度【R17(2035)】



条丁目別人口密度【R22(2040)】



※樺川5条については、平成27(2015)年から人口が急増したため、平成30(2018)年10月の住民基本台帳の人口を基準として令和2(2020)年以降の将来人口をコーホート要因法にて算出した。

資料：平成27(2015)年国勢調査  
 国立社会保障・人口問題研究所  
 「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

## 6.条丁目別の将来人口密度【H27(2015)国調べベース】⑫

条丁目別人口密度【H27(2015)】



条丁目別人口密度【R2(2020)】



条丁目別人口密度【R7(2025)】



条丁目別人口密度【R12(2030)】



条丁目別人口密度【R17(2035)】



条丁目別人口密度【R22(2040)】



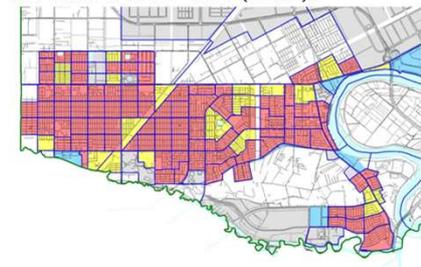
※樽川5条については、平成27(2015)年から人口が急増したため、平成30(2018)年10月の住民基本台帳の人口を基準として令和2(2020)年以降の将来人口をコーホート要因法にて算出した。

資料：平成27(2015)年国勢調査  
国立社会保障・人口問題研究所  
「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

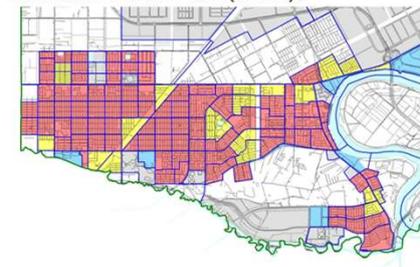


## 6.条丁目別の将来人口密度【H27(2015)国調べベース】市街地⑬

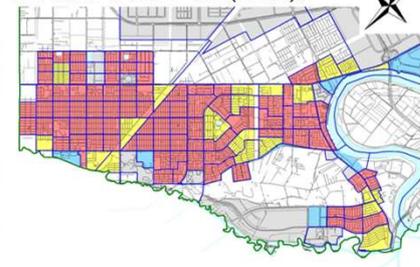
条丁目別人口密度【H27(2015)】



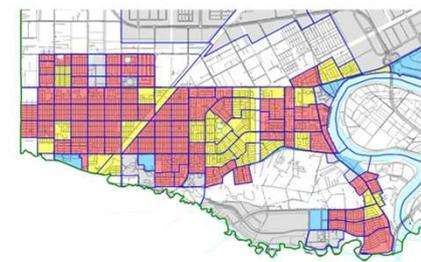
条丁目別人口密度【R2(2020)】



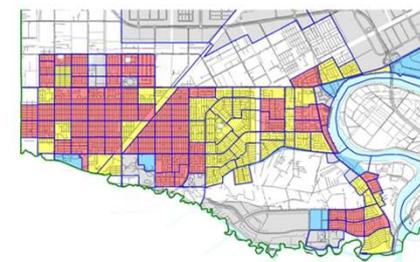
条丁目別人口密度【R7(2025)】



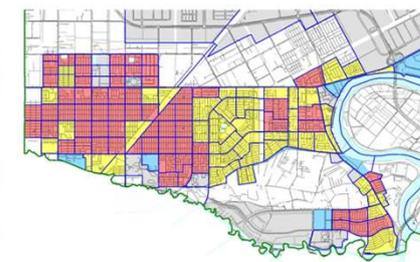
条丁目別人口密度【R12(2030)】



条丁目別人口密度【R17(2035)】



条丁目別人口密度【R22(2040)】



※樽川5条については、平成27(2015)年から人口が急増したため、平成30(2018)年10月の住民基本台帳の人口を基準として令和2(2020)年以降の将来人口をコーホート要因法にて算出した。

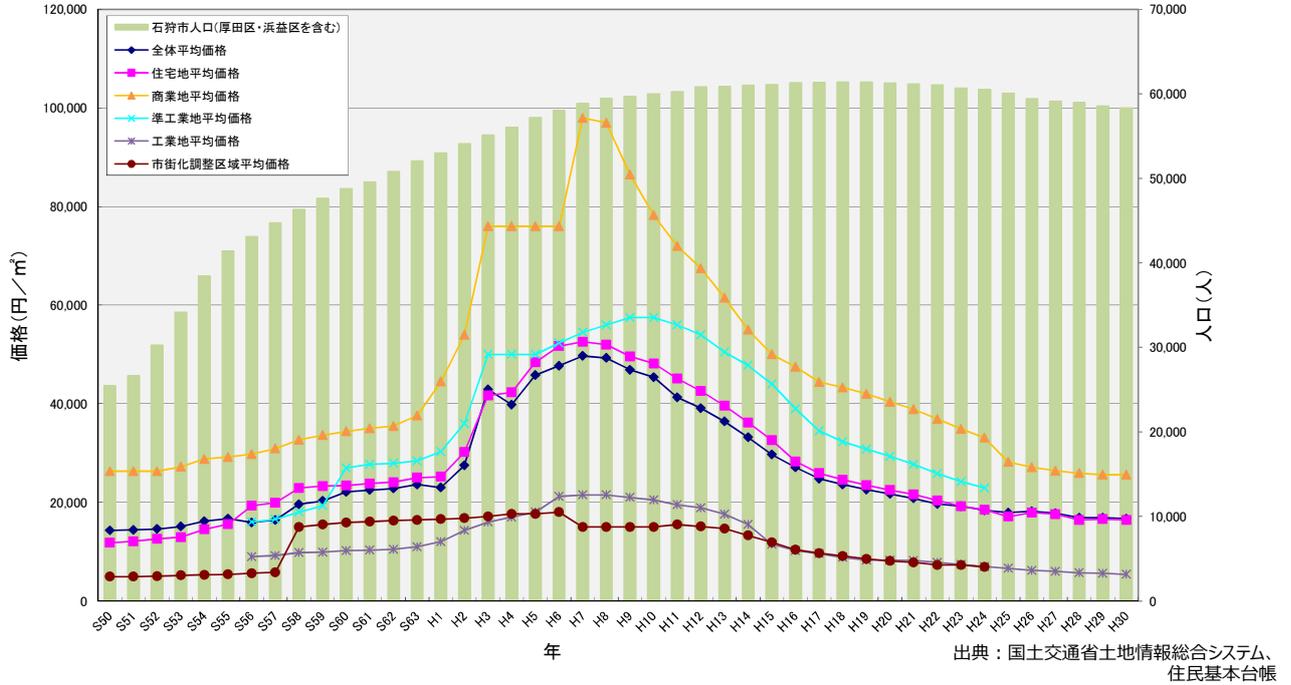
資料：平成27(2015)年国勢調査  
国立社会保障・人口問題研究所  
「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」



## 7.地価公示価格等の推移

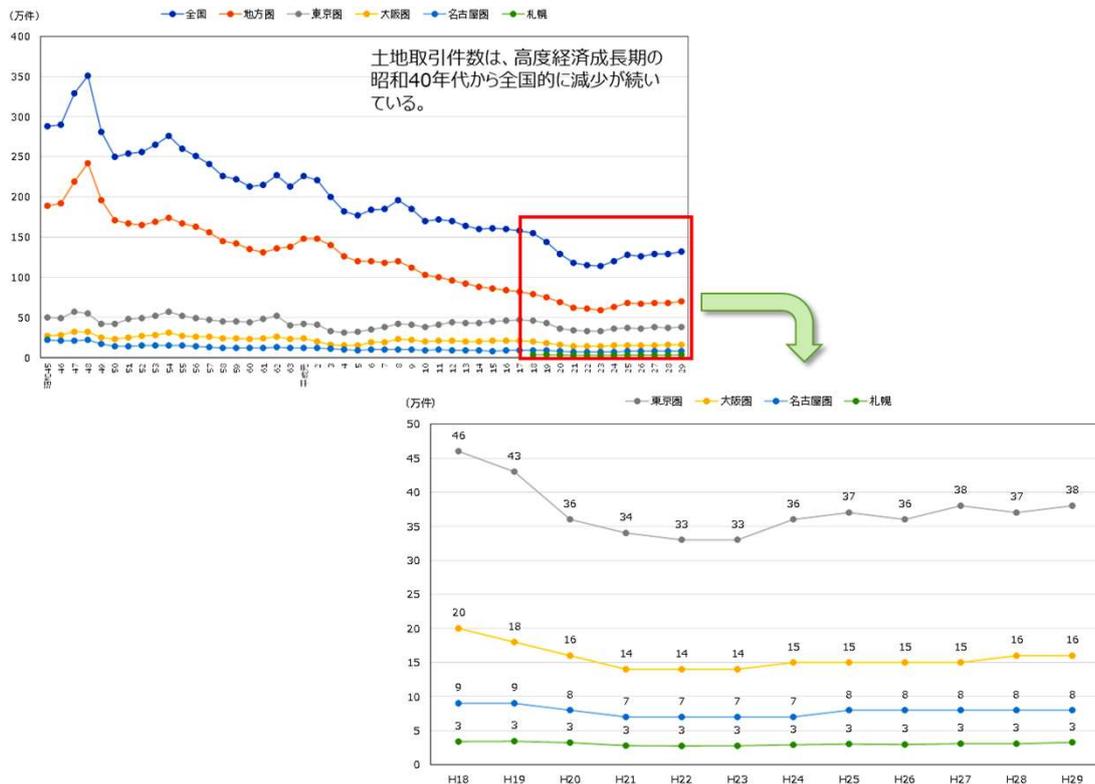
### ①価格

地価公示価格推移



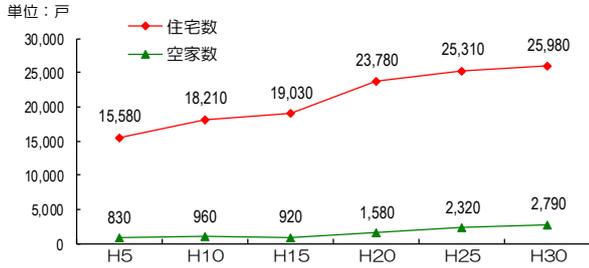
## 7.地価公示価格等の推移

### ②取引件数 売買による土地取引の件数(東京圏、大阪圏、名古屋圏、札幌の比較)

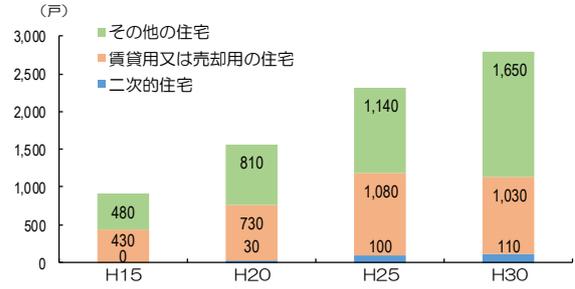


## 8. 空家の状況

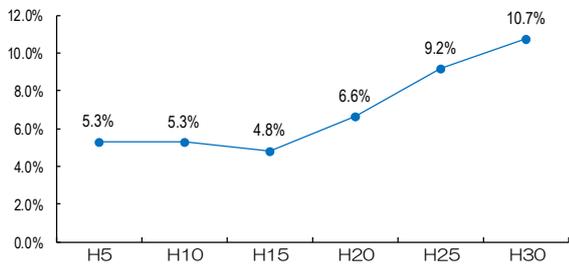
空家数と住宅数の推移



空家の内訳の推移



空家率の推移



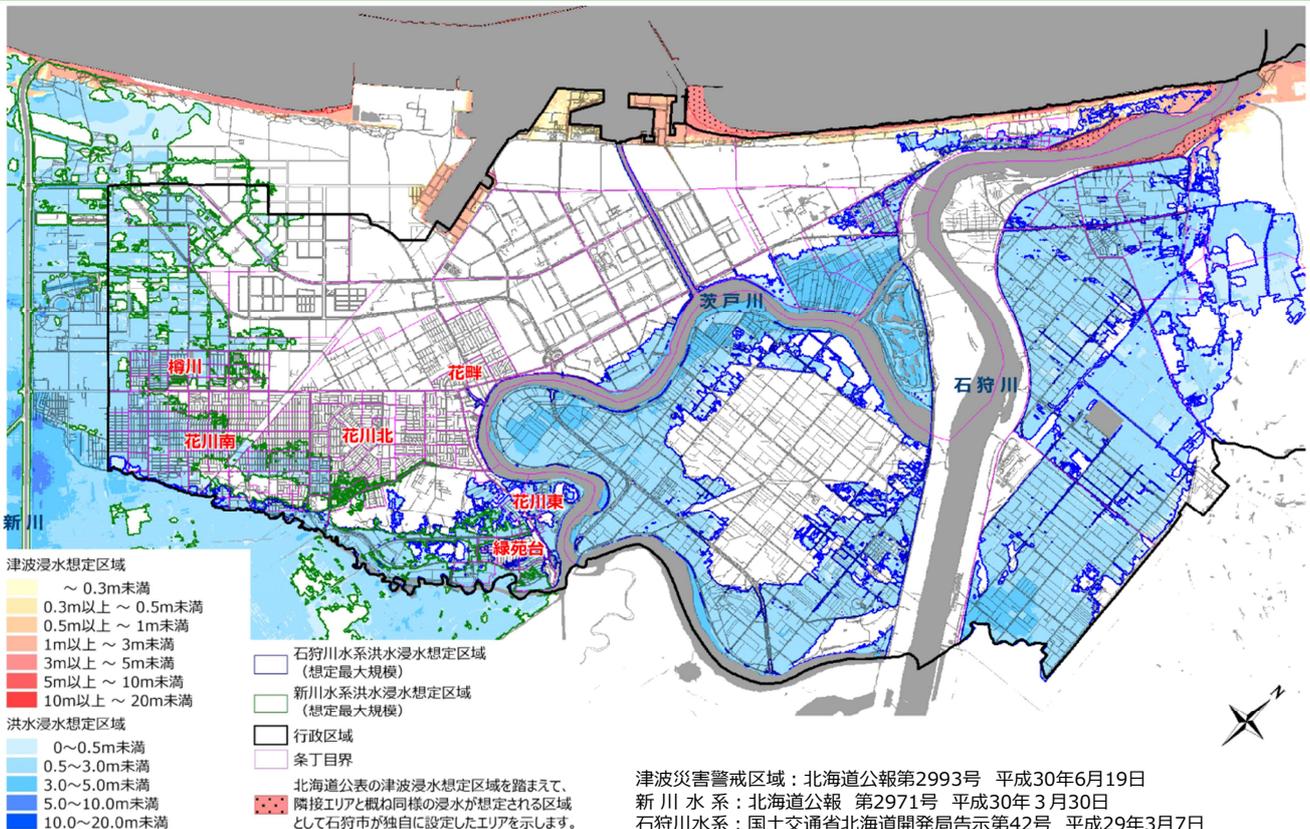
単位：戸

区分	住宅数	空家					
		空家数	空家率	二次的住宅	賃貸用又は売却用の住宅	その他の住宅	
石狩市	平成5年	15,580	830	5.3%	-	-	-
	平成10年	18,210	960	5.3%	-	-	-
	平成15年	19,030	920	4.8%	0	430	480
	平成20年	23,780	1,580	6.6%	30	730	810
	平成25年	25,310	2,320	9.2%	100	1,080	1,140
	平成30年	25,980	2,790	10.7%	110	1,030	1,650

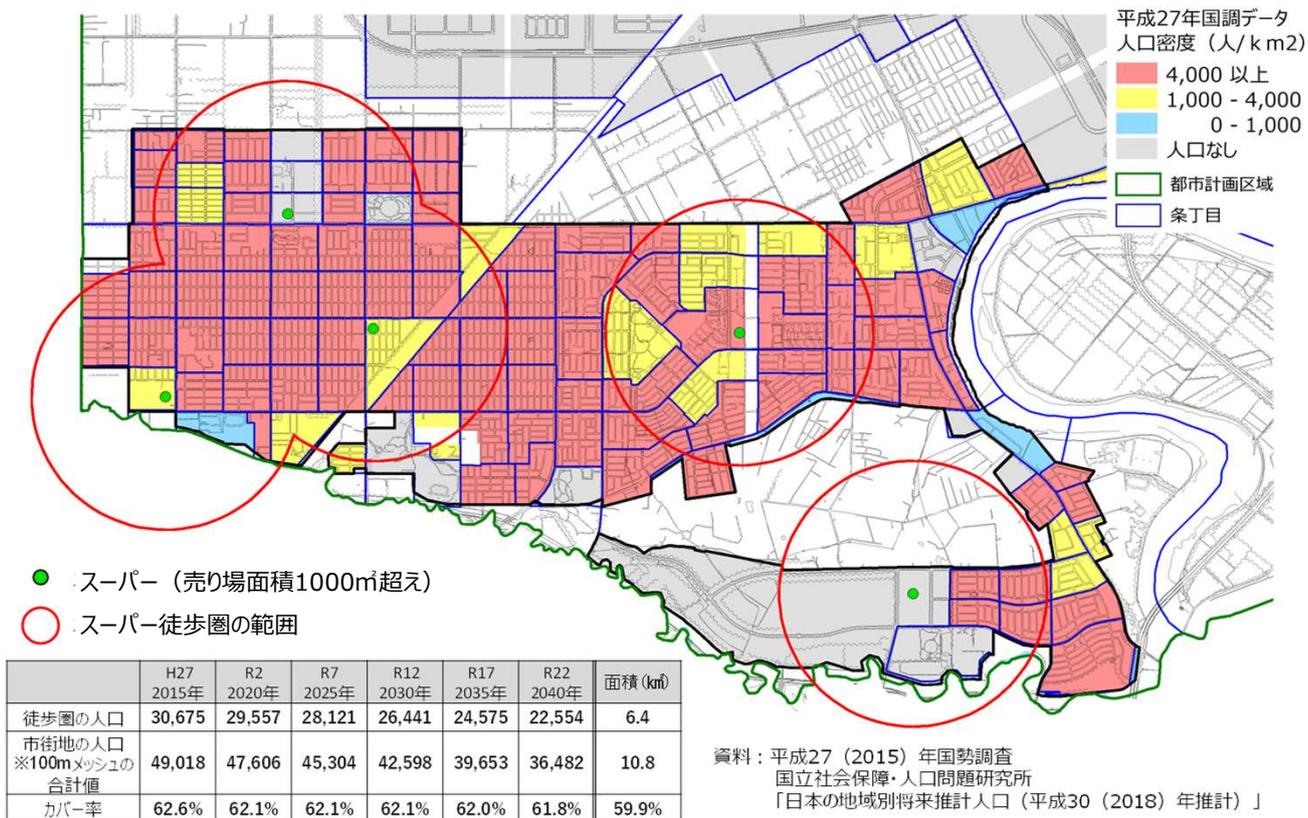
戸：一戸建の住宅やアパートのように完全に区画された建物の一部で、一つの世帯が独立して家庭生活を営むことができるように建築又は改造されたものをいう。  
(1棟8戸のアパートは8戸としてカウント)

出典：各年住宅・土地統計調査

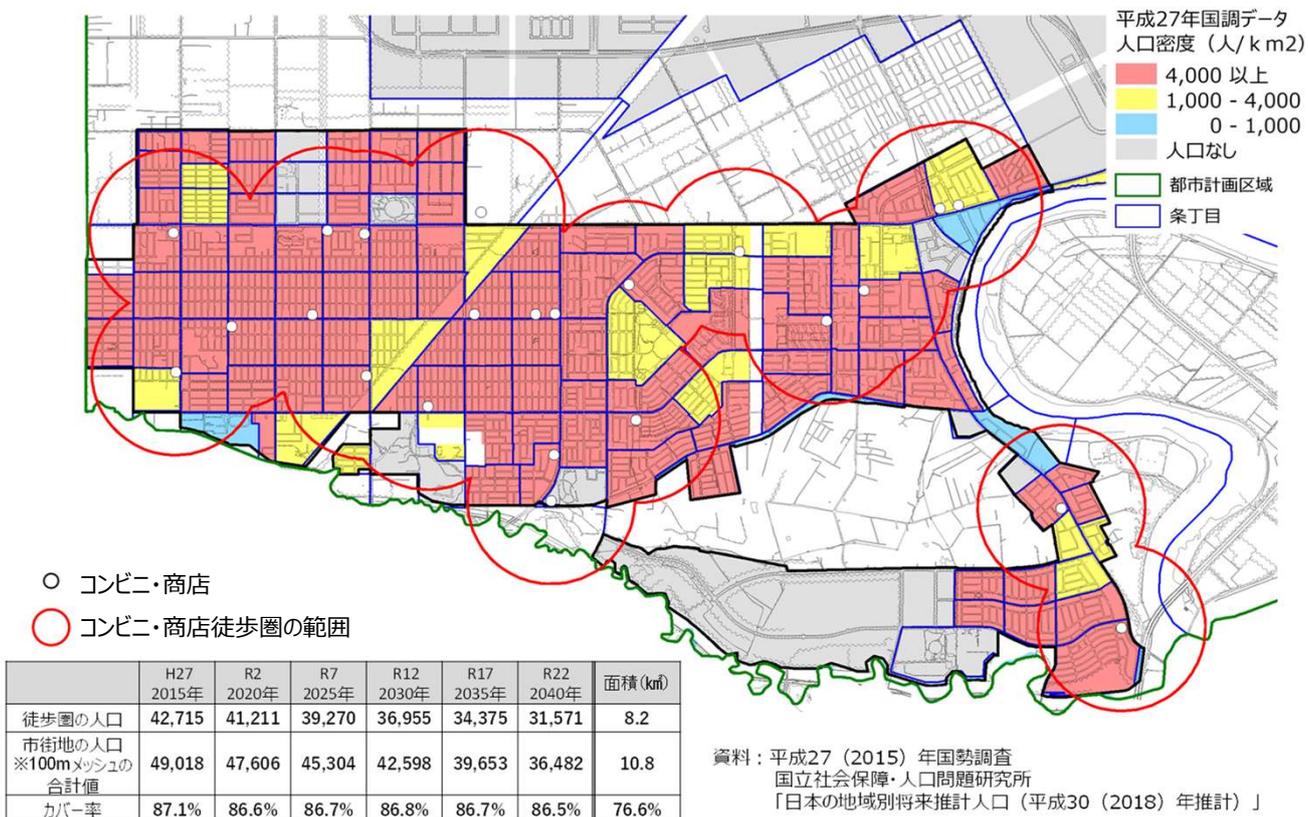
## 9. 災害に関する指定区域図



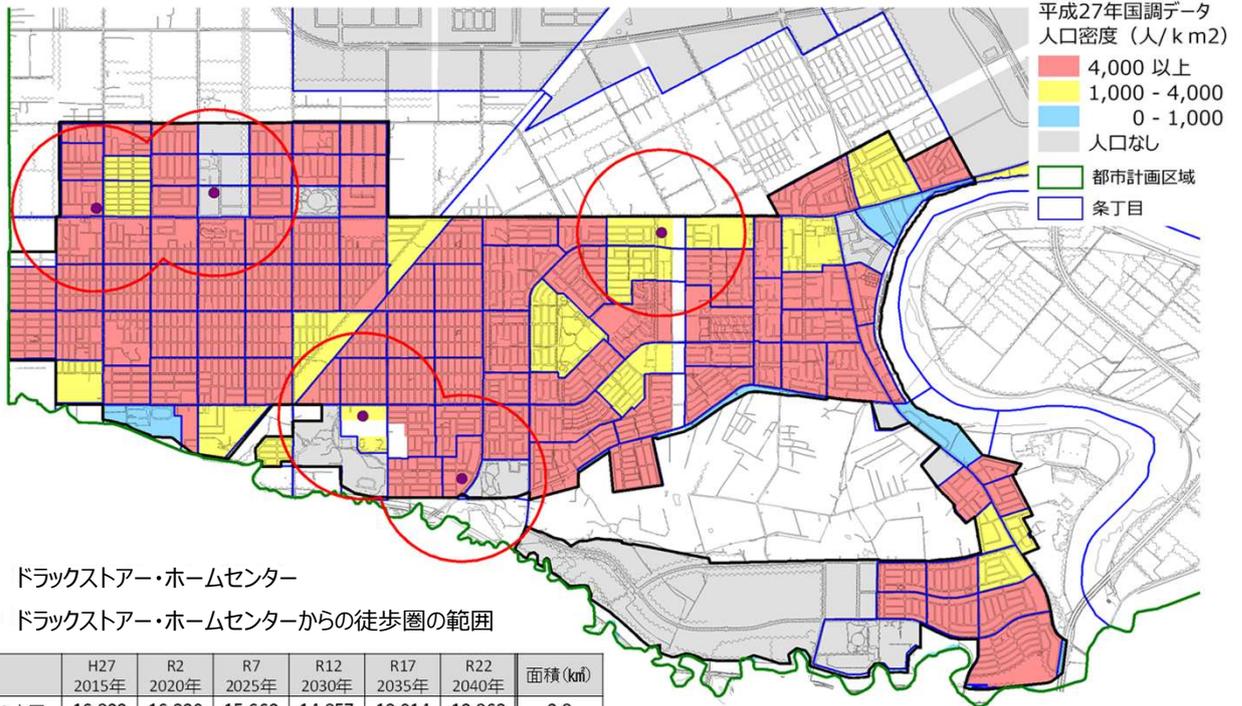
1.①商業施設（スーパー）から徒歩圏（800m）の範囲



1.②商業施設（コンビニ・商店）から徒歩圏（500m）の範囲



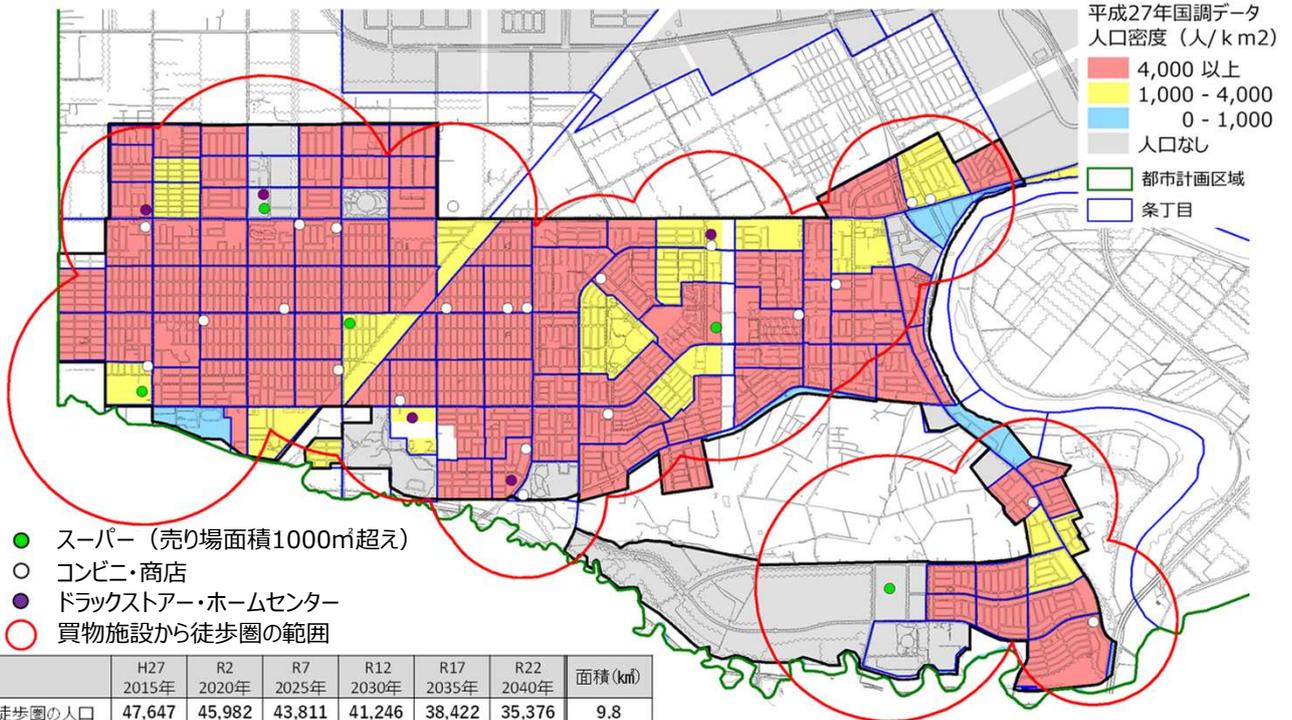
1.③商業施設（ドラッグストア・ホームセンター）から徒歩圏（500m）の範囲



	H27 2015年	R2 2020年	R7 2025年	R12 2030年	R17 2035年	R22 2040年	面積 (km <sup>2</sup> )
徒歩圏の人口	16,822	16,320	15,662	14,857	13,914	12,863	2.8
市街地の人口 ※100mメッシュの 合計値	49,018	47,606	45,304	42,598	39,653	36,482	10.8
カバー率	34.3%	34.3%	34.6%	34.9%	35.1%	35.3%	26.1%

資料：平成27（2015）年国勢調査  
国立社会保障・人口問題研究所  
「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

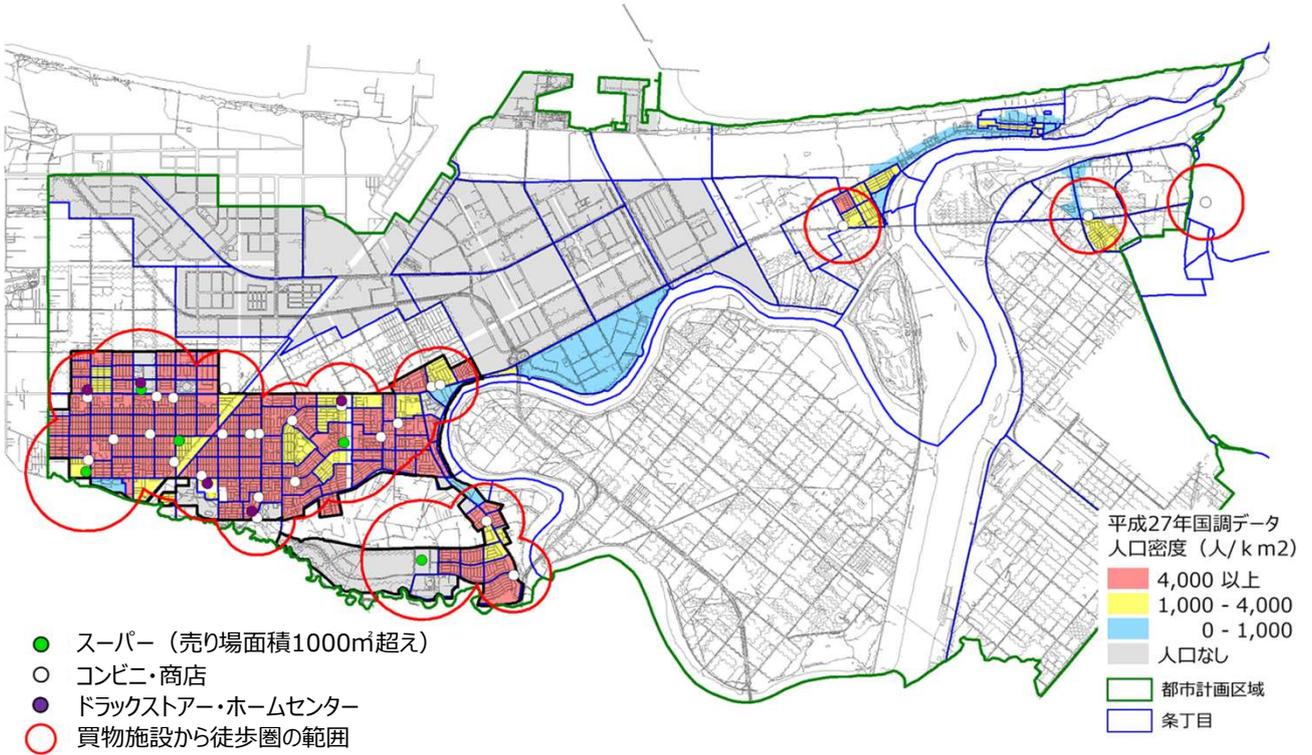
1.④買い物施設から徒歩圏の範囲（スーパーから800m・コンビニから500m）



	H27 2015年	R2 2020年	R7 2025年	R12 2030年	R17 2035年	R22 2040年	面積 (km <sup>2</sup> )
徒歩圏の人口	47,647	45,982	43,811	41,246	38,422	35,376	9.8
市街地の人口 ※100mメッシュの 合計値	49,018	47,606	45,304	42,598	39,653	36,482	10.8
カバー率	97.2%	96.6%	96.7%	96.8%	96.9%	97.0%	91.5%

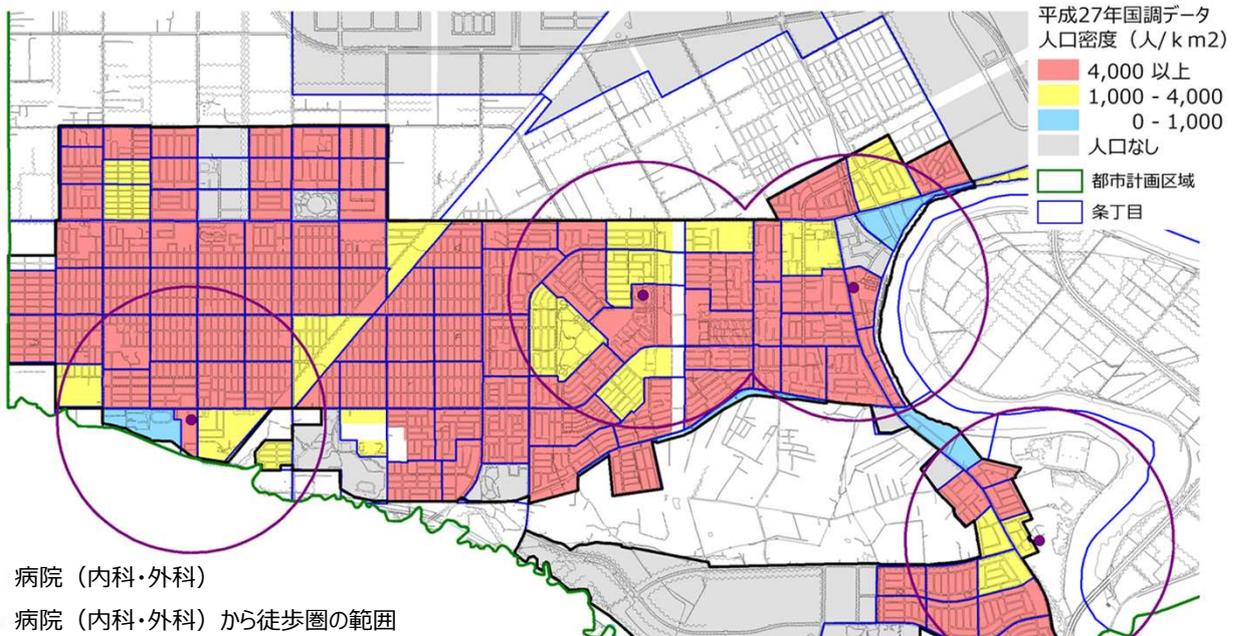
資料：平成27（2015）年国勢調査  
国立社会保障・人口問題研究所  
「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

1.⑤買い物施設から徒歩圏の範囲 (スーパーから800m・コンビニから500m)



資料：平成27 (2015) 年国勢調査

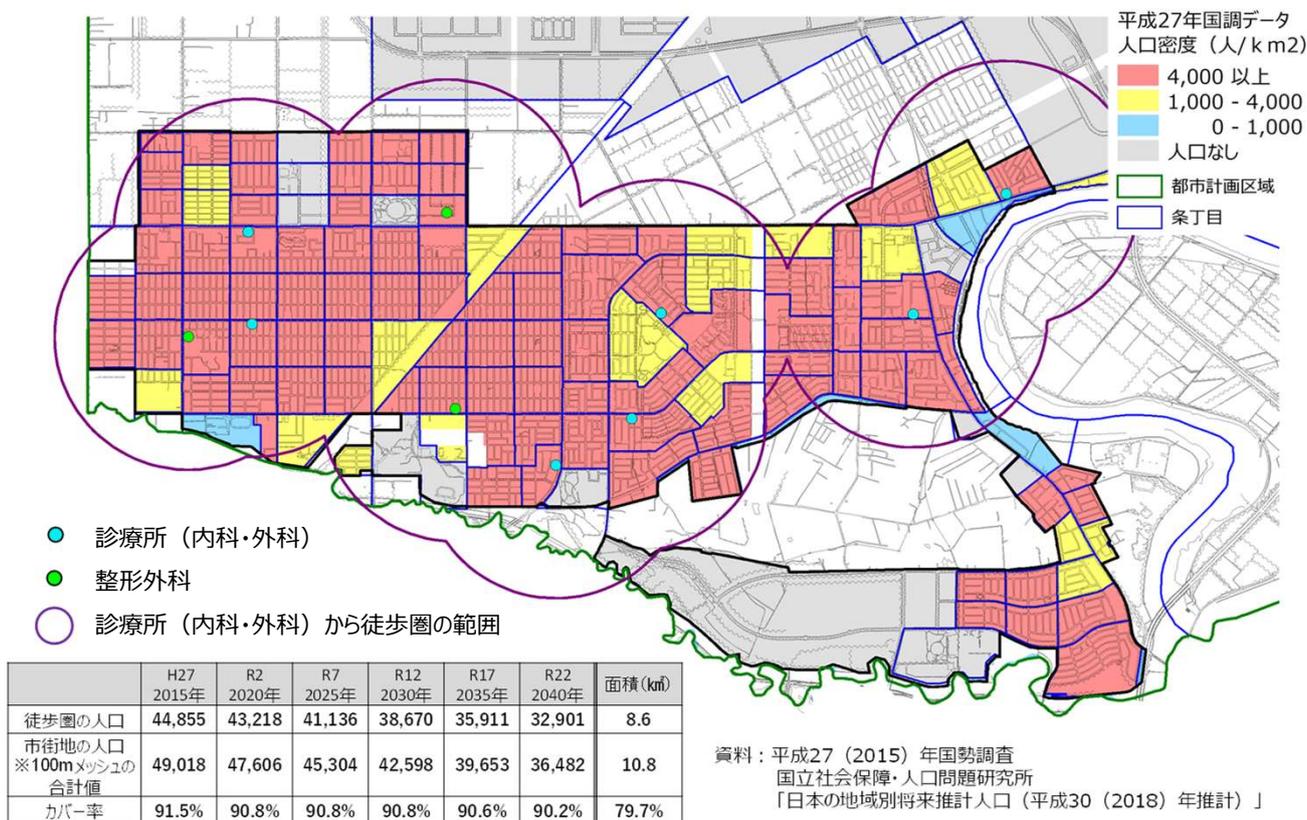
2.①医療施設 (病院) から徒歩圏 (800m) の範囲



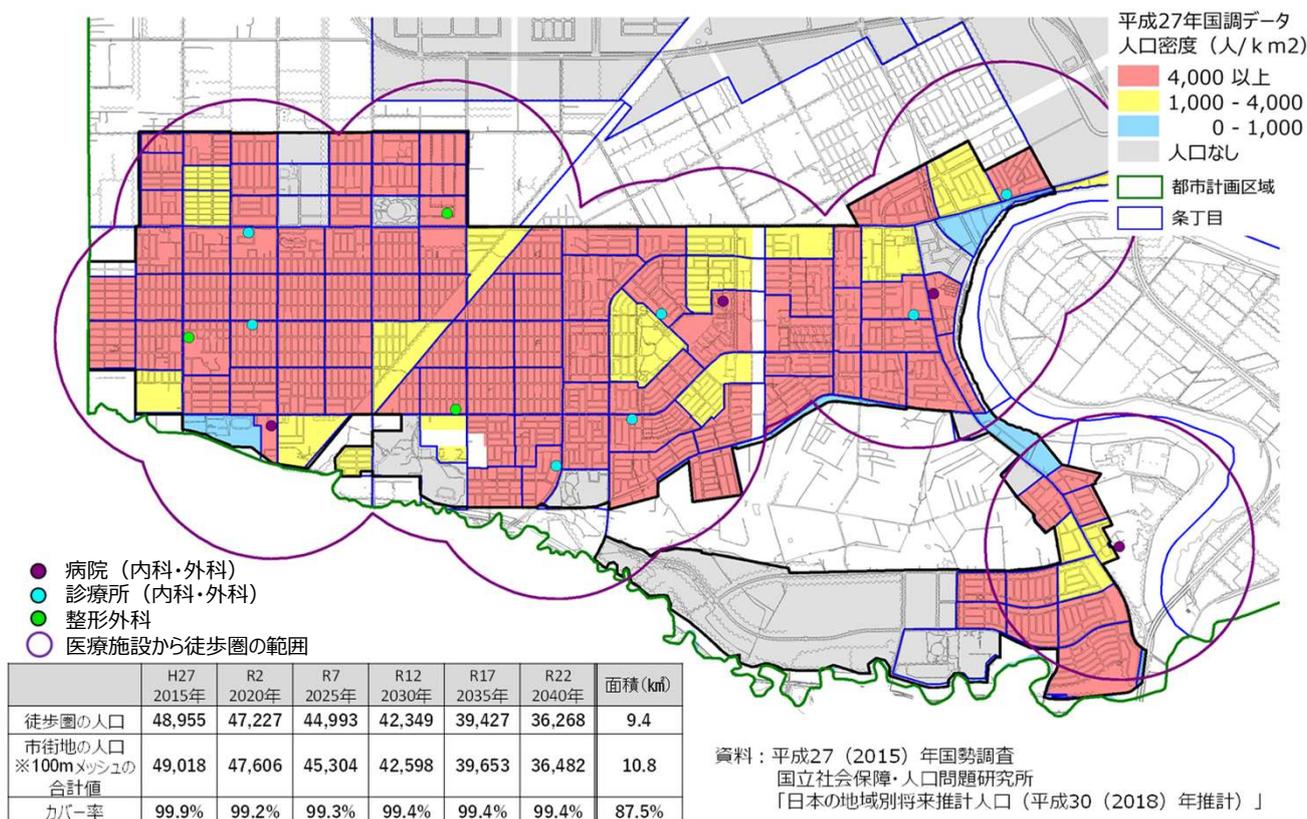
	H27 2015年	R2 2020年	R7 2025年	R12 2030年	R17 2035年	R22 2040年	面積 (km <sup>2</sup> )
徒歩圏の人口	24,470	23,440	22,174	20,714	19,151	17,511	4.7
市街地の人口 ※100mメッシュの 合計値	49,018	47,606	45,304	42,598	39,653	36,482	10.8
カバー率	49.9%	49.2%	48.9%	48.6%	48.3%	48.0%	43.7%

資料：平成27 (2015) 年国勢調査  
 国立社会保障・人口問題研究所  
 「日本の地域別将来推計人口 (平成30 (2018) 年推計)」

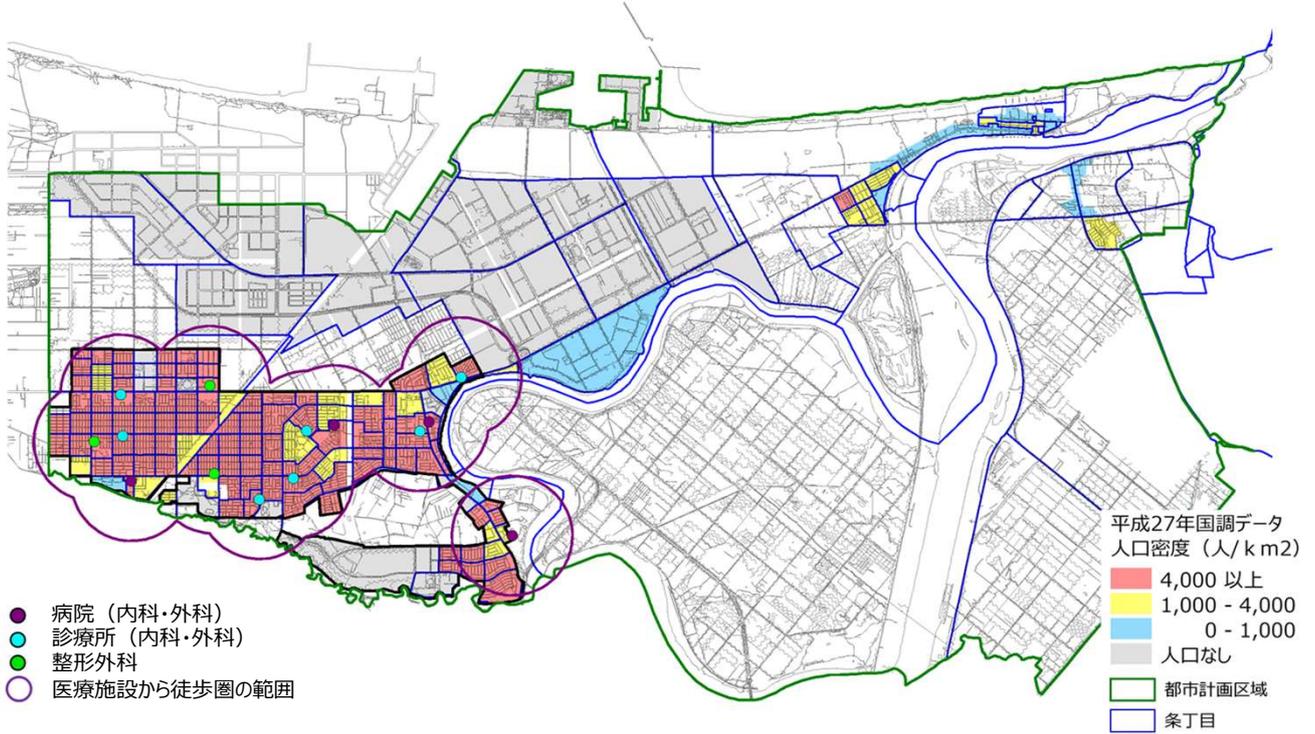
## 2.②医療施設（診療所・整形外科）から徒歩圏（800m）の範囲



## 2.③医療施設から徒歩圏（800m）の範囲

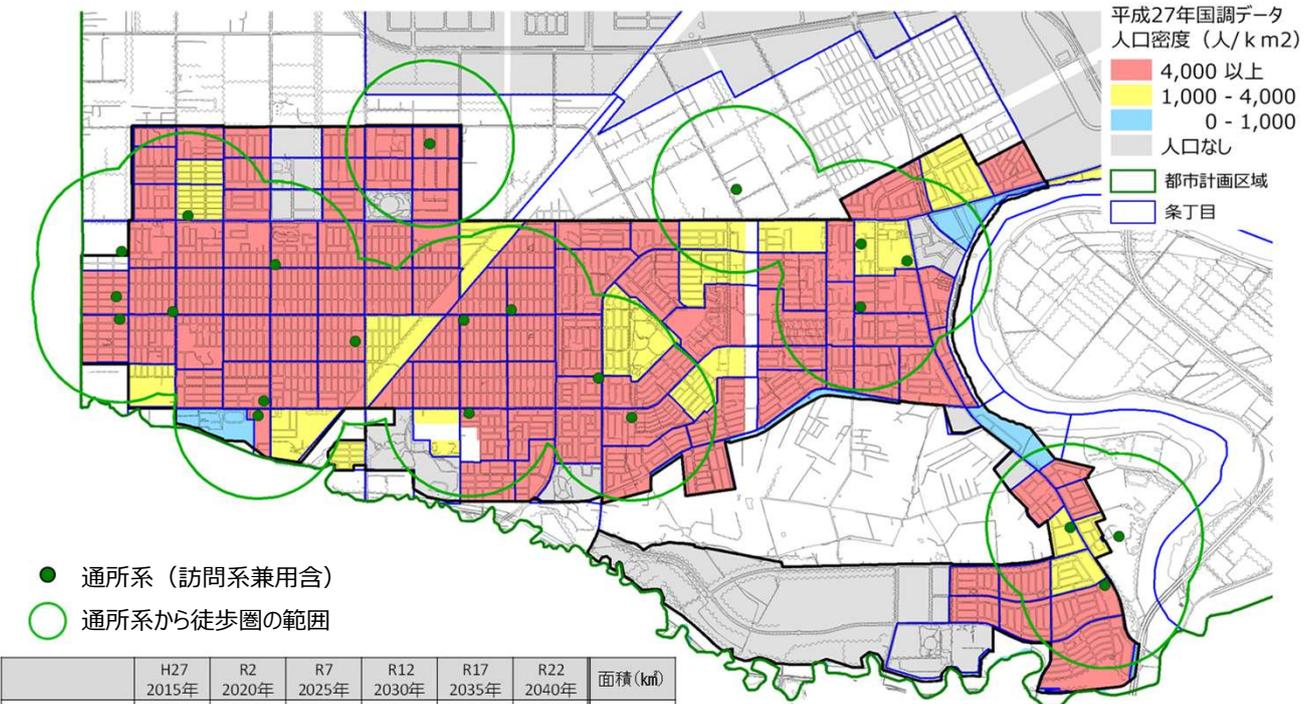


2.④医療施設から徒歩圏（800m）の範囲



資料：平成27（2015）年国勢調査

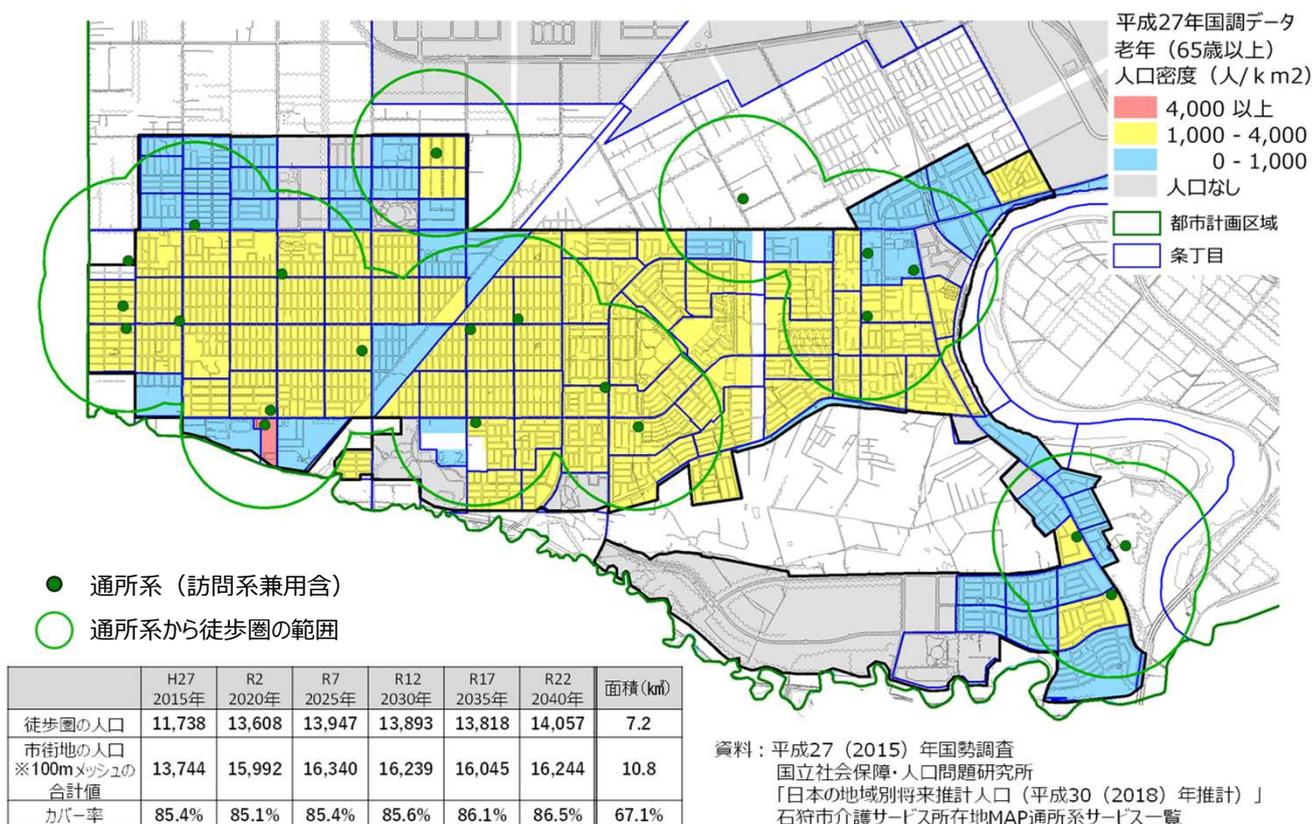
3.①福祉施設（通所系）から徒歩圏（500m）の範囲



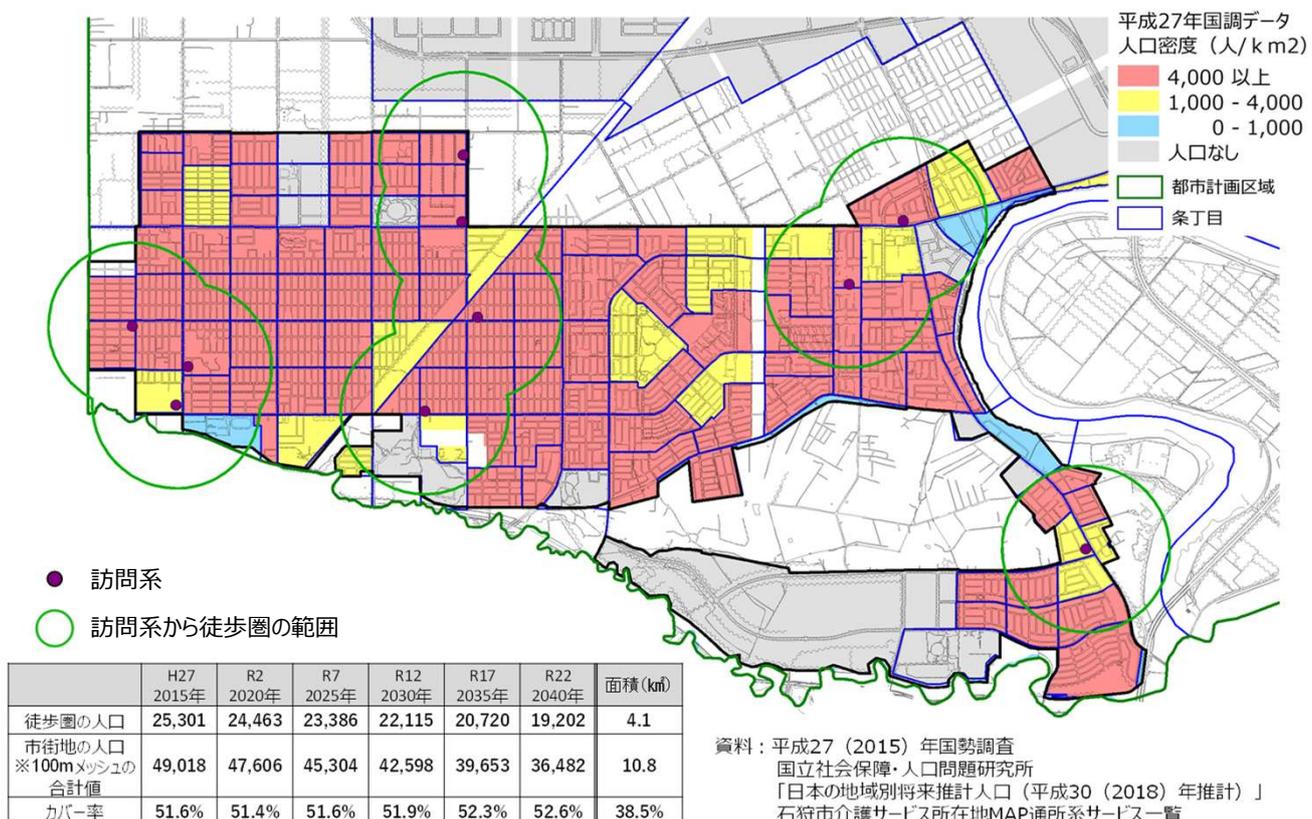
	H27 2015年	R2 2020年	R7 2025年	R12 2030年	R17 2035年	R22 2040年	面積 (km <sup>2</sup> )
徒歩圏の人口	42,949	41,481	39,574	37,307	34,788	32,067	7.2
市街地の人口 ※100mメッシュの 合計値	49,018	47,606	45,304	42,598	39,653	36,482	10.8
カバー率	87.6%	87.1%	87.4%	87.6%	87.7%	87.9%	67.1%

資料：平成27（2015）年国勢調査  
 国立社会保障・人口問題研究所  
 「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」  
 石狩市介護サービス所在地MAP通所系サービス一覧

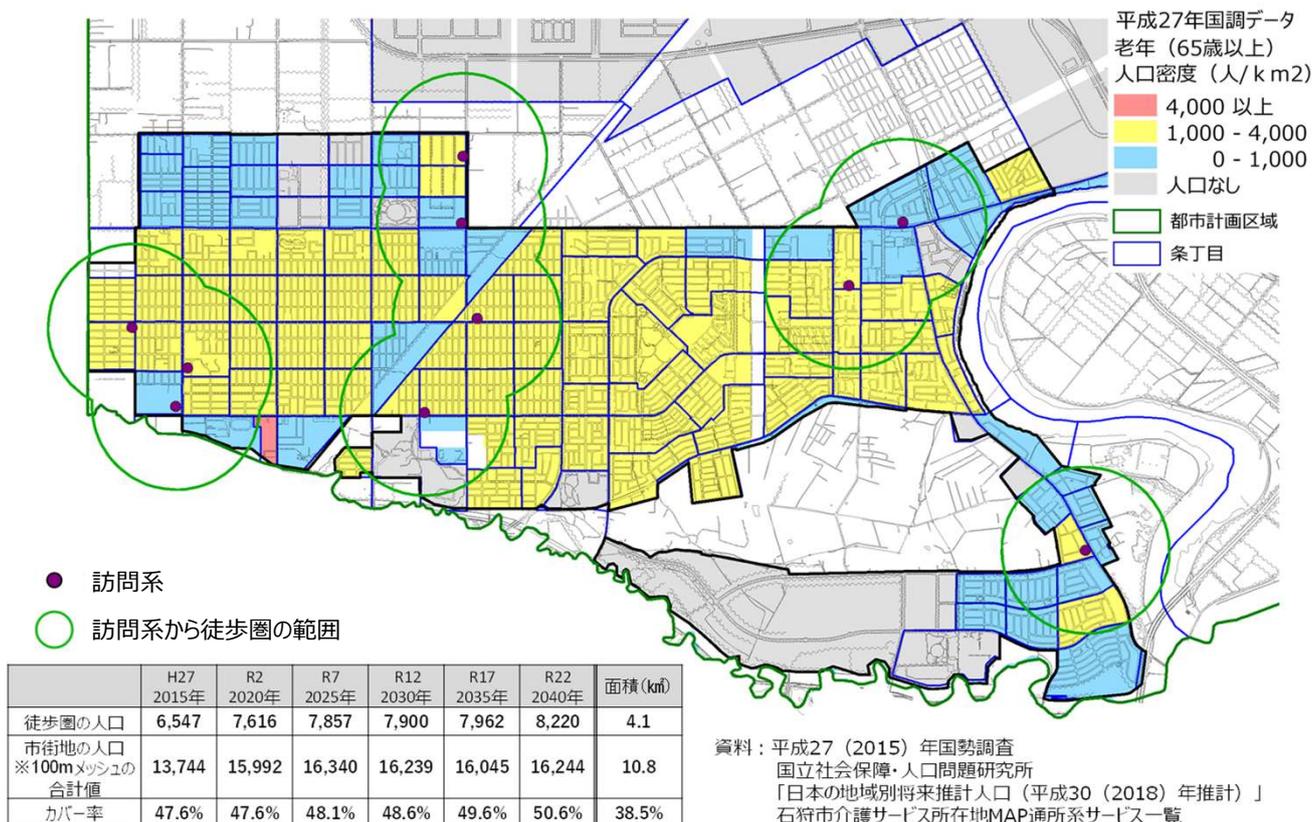
### 3.②福祉施設（通所系）から徒歩圏（500m）の範囲



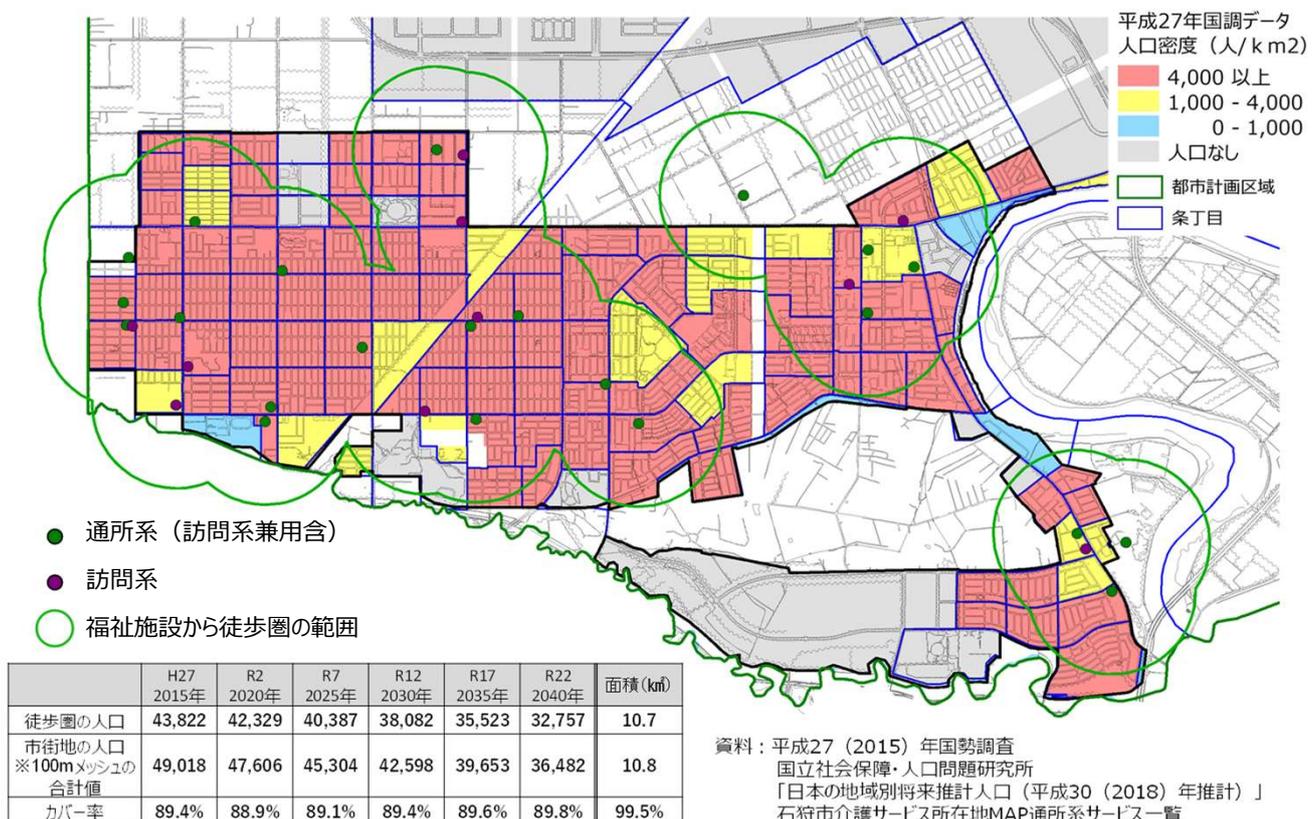
### 3.③福祉施設（訪問系）から徒歩圏（500m）の範囲



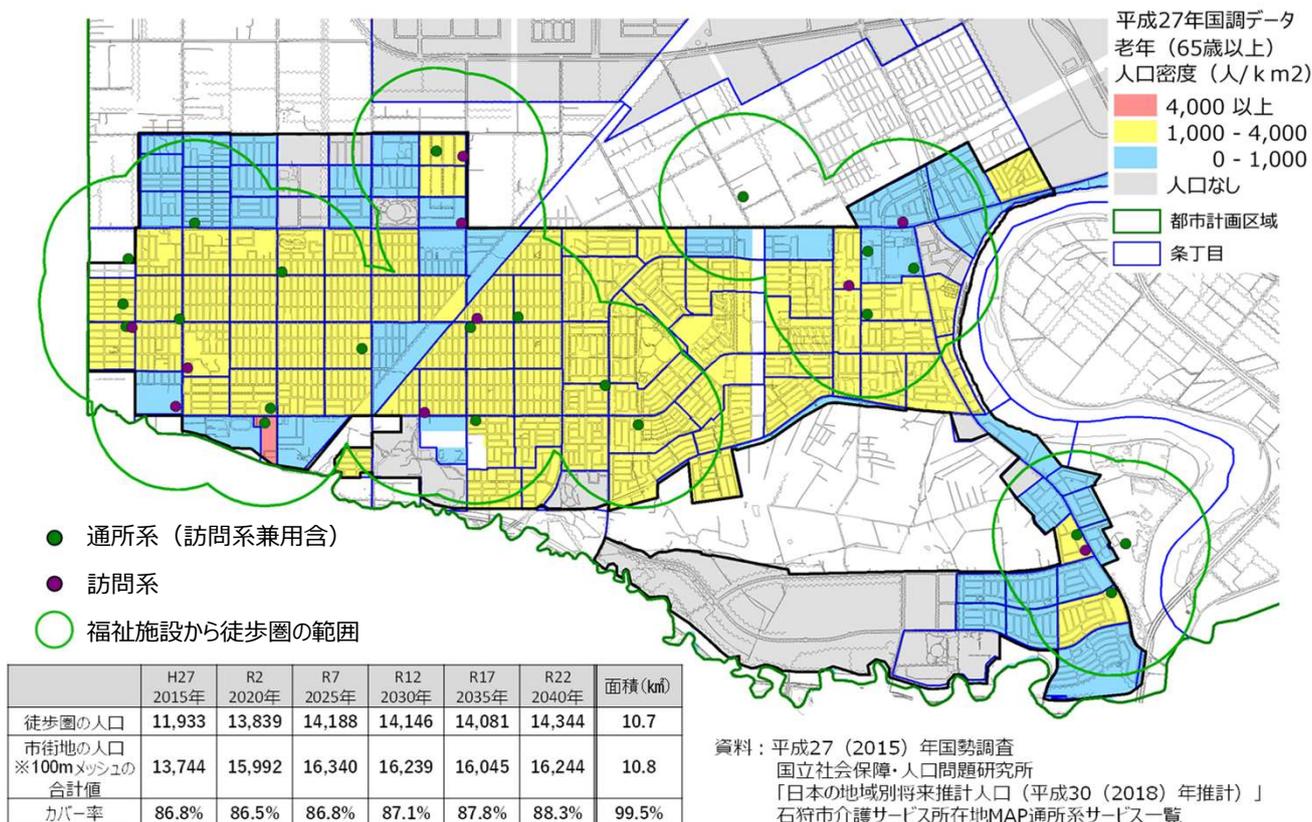
### 3.④福祉施設（訪問系）から徒歩圏（500m）の範囲



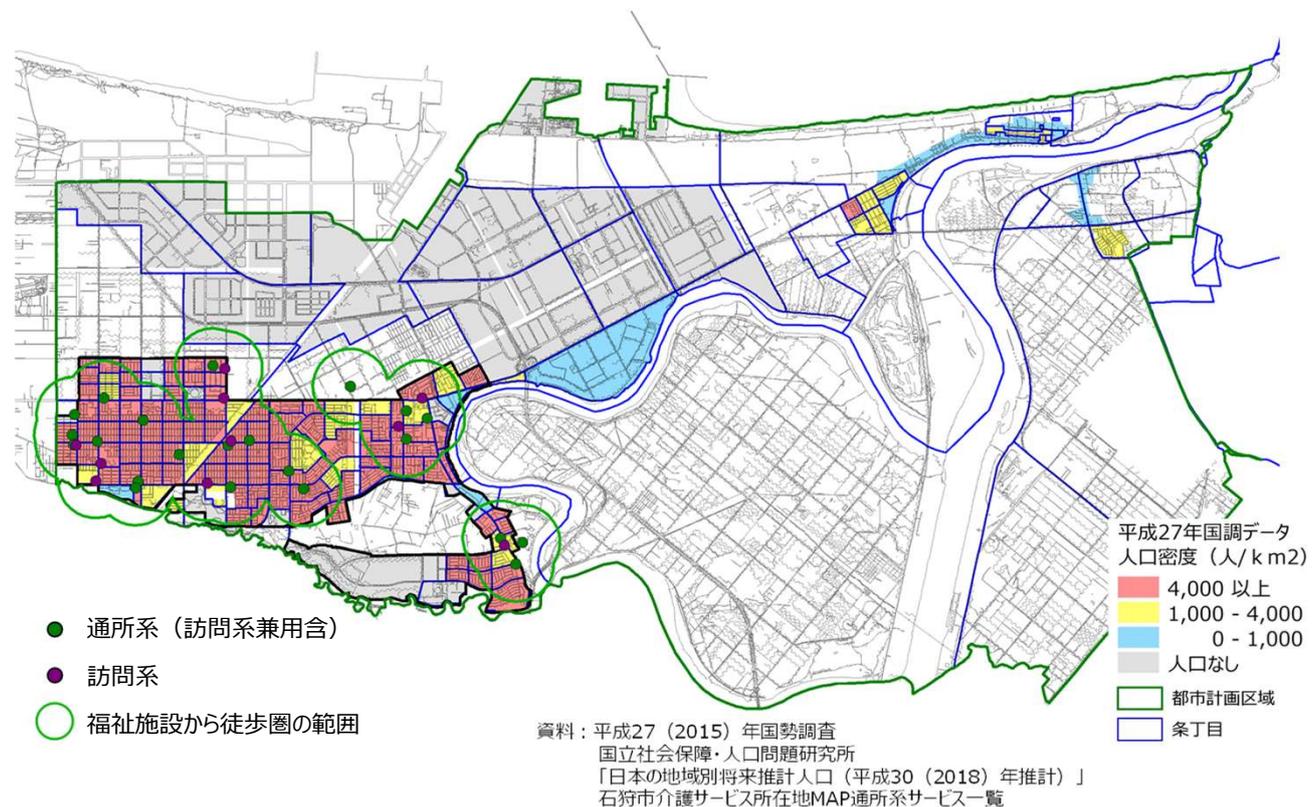
### 3.⑤福祉施設から徒歩圏（500m）の範囲



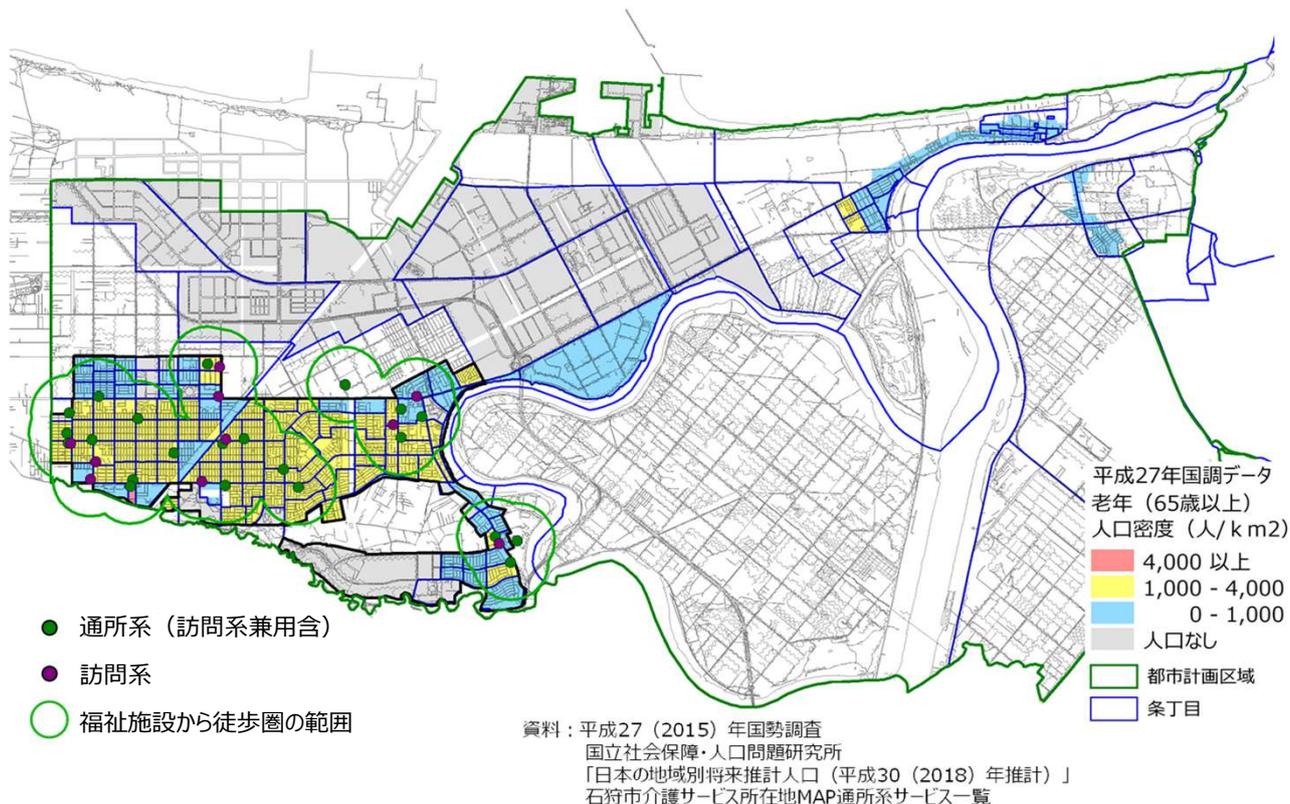
### 3.⑥福祉施設から徒歩圏（500m）の範囲



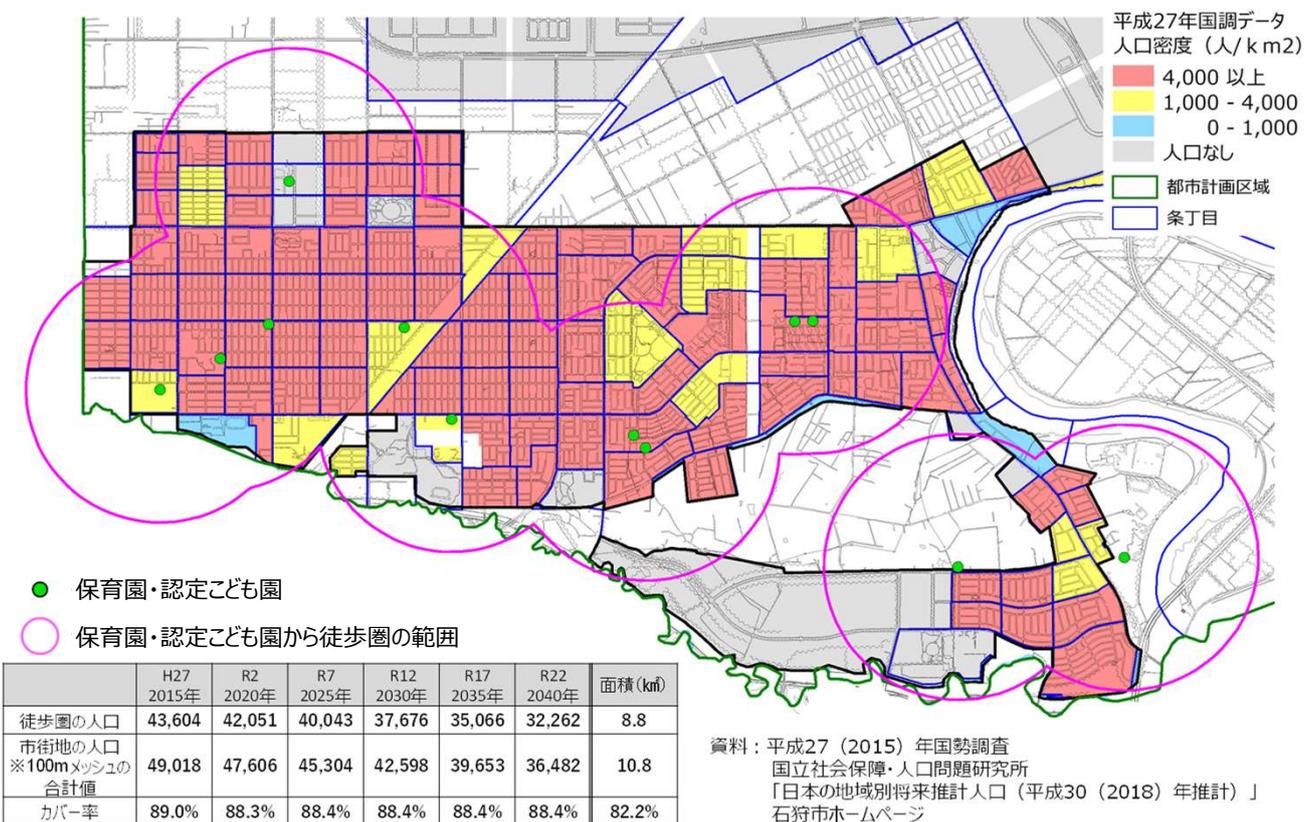
### 3.⑦福祉施設から徒歩圏（500m）の範囲



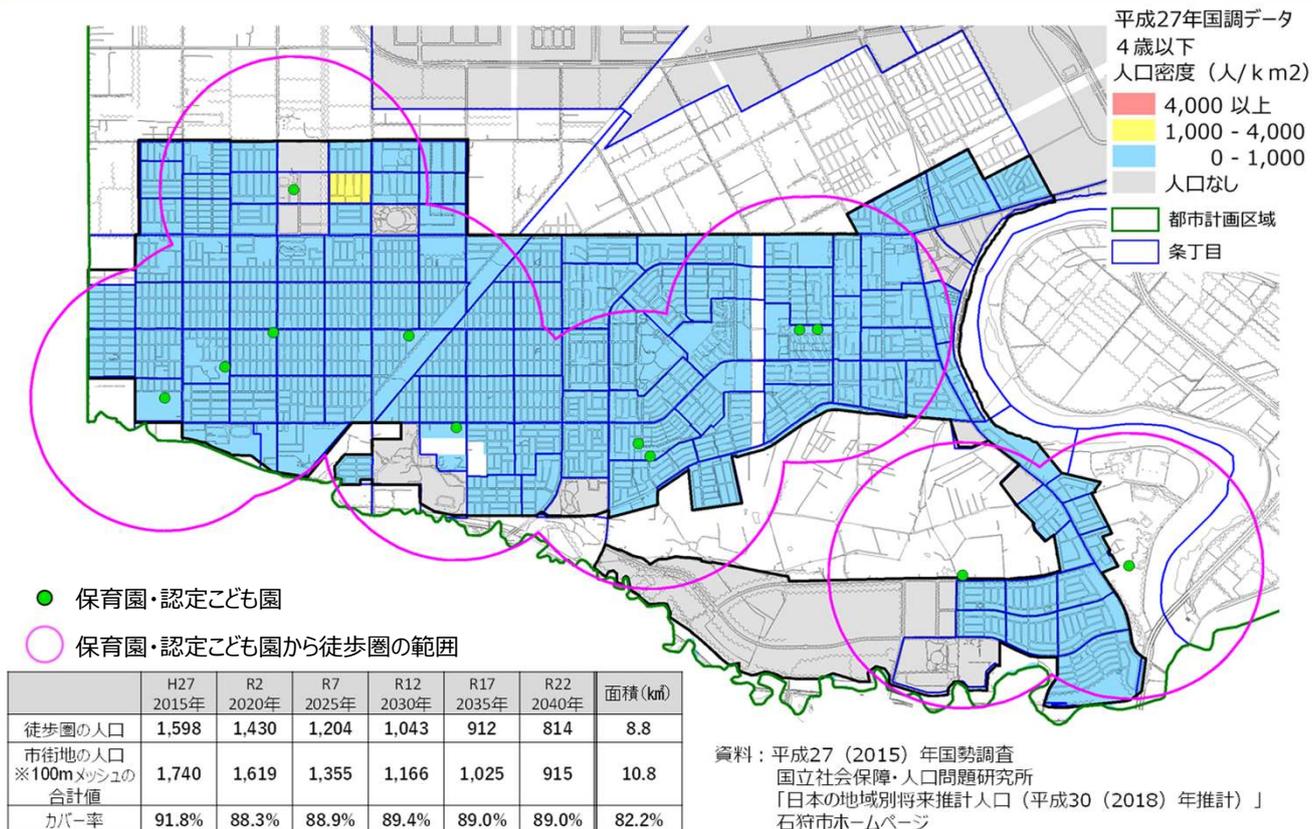
### 3.⑧福祉施設から徒歩圏（500m）の範囲



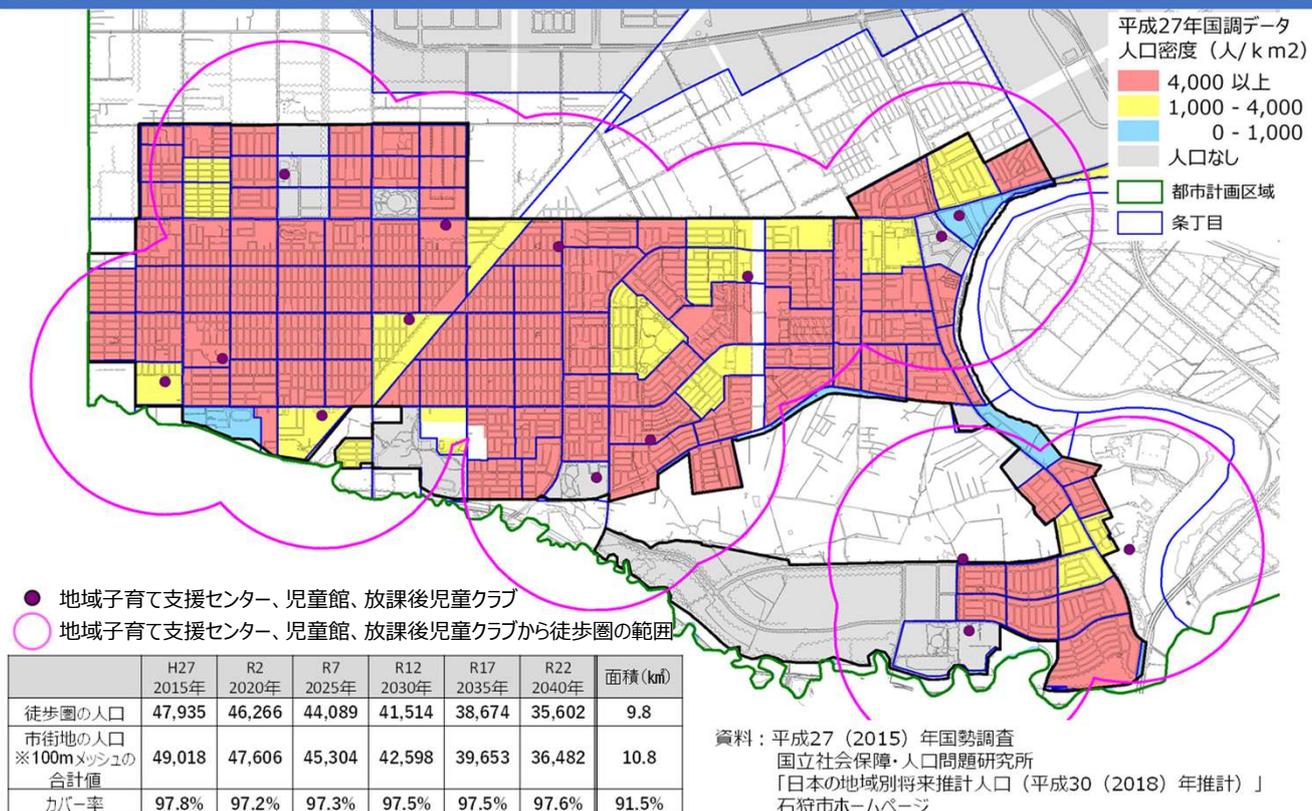
### 4.①子育て支援施設（保育園・認定こども園）から徒歩圏（800m）の範囲



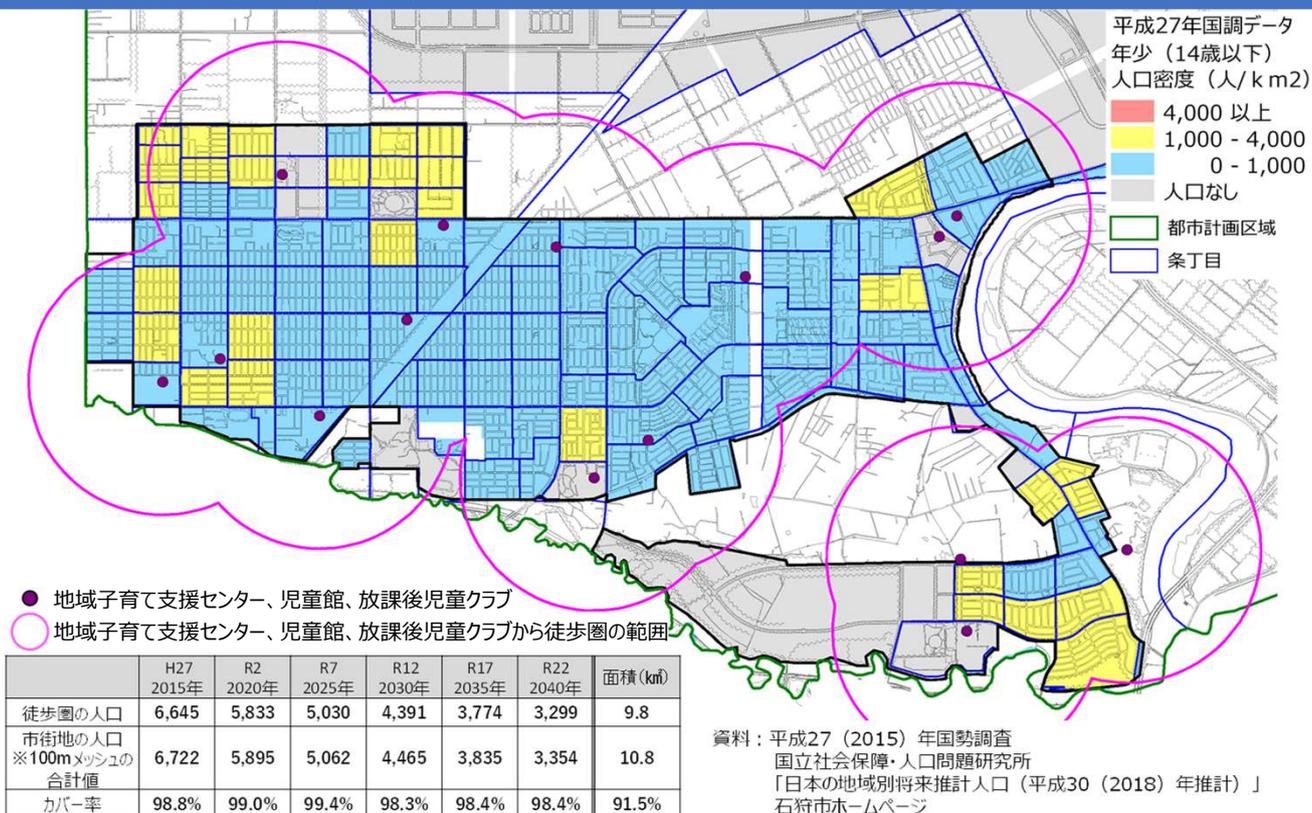
### 4.②子育て支援施設（保育園・認定こども園）から徒歩圏（800m）の範囲



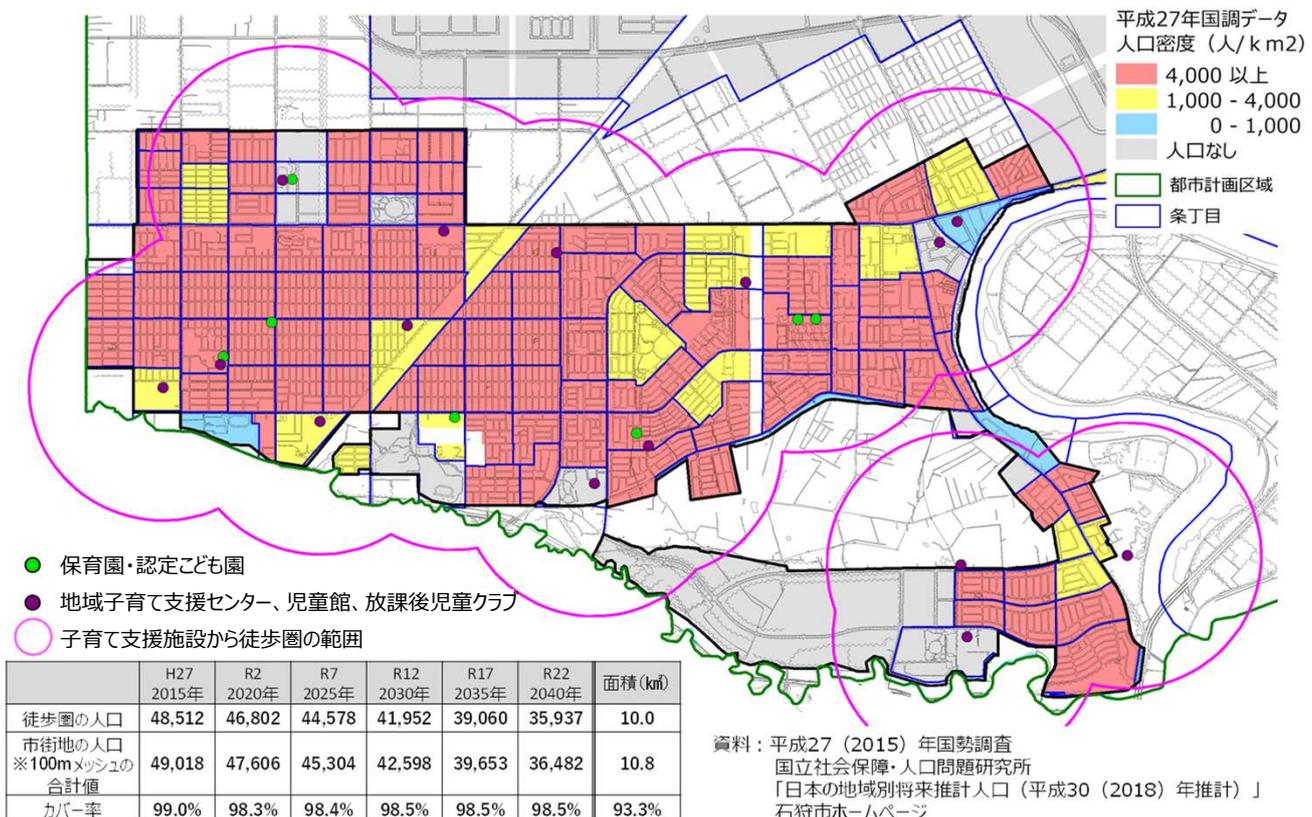
### 4.③子育て支援施設（地域子育て支援センター、児童館、放課後児童クラブ）から徒歩圏（800m）の範囲



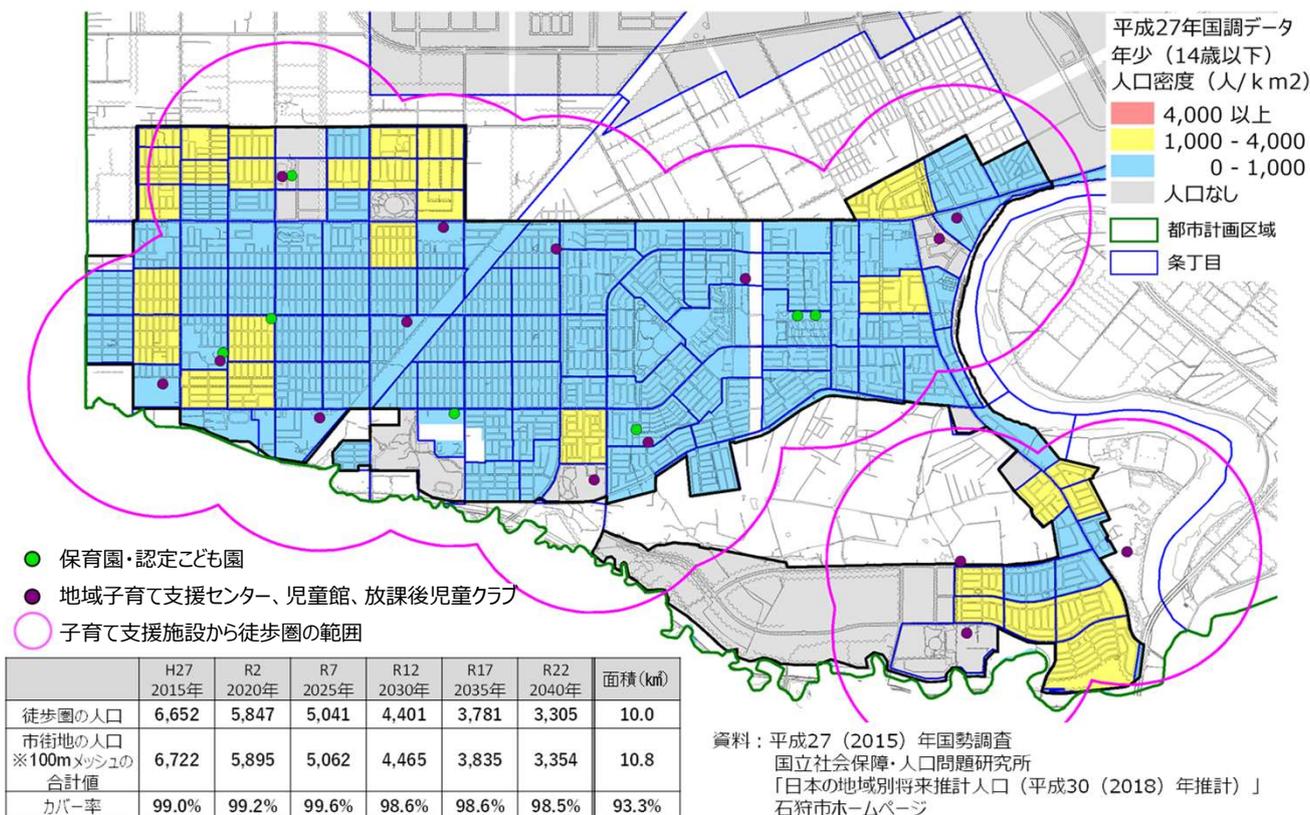
### 4.④子育て支援施設（地域子育て支援センター、児童館、放課後児童クラブ）から徒歩圏（800m）の範囲



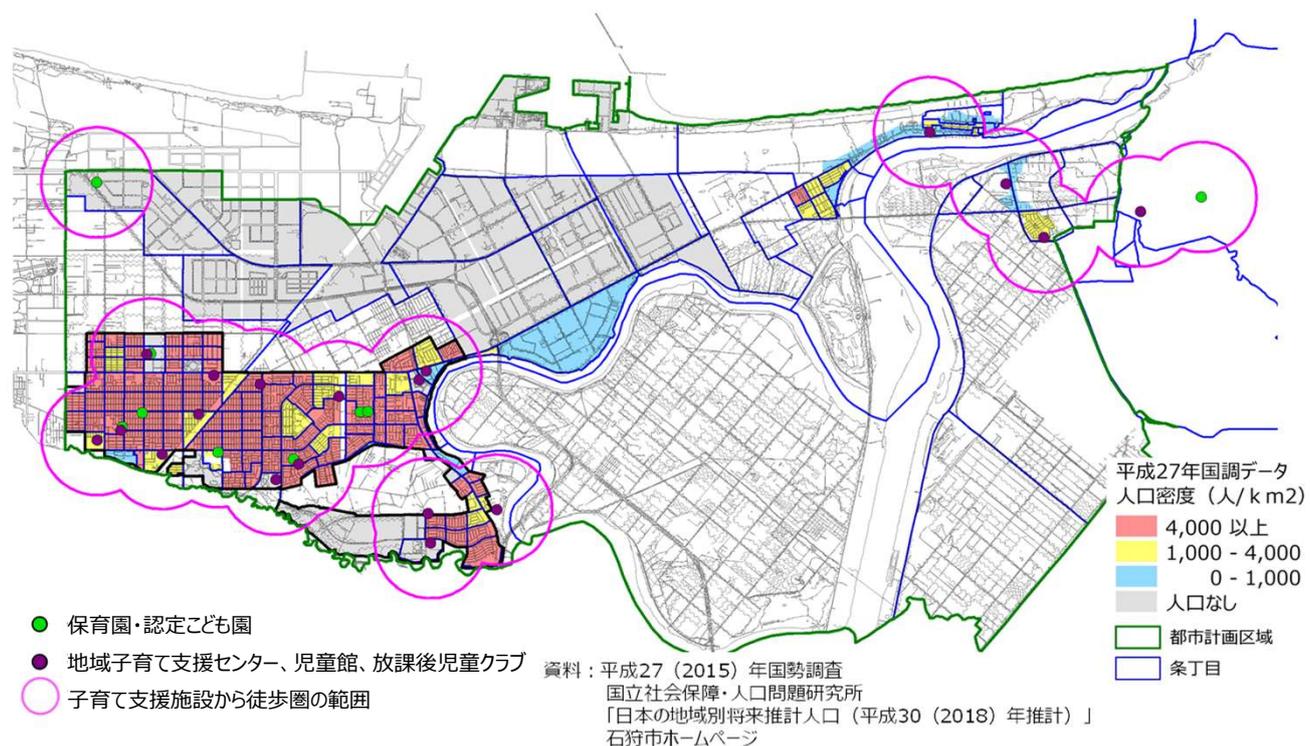
### 4.⑤子育て支援施設から徒歩圏（800m）の範囲



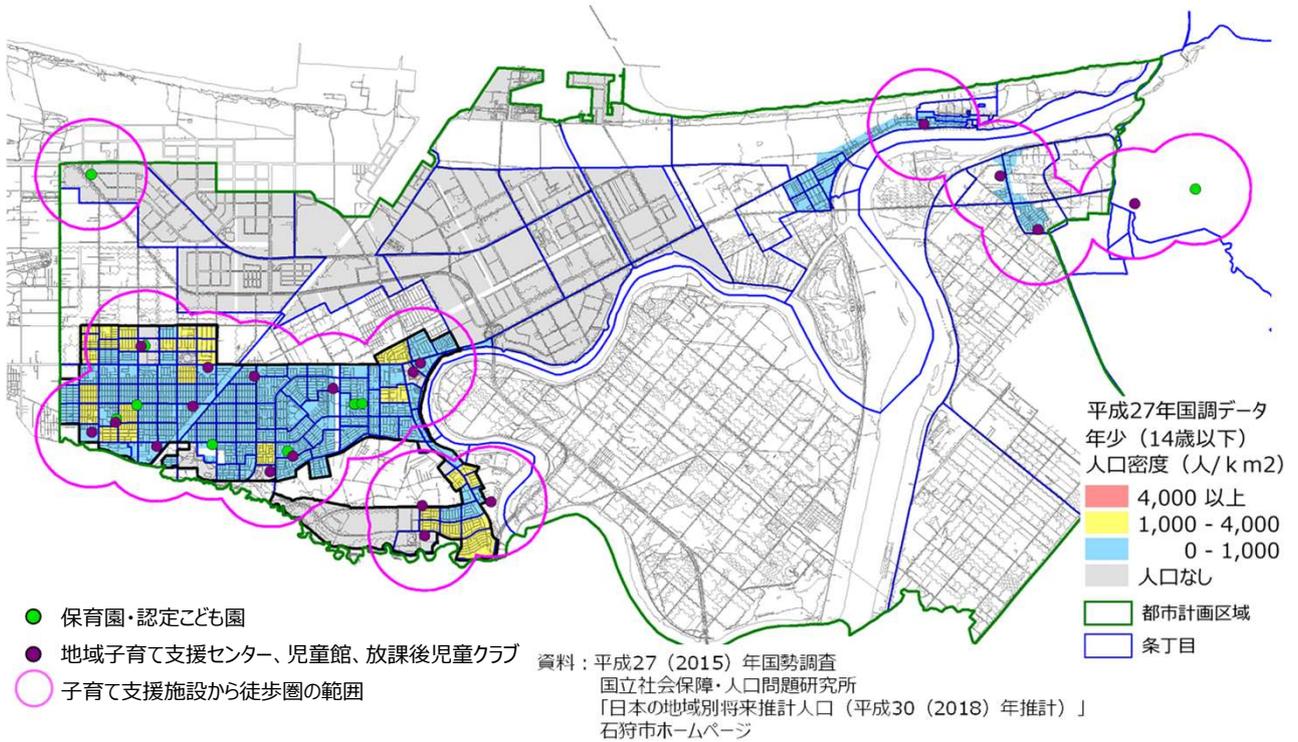
4.⑥子育て支援施設から徒歩圏（800m）の範囲



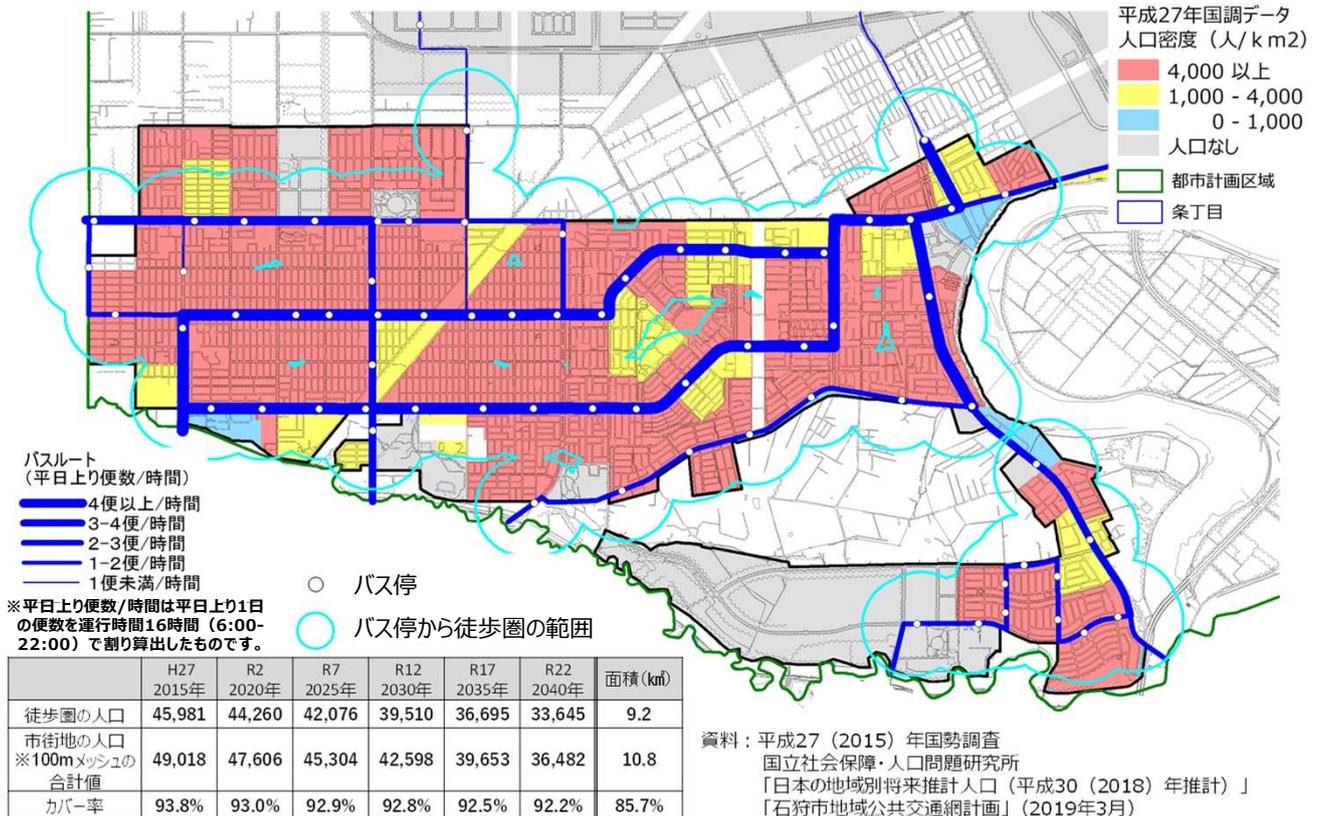
4.⑦子育て支援施設から徒歩圏（800m）の範囲



4.⑧子育て支援施設から徒歩圏（800m）の範囲

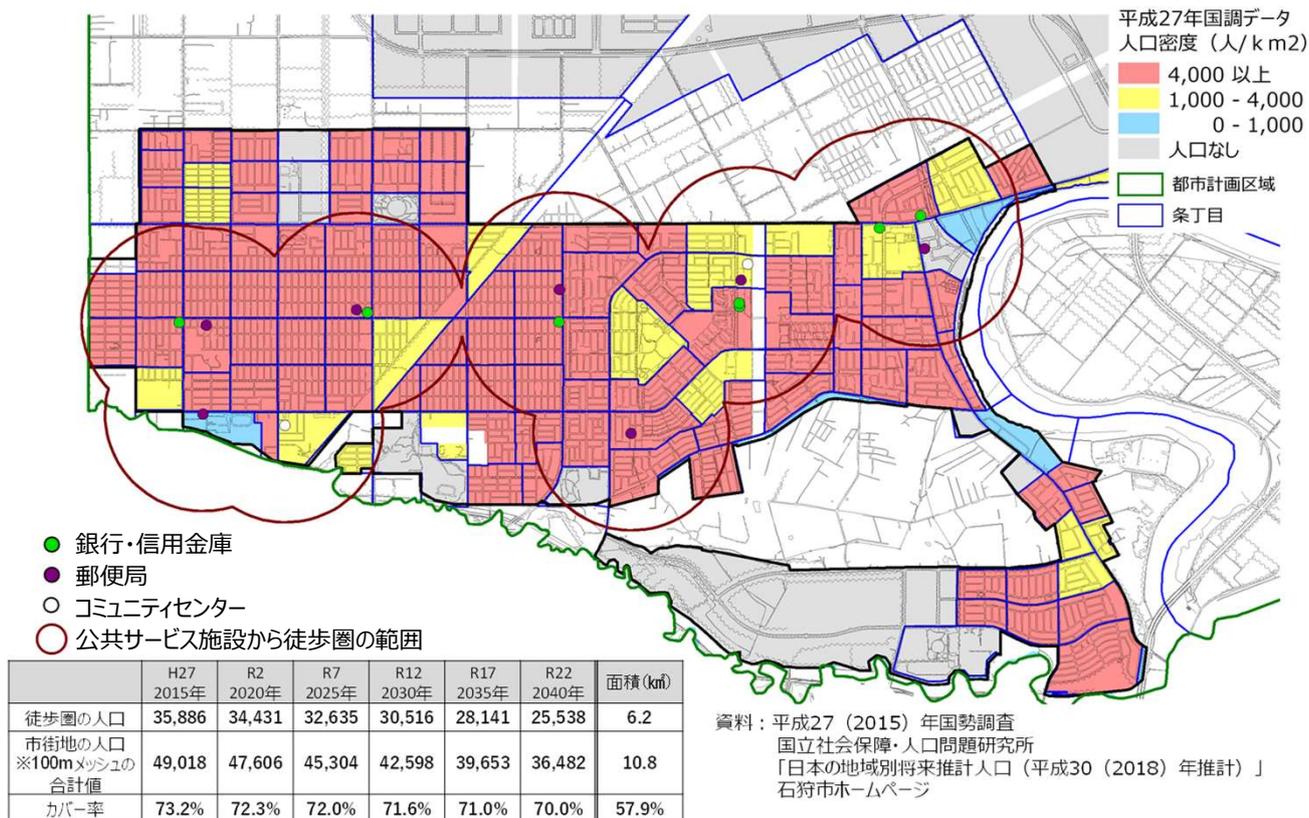


5.①バス停から徒歩圏（300m）の範囲



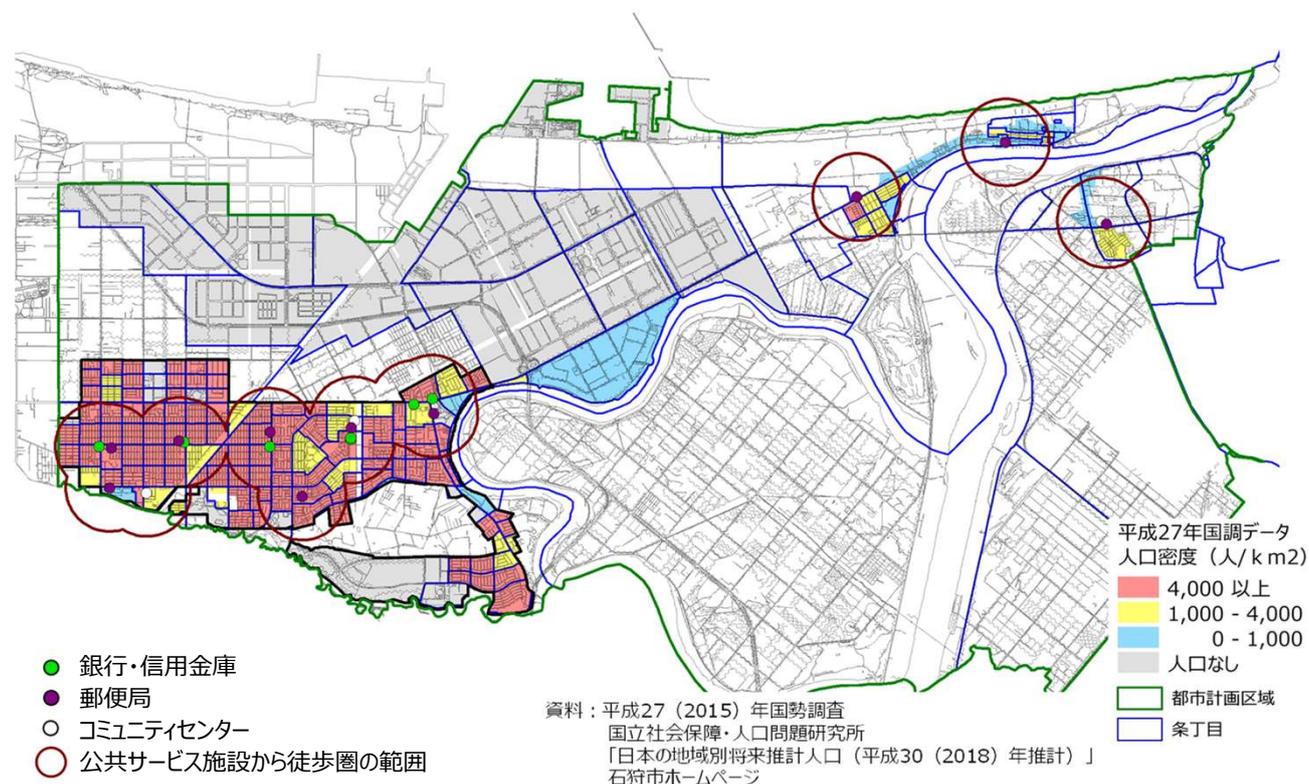
6.①公共サービス施設からの徒歩圏（800m）の範囲

【参考】

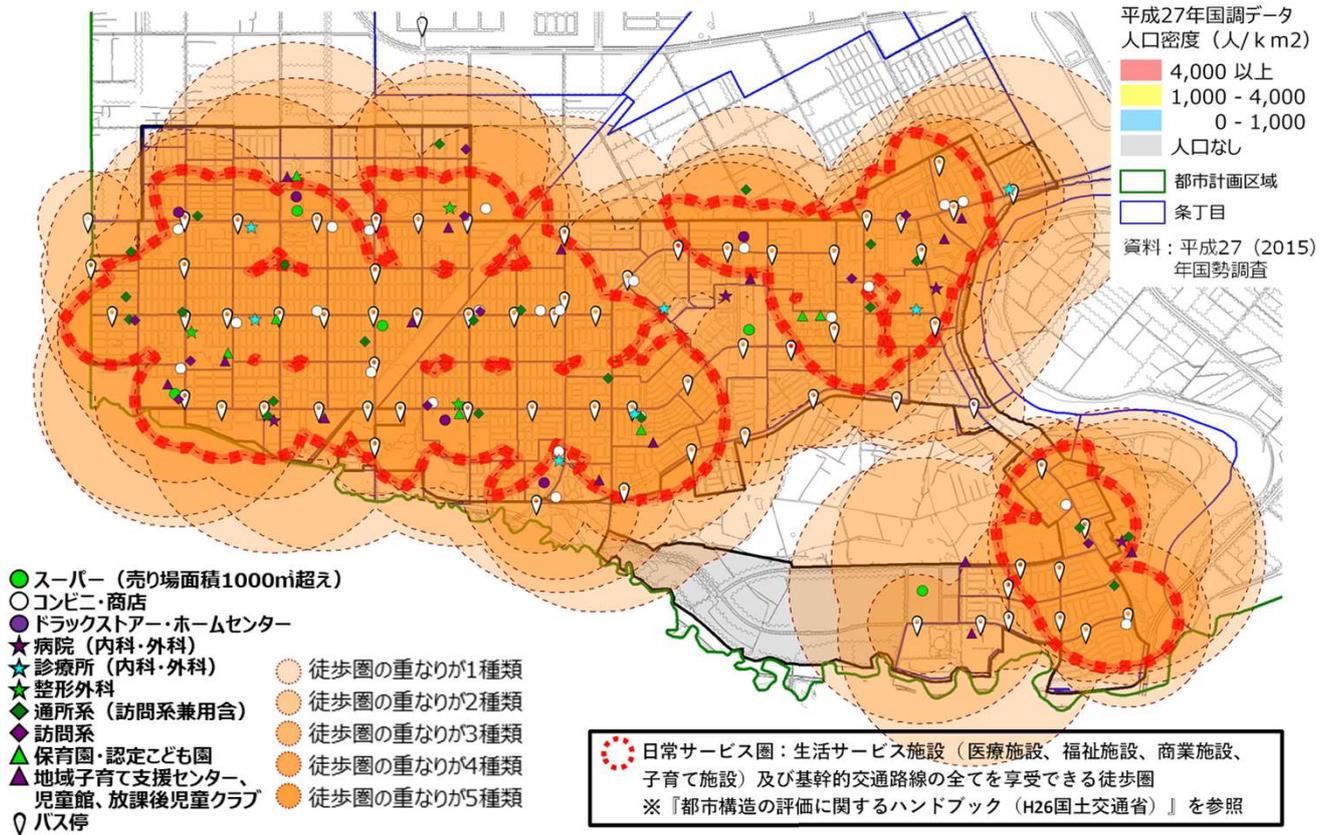


6.②公共サービス施設からの徒歩圏（800m）の範囲

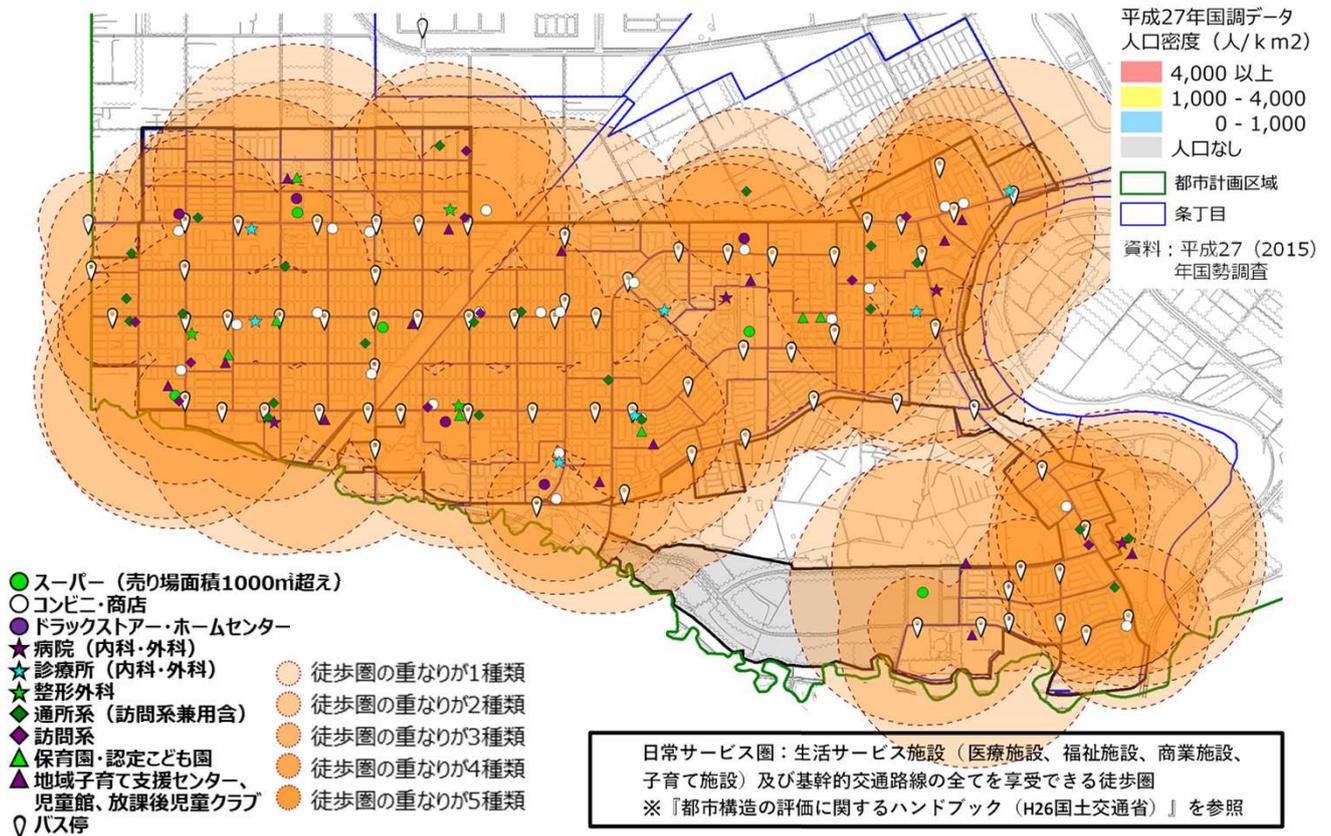
【参考】



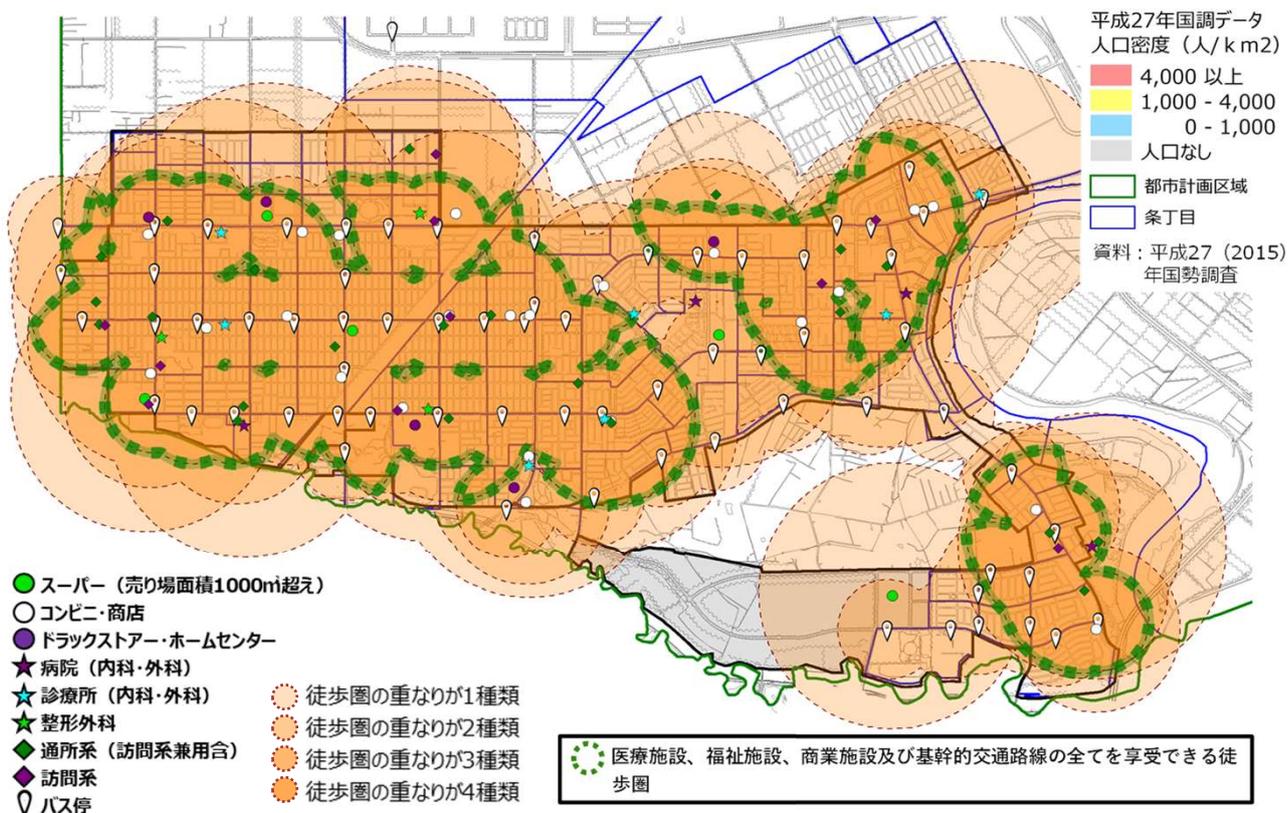
7.全施設からの徒歩圏の範囲 (1.⑤ 2.④ 3.⑦ 4.⑦ 5.①の徒歩圏の重ね図)



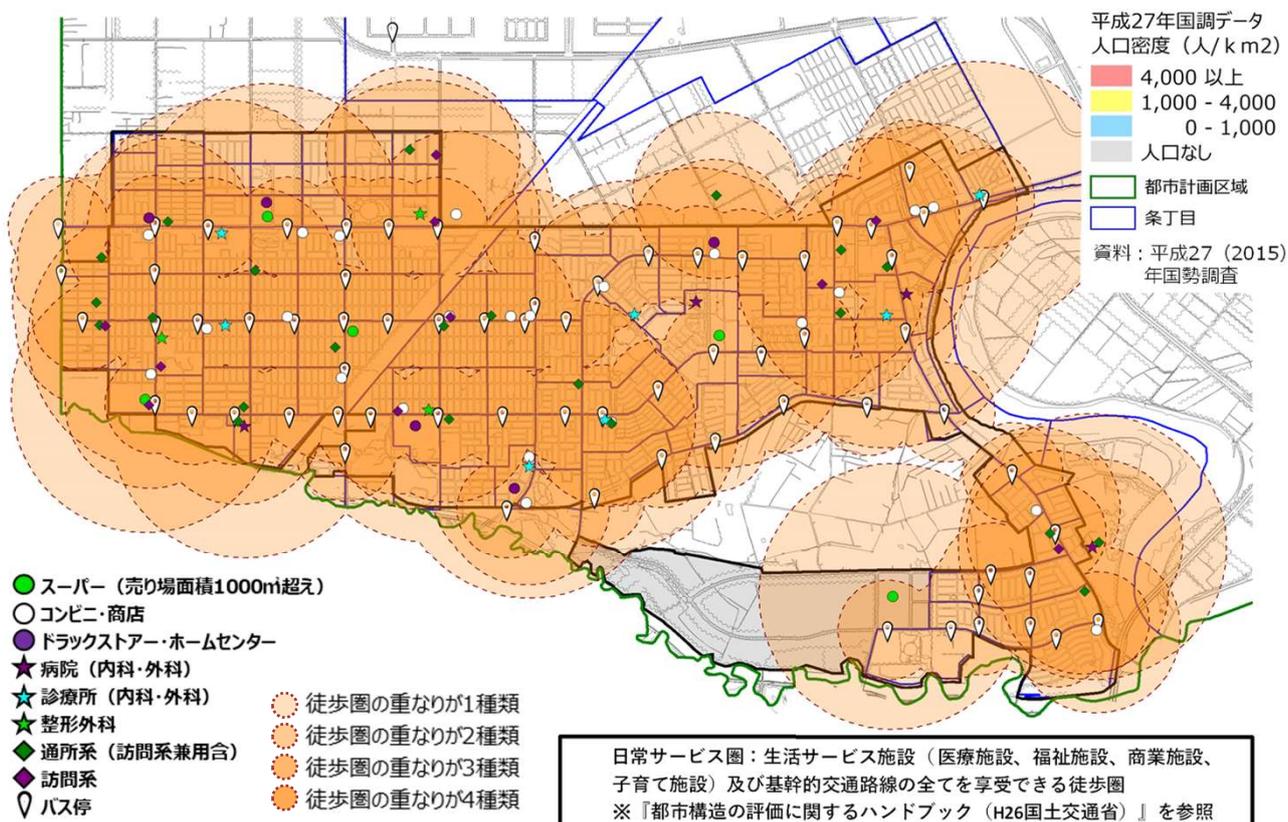
7.全施設からの徒歩圏の範囲



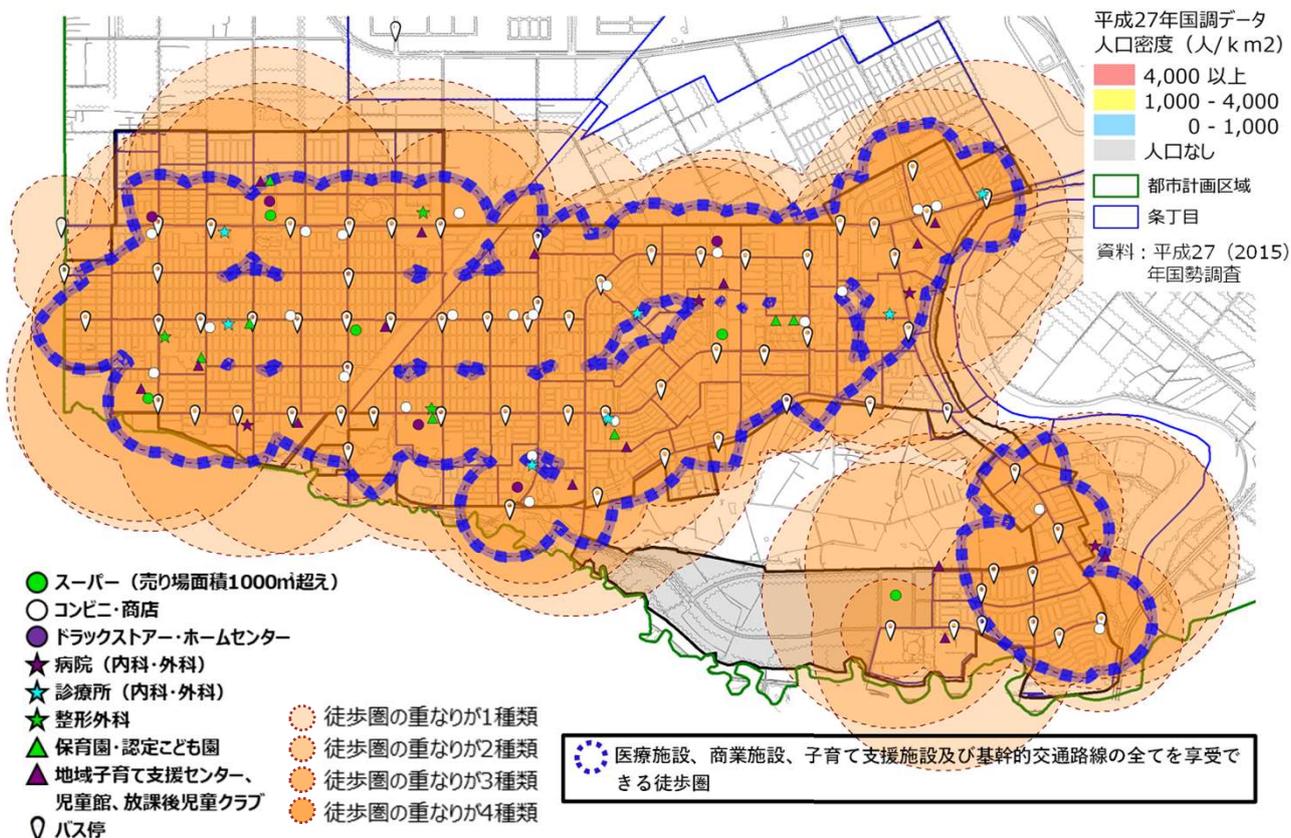
7.全施設からの徒歩圏の範囲（高齢者生活施設）（1.⑤ 2.④ 3.⑦ 5.①の徒歩圏の重ね図）



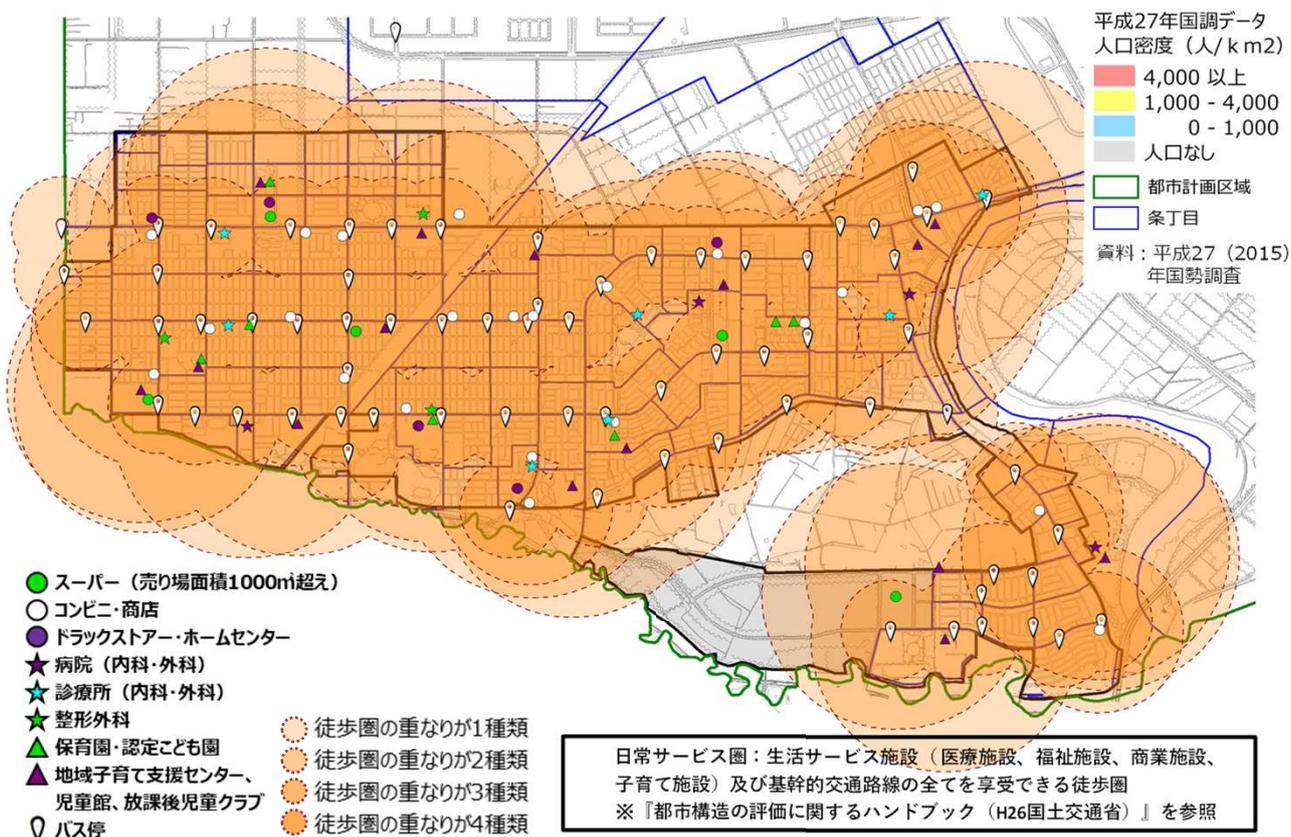
7.全施設からの徒歩圏の範囲（高齢者生活施設）



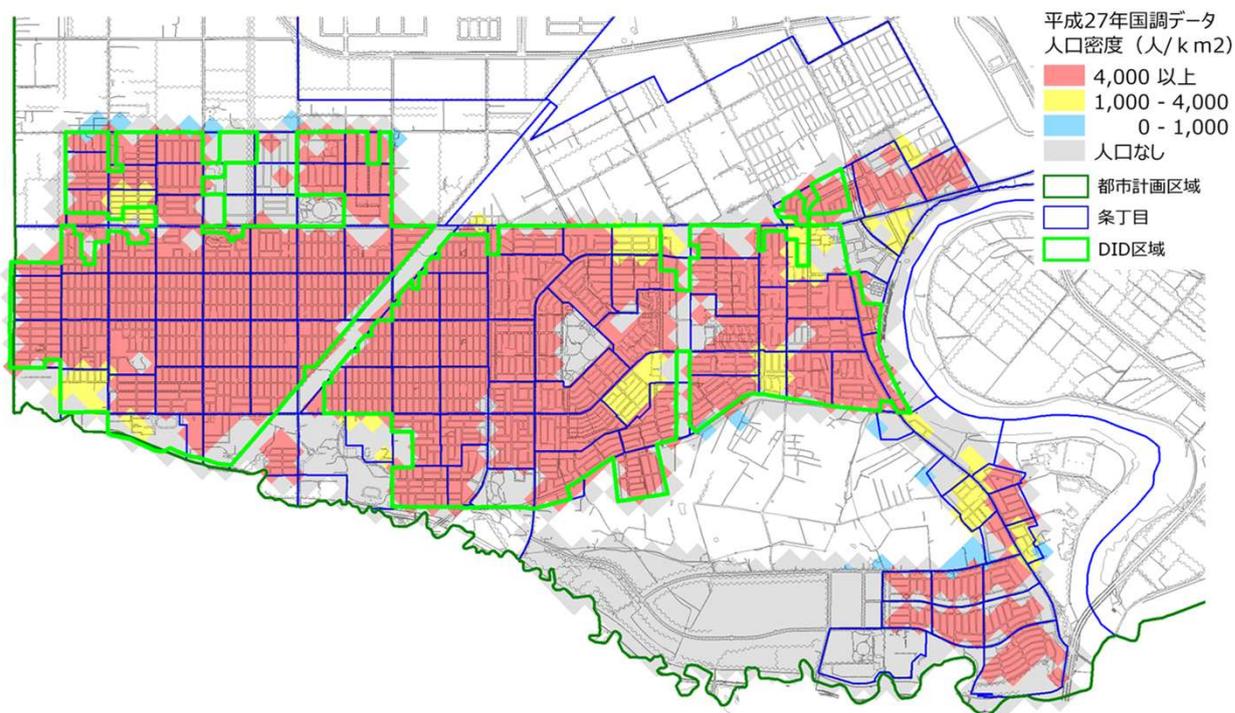
7.全施設からの徒歩圏の範囲（子育て生活施設）（1.⑤ 2.④ 4.⑦ 5.①の徒歩圏の重ね図）



7.全施設からの徒歩圏の範囲（子育て生活施設）



8. 100mメッシュの総括図及びD I D区域



資料：平成27（2015）年国勢調査  
 国立社会保障・人口問題研究所  
 「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」  
 石狩市ホームページ

